取扱説明書

ご使用のまえによくお読みください。

# BEAT

## Midship Amusement

HONDA

このたびはホンダ車をお買い上げいただき、
ありがとうございます。
この本は、BEATの取り扱いについて
必要事項を説明しています。
安全で快適なドライブをお楽しみいただくために、
ご使用前に必ずお読みください。

| 名称 | 型式 | エンジン型式 | 排気量(cm³) | 車体形状 |
|---|---|---|---|---|
| ビート | E-PP1 | E07A | 656 | 2ドアコンバーチブル |

●この本はドライバーの動作に沿って各部の取り扱いを説明し、また、装備、万一のときの応急処置、お車の手入れなど、必要な情報を説明しています。

●「安全ドライブのための必読6ポイント」や、

マークのところは重要です。しっかりお読みください。

●運転はルールを守り、マナーよく。
- シートベルトを締めましょう。
- 法定速度を守りましょう。
- 子供やお年寄りをいたわりましょう。
- 駐停車は、ルールに従いましょう。
- 迷惑運転はやめましょう。
- 自然環境保護に気をくばりましょう。

●安全、快適にご使用いただくために、点検整備は必ず行ってください。
●ご不明な点は、担当セールスマンにおたずねください。
●取扱説明書は別冊の「整備手帳」とともに、いつもお車に保管してください。
●お車をゆずられるときは、つぎに所有されるかたのために、この本を車につけておいてください。

車の仕様などの変更により、この本の内容と実車が一致しない場合がありますのでご了承ください。

# C O N T E N T S

名称別目次

動作別目次

万一のときの目次

安全ドライブのための必読6ポイント

ソフトトップの開閉

1．車を運転する前に

2．車を運転するとき

3．安全装備

4．ドライブを快適にする装備

5．万一のとき

6．車の手入れ

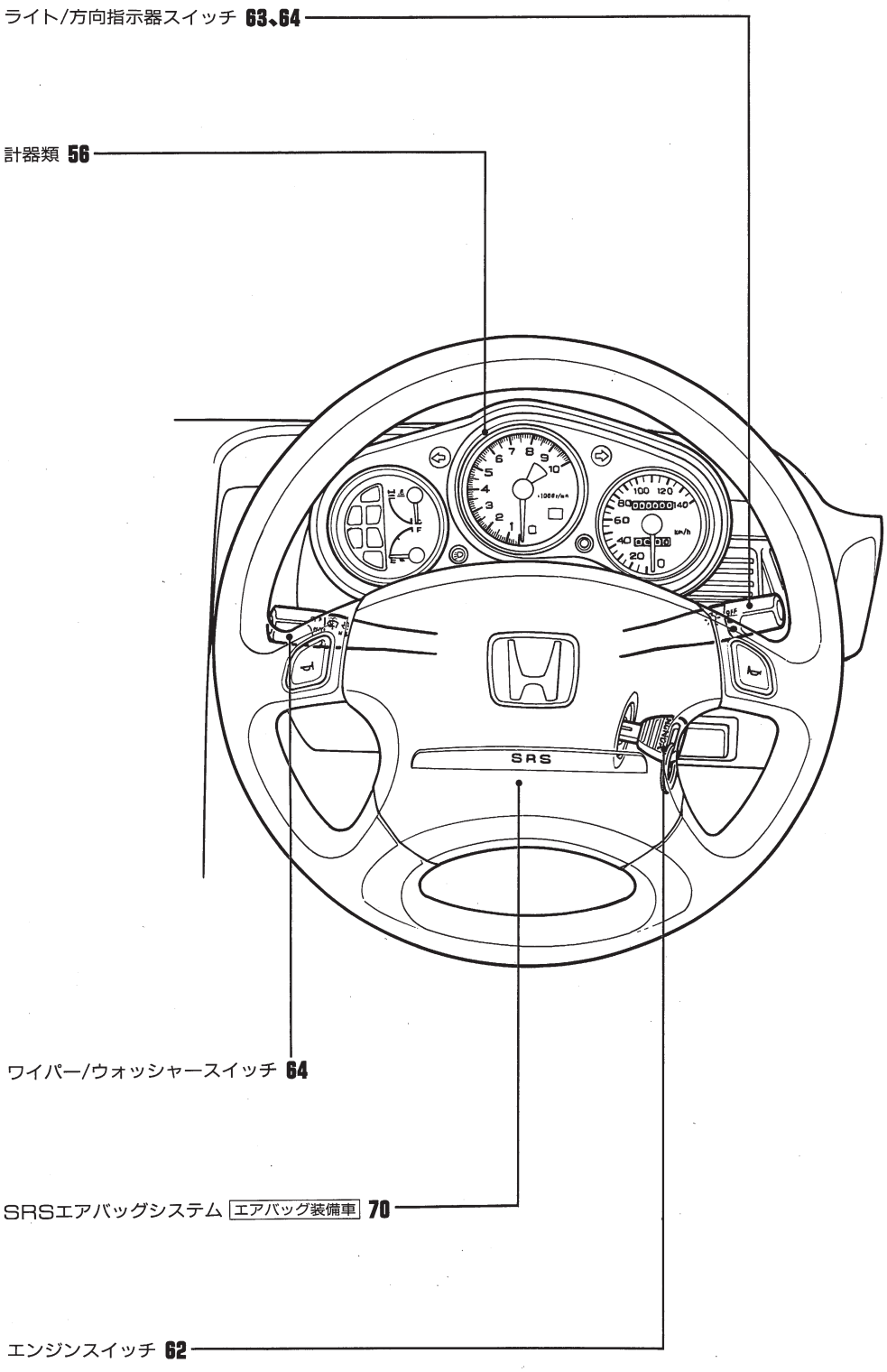
7．車との上手なつきあいかた

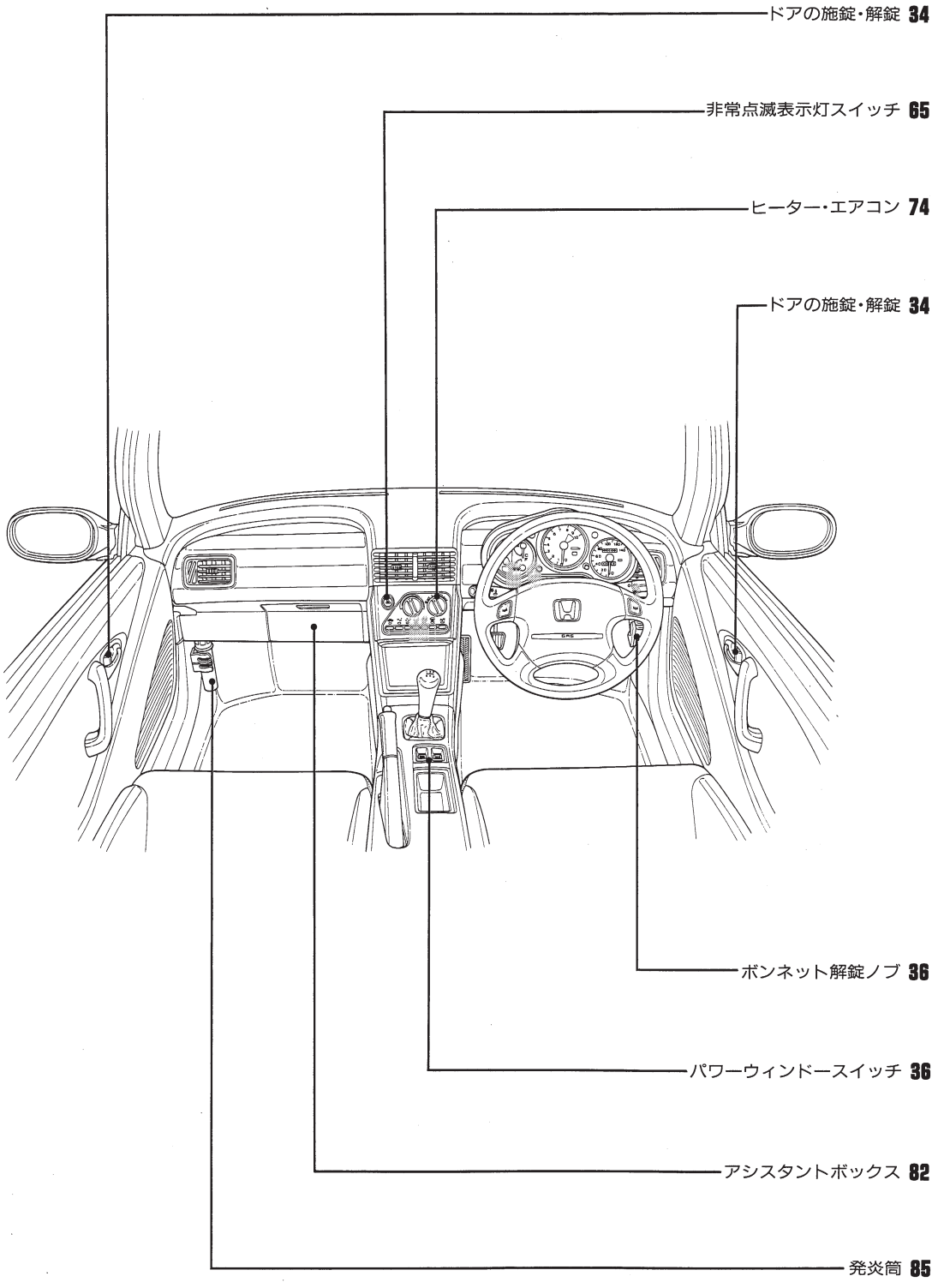
サービスデータ

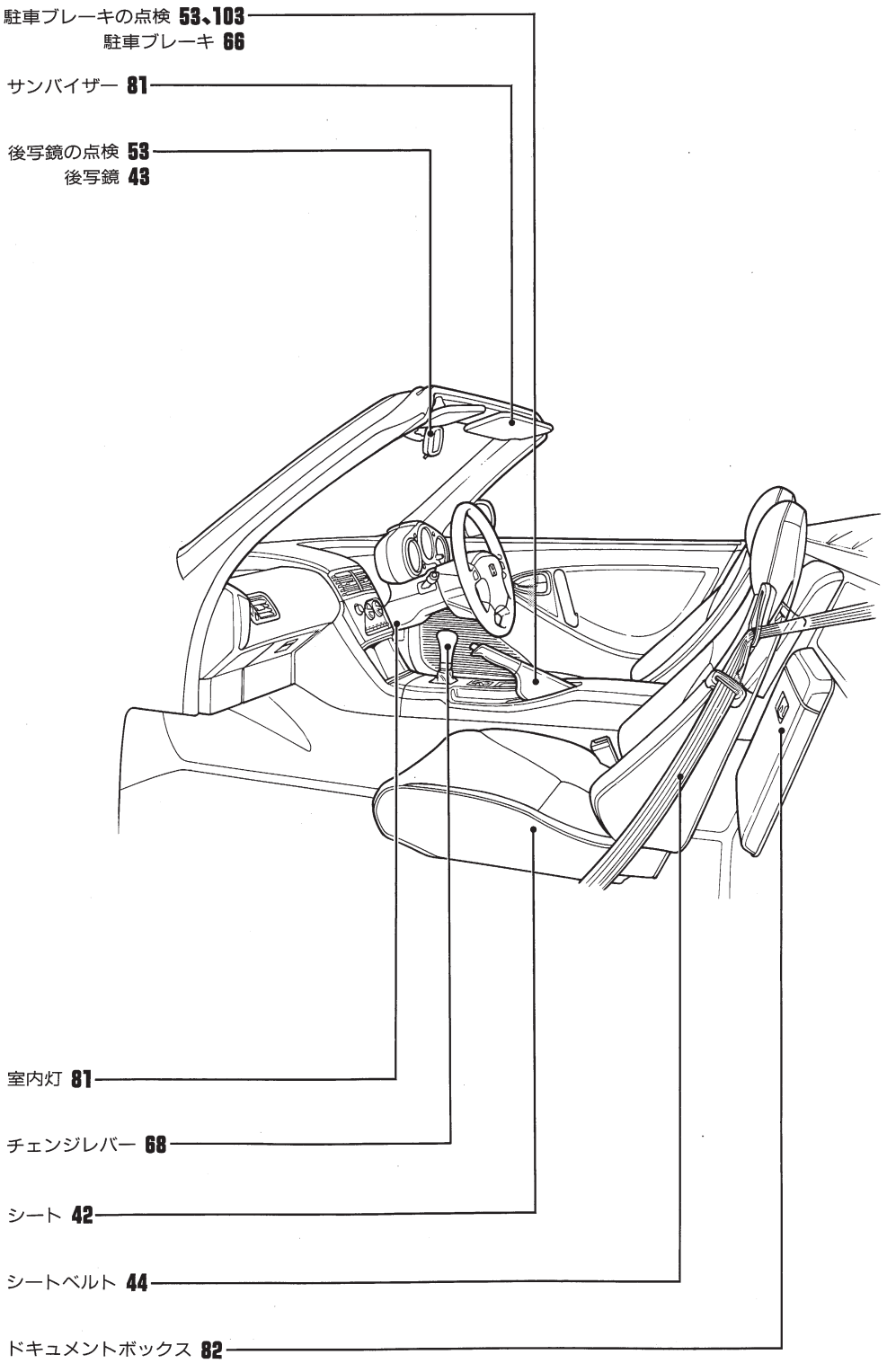
さくいん

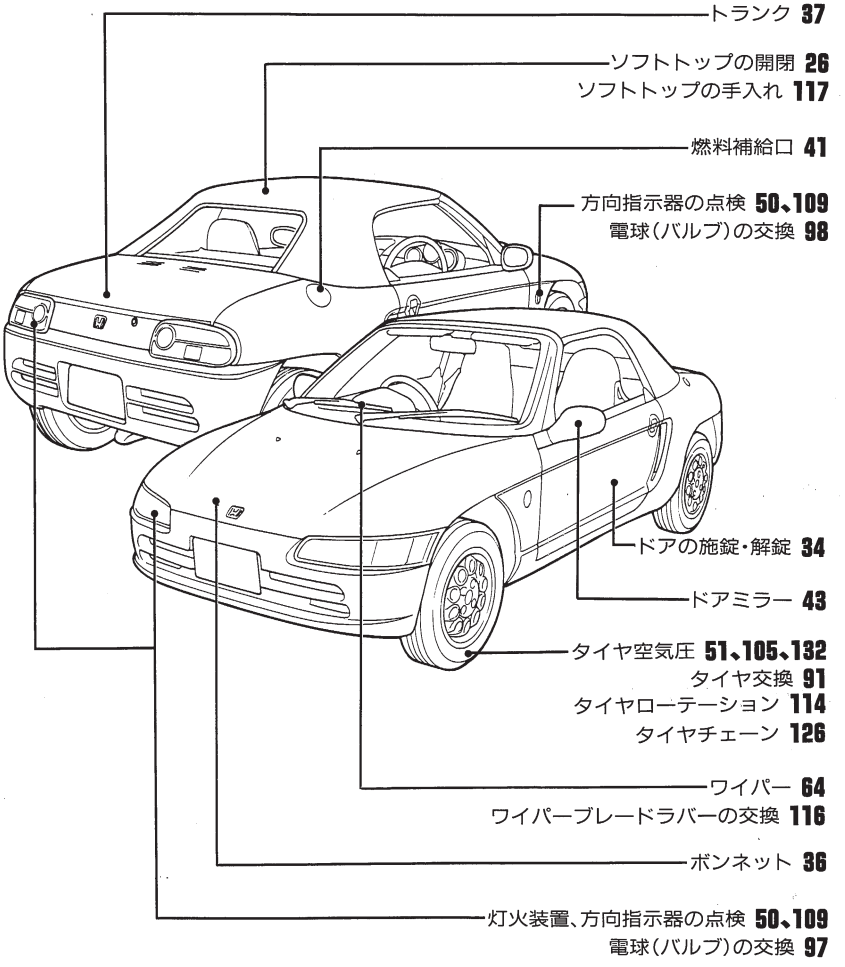
4
8
10
11
●開けかた 27　●閉めかた 30　25
●各部の開閉 34　●各部の調節 42　●シートベルト 44　●運行前点検 46　33
●メーターのはたらき 56　●表示灯、警告灯 58
●スイッチの使いかた 62　●運転のしかた 66　55
●SRSエアバッグシステム 70　●その他の安全装備 72　69
●ヒーター・エアコン 74　●室内装備品 81　73
●工具・スペアタイヤ・発炎筒 84　●故障したとき 86　●パンクしたとき 89
●バッテリーあがりのとき 95　●オーバーヒートしたとき 95　●ライト類が点灯しないとき 96　83
●6か月点検 102　●簡単な整備 110　101
●純正部品 124　●車にあった部品の使用 124　●経済走行のために 125　●積雪・寒冷時の取り扱い 125　123
130
133

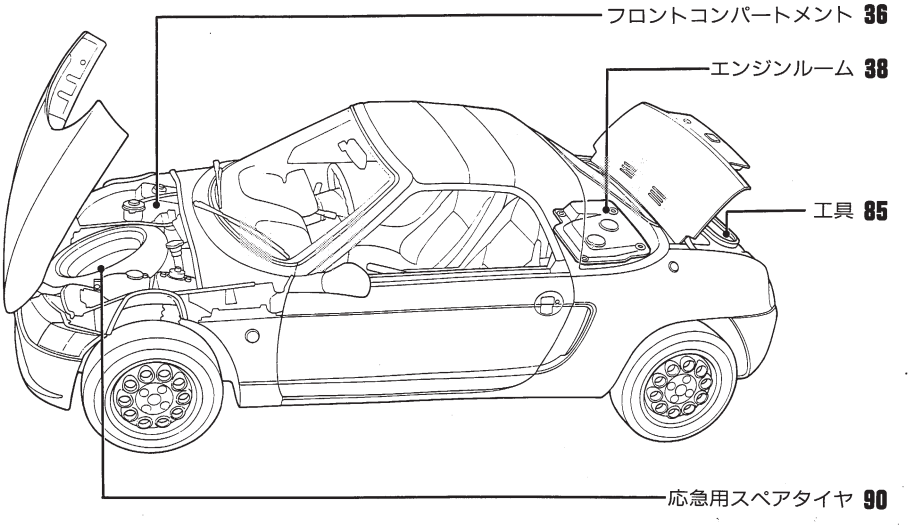
# 名称別目次


ライト/方向指示器スイッチ 63、64
計器類 56
ワイパー/ウォッシャースイッチ 64
SRSエアバッグシステム エアバッグ装備車 70
エンジンスイッチ 62
SRS


ドアの施錠・解錠 34
非常点滅表示灯スイッチ 65
ヒーター・エアコン 74
ドアの施錠・解錠 34
ボンネット解錠ノブ 36
パワーウィンドースイッチ 36
アシスタントボックス 82
発炎筒 85


駐車ブレーキの点検 53、103
駐車ブレーキ 66
サンバイザー 81
後写鏡の点検 53
後写鏡 43
室内灯 81
チェンジレバー 68
シート 42
シートベルト 44
ドキュメントボックス 82


トランク 37
ソフトトップの開閉 26
ソフトトップの手入れ 117
燃料補給口 41
方向指示器の点検 50、109
電球(バルブ)の交換 98
ドアの施錠・解錠 34
ドアミラー 43
タイヤ空気圧 51、105、132
タイヤ交換 91
タイヤローテーション 114
タイヤチェーン 126
ワイパー 64
ワイパーブレードラバーの交換 116
ボンネット 36
灯火装置、方向指示器の点検 50、109
電球(バルブ)の交換 97


フロントコンパートメント 36
エンジンルーム 38
工具 85
応急用スペアタイヤ 90

## 運転前の点検

●フロントコンパートメント、エンジンルームをのぞいて 47

## エンジンのかけかた

●エンジンをかける前に 66　●かけかた 67

## 運転のしかた

●チェンジレバーの操作 68　●経済走行 125

## 車の手入れ

●6か月点検 102
●簡単な整備 110　エンジンオイルの補給 110
バッテリー液の補給 113
エアクリーナーエレメントの交換 115
内装の手入れ 120
●純正部品 124

## 積雪・寒冷時の取り扱い

●走行前の点検 125　●タイヤチェーンの取り付けかた 126

●車のまわりを回りながら 50　●運転席にすわって 53

冷却水の補給 111
ウォッシャー液の補給 112
ブレーキ液の補給 112
バッテリー端子部の清掃 113
クラッチ液の補給 114
タイヤの位置交換 114
ワイパーブレードラバーの交換 116
ソフトトップの手入れ 117
塗装の手入れ 118
アルミホイールの取り扱い 120
エアコンの手入れ 121
冬期の整備 122

●車の積雪、凍結について 126　●走りかた 127　●駐車のしかた 128　●格納のしかた 128

# 万一のときの目次 CONTENTS


## 工具が必要なとき ……84

## 故障したとき ……86
- 発炎筒について ……86
- 踏切で動けなくなったとき ……86
- 高速道路で故障したとき ……87
- 故障の修理について ……87
- けん引について ……87

## パンクしたとき ……89

## バッテリーあがりのとき ……95

## オーバーヒートしたとき ……95

## ライト類がつかないとき ……96
- ヒューズ交換のしかた ……96
- 電球（バルブ）交換のしかた ……97

## 警告灯がついたとき ……58

## エンジンがかからないとき ……87
- 正しいエンジンのかけかた ……67
- ガソリンは ……54
- バッテリーあがり ……95

## タイヤチェーンをつけるとき ……126


＊全国のホンダ販売店およびJAFの電話番号は別冊の「整備手帳」に記載してあります。

# POINTS 6

## 安全ドライブのための必読6ポイント

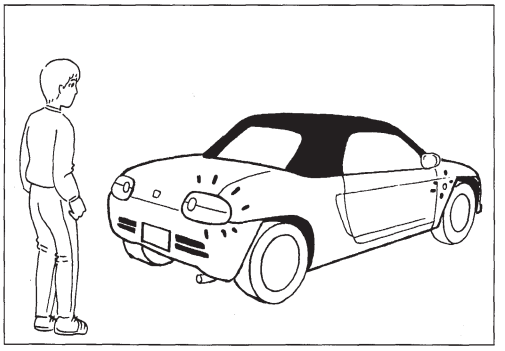
ご使用の前に特に知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことをまとめてあります。

お出かけまえに ……12
お子さまに思いやりを ……15
正しい知識で最適運転 ……16
駐車や停車はしっかりと ……19
ソフトトップの注意ポイント ……21
こんなことにも注意をしよう ……23

# お出かけまえに…

## お出かけまえには点検を。
〈46ページ参照〉

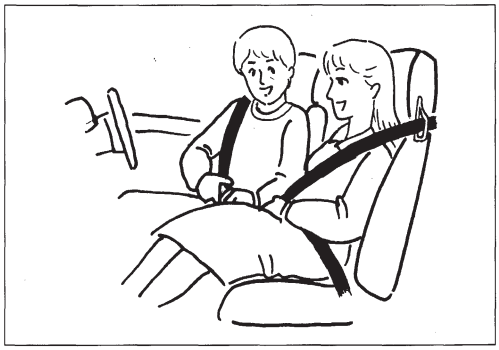
- 安全・快適にお使いいただくために、ホンダの点検要領に従って必ず点検しましょう。
- 普段と違う点に気付いたら、ホンダプリモ店で、早めに点検を受けましょう。（音、におい、水・油もれ…）



- 走行中も車の状態に気を配り、いつもと違う音やにおい、運転感覚を感じたら早めに点検しましょう。

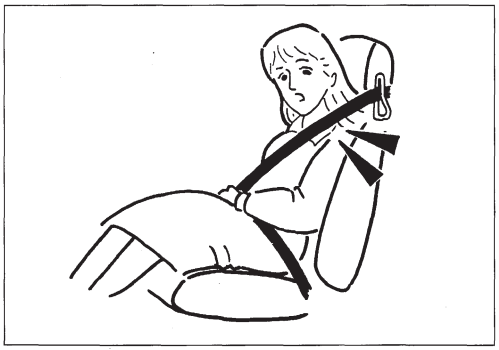
## シートベルトを正しく着用。
〈44ページ参照〉

- 運転する人はもちろん、同乗する人にも着用させましょう。
- 腰骨のできるだけ低い位置に着用してください。

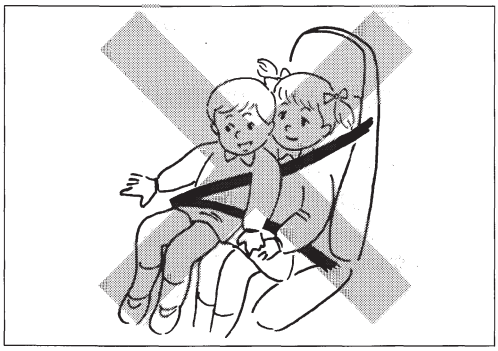


- ベルトにねじれがないか確かめてください。

- ベルトが、くび、あご、顔などに当たらないようにしてください。

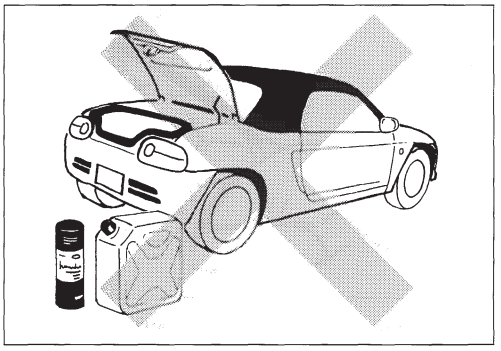


- 一本のベルトを二人以上で使用しないでください。



## 燃料の入った容器やスプレー缶などはのせないで。

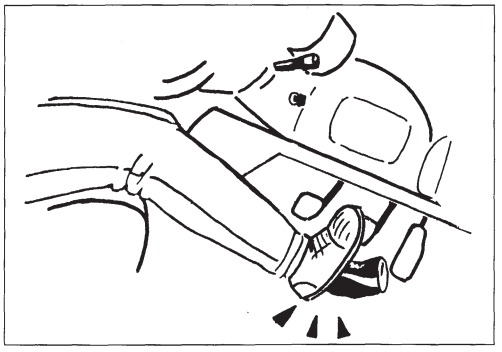
・万一の場合、引火、爆発のおそれがあります。



## 運転のさまたげになるものには注意を。

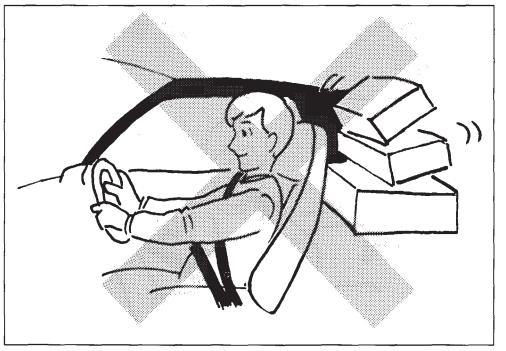
- 運転者の足もとに、物を置かないでください。
- フロアマットが、ペダルに引っかからないように注意してください。

・ブレーキやアクセルのペダル操作が、確実にできないおそれがあります。



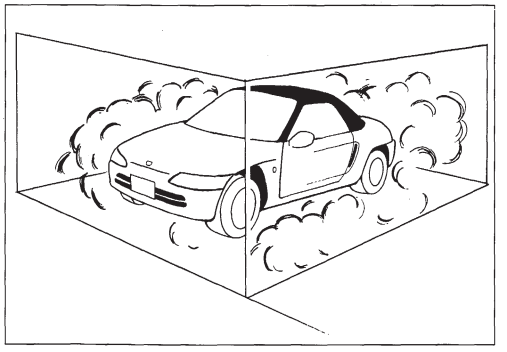
- 手荷物をシートのうしろに積まないでください。

・後方視界をさまたげたり、急ブレーキのときなどに荷物が飛び出すおそれがあります。



## 車庫や屋内では、エンジンをかけたままにしないで。

・換気の悪いところでは、一酸化炭素中毒の危険があります。



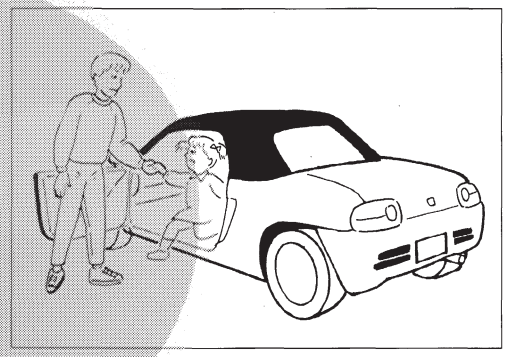
# お子さまに思いやりを

## ドア、ウィンドー、シートの操作は必ず大人が。

- 手、足、くびなどをはさまないよう、気をつけてください。
- 走行中、一時停止のときなど、窓から手や頭、物などを出さないよう、注意してください。
  - **思わぬ障害物で事故のおそれがあります。**

## 車から離れるときは、お子さまも一緒に連れて。

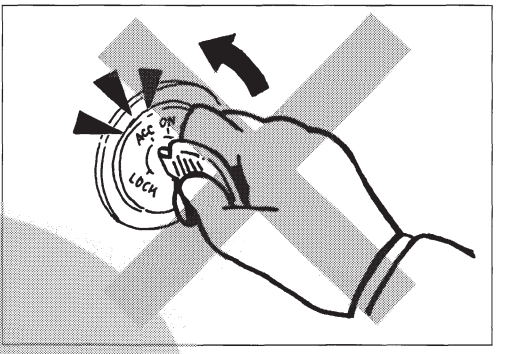
- お子さまだけを車内に残さないでください。
  - **炎天下の車内は、高温になり危険です。**
  - **お子さまのいたずらにより思わぬ事故につながるおそれがあります。**



# 正しい知識で最適運転

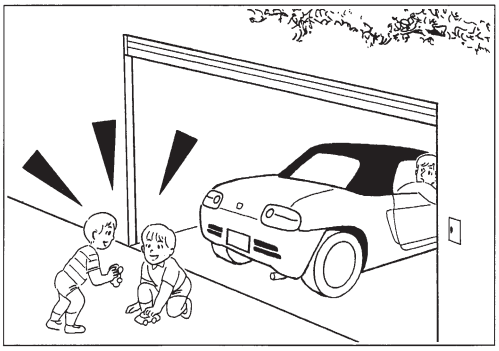
3

- 走行中ハンドルの中に手を入れて、スイッチを操作しないでください。
  - **ハンドル操作のさまたげになり大変危険です。**
- 走行中はエンジンを止めないでください。
  - **ブレーキ倍力装置が作用しないため、ブレーキのききが悪くなります。**
  - **エンジンスイッチを〝LOCK〟にすると、キーが抜けることがあり、ハンドルがロックされ危険です。**



●車をバックさせるときには、子供や障害物に十分注意してください。

**・バックミラーでは確認しきれない死角(車の直後など)があります。**



## 長い下り坂では*エンジンブレーキを。

●ブレーキペダルを踏み続けるとブレーキが過熱して、ききが悪くなることがあります。

●長い下り坂では、走行速度に合わせ、ギヤを一段ずつ落として、エンジンブレーキを併用してください。

**＊エンジンブレーキとは、走行中アクセルペダルを戻したときにかかるブレーキ力で、低速ギヤほどよくききます。**

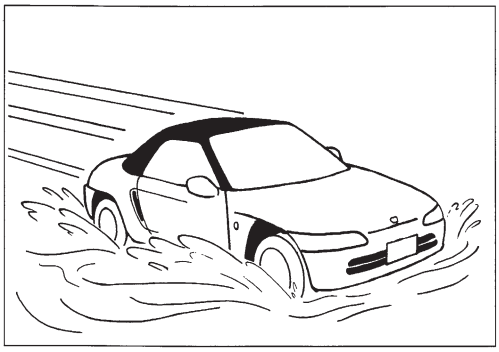
## 雨天時の走行には注意を。

●雨天時やぬれた道路では、路面が滑りやすくなっておりタイヤのグリップ力が低下するため通常より注意深い運転が必要です。また、わだちなどの水のたまりやすい場所では、*ハイドロプレーニング現象を起こしやすいので注意してください。
このようなところを運転するときは、急加速・急ブレーキや急ハンドルを避け、スピードを落として安全運転に心がけてください。特に、摩耗したタイヤは、ハイドロプレーニング現象を起こしやすいので十分注意してください。

**＊ハイドロプレーニング現象とは、路面が水でおおわれているところを高速で走行しようとしたときに、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いた状態になることをいいます。
このような状態になると、ハンドルやブレーキがきかなくなり、非常に危険です。**

## 水たまりに入ったあとはブレーキのきき具合を確認。

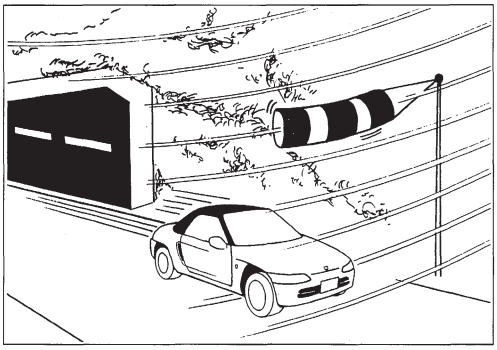
●水たまり走行後や洗車後は、ブレーキペダルを軽く踏んできき具合を確認してください。ブレーキのききが悪いときは、前後の車に十分注意しながら低速で走行し、ブレーキのききが回復するまで、繰返しブレーキペダルを踏んでください。



## 横風の強い日は。

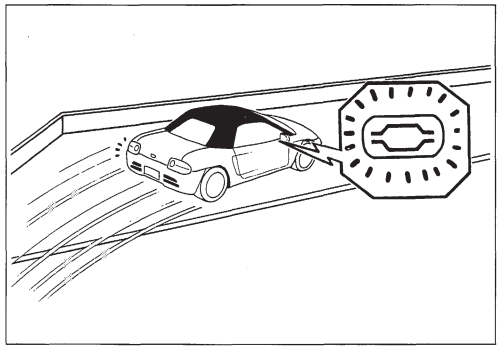
●横風を受け、車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握り、スピードを徐々に下げて進路を立て直してください。

**・トンネルの出口、橋・土手の上、山を削った切り通しなどでは、特に横風が発生しやすいので十分注意してください。**



## 走行中異常があったら。

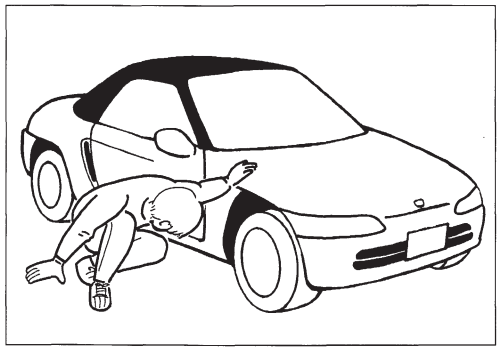
●警告灯が点灯したら、ただちに安全な場所に停車し処置をしてください。
〈58ページ参照〉



●走行中タイヤがパンクやバースト(破裂)してもあわてずに、ハンドルをしっかり握り、徐々にブレーキをかけてスピードを落とし、安全な場所に停車してください。

**・急ブレーキは、ハンドルをとられることがあり危険です。**

●床下に強い衝撃を受けたときは、ただちに車を止めて、ブレーキ液や燃料の漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。

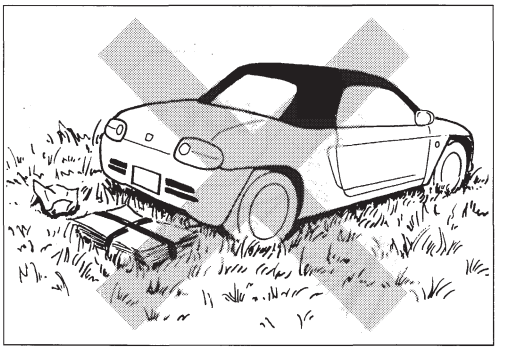


# 駐車や停車はしっかりと

## 可燃物には注意を。

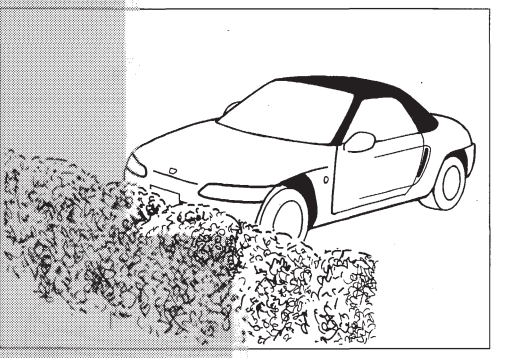
●枯草や紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには、駐停車しないでください。

・**排気管や排気ガスの熱により、着火するおそれがあります。**



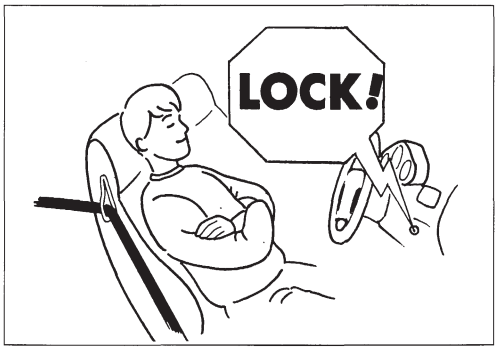
## 植込みなどにも注意して。

●植込みなどの近くに駐停車するときには、排気ガスが当たらないように、車の向きを決めましょう。



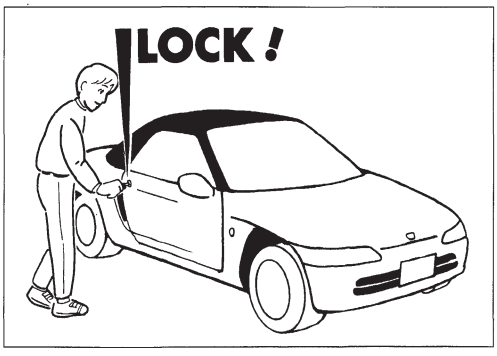
## 仮眠するときはエンジンを止める。

- エンジンを必ず止め、ソフトトップを閉めてください。
  - **無意識にチェンジレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりした場合危険です。**




## 車から離れるときには施錠を。

- 必ずエンジンを止めて、ドアを施錠してください。
- 車内の見えるところに、貴重品などを置かないようにしましょう。
- お子さまも連れていきましょう。




## 車の移動はエンジンをかけて。

- 車を移動するときは、必ずエンジンをかけてください。
  - **下り坂を利用しての移動などは、思わぬ事故を招くことがあります。**

## 坂道での駐車は。

- 駐車ブレーキをかけ、チェンジレバーを平地や下り坂では R に、上り坂では 1 に入れてください。
  さらに、タイヤに輪止めをすると効果があります。

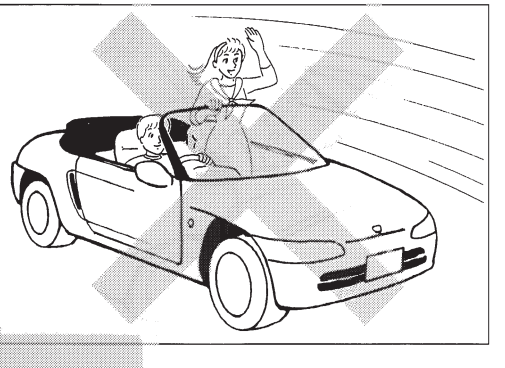
# ソフトトップの注意ポイント

5

## 走行中は立ち上がらない。

● 走行中は絶対に立ち上がらないでください。特にお子さまなどには十分注意してください。

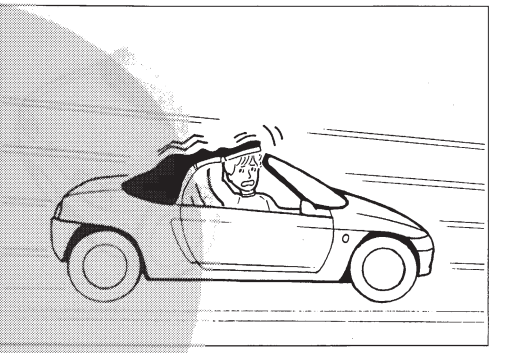
・転落など思わぬ事故のおそれがあります。



## 走行中は開閉操作をしない。

● ソフトトップの開閉は、必ず停車して行ってください。

・走行中に操作すると風にあおられるなどして大変危険です。



## 風に注意。

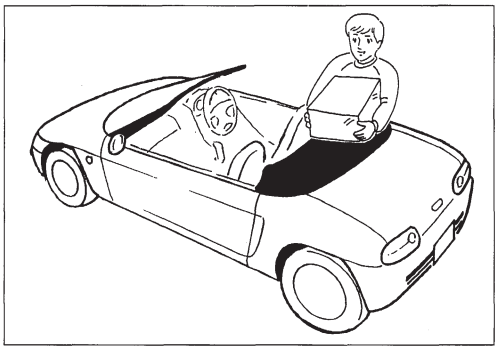
● ソフトトップを開けて走行するときは、室内に物を置かないでください。

・風で飛ばされるおそれがあります。

## ソフトトップの上にはすわらない。

●収納したソフトトップの上には、物を置いたり、すわったりしないでください。

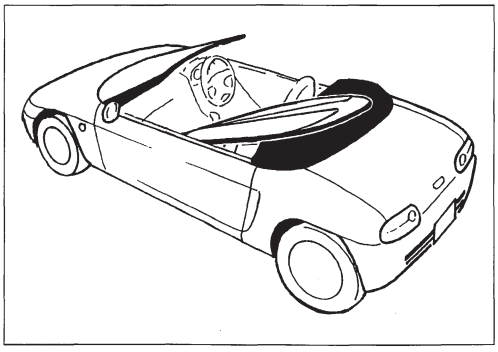
・ソフトトップフレームの変形や転落の危険があります。



## 長い物を載せない。

●ソフトトップを開けた状態で長い物を載せないでください。

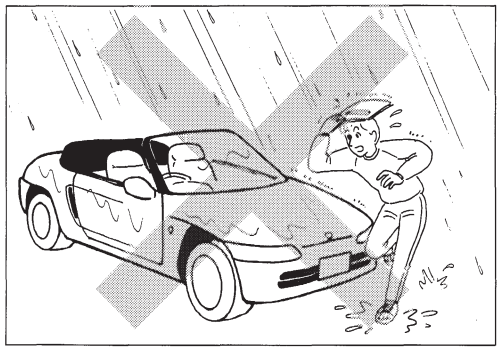
・思わぬ事故を招くおそれがあります。



## 車を離れるときは。

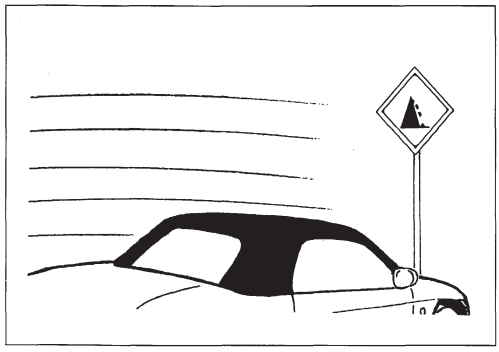
●ソフトトップを確実に閉め、ドアを施錠してください。

・盗難やいたずら防止、急な雨降りなどにより室内を濡らさないために、必ずお守りください。



## 落石に注意。

●山間路など落石のおそれのある場所を走行するときは、特に注意しましょう。

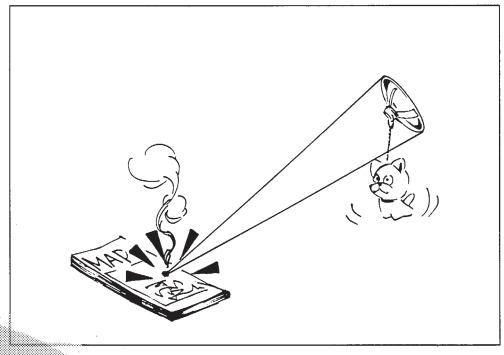


# こんなことにも注意をしよう

## アクセサリーの取り付けには注意を。

●ガラス面にアクセサリーなどを取り付けないでください。

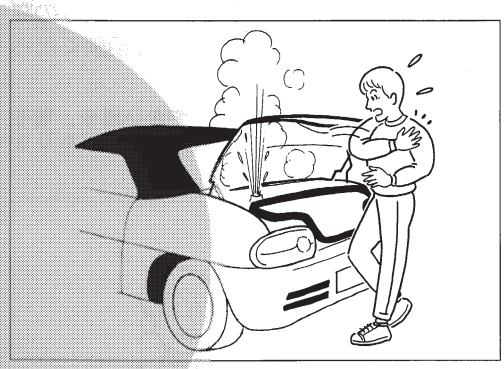
・運転をさまたげたり、吸盤がレンズのはたらきをして火災を起こしたり、思わぬ事故のもとになります。



## エクスパンションタンクキャップ（冷却水用）に気をつけて。

●エクスパンションタンクキャップが熱いときは、外さないでください。

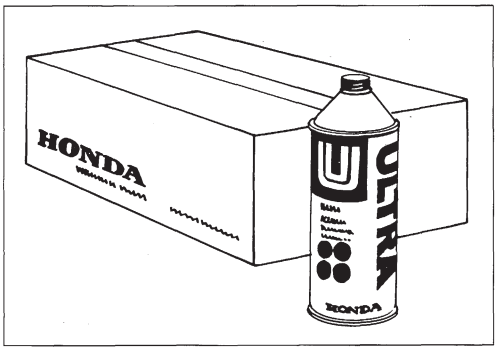
・蒸気や熱湯が吹き出し危険です。



## 改造はしない。

● ホンダ純正部品以外の、車の性能や機能に適さない部品を、装着しないでください。

- **適正な性能や機能を発揮しなかったり、思わぬ事故のもとになったりすることがあります。**
- **ホンダが運輸省に届け出をした以外の部品を装着すると、違反になることがあります。**




● ホイールは、BEAT専用品をご使用ください。

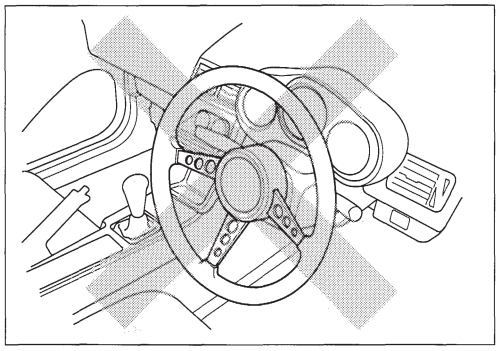
- **専用品以外の部品を使うと、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。ホンダプリモ店にご相談ください。**

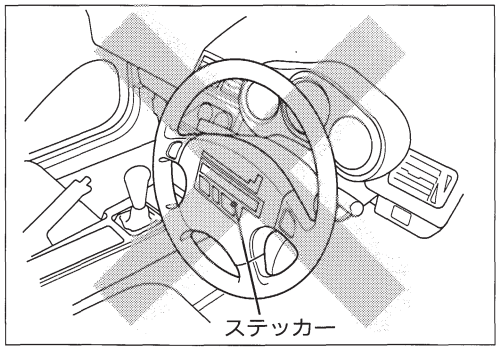
● 無線装置や自動車電話などの取り付けの際には、必ずホンダプリモ店にご相談ください。

- **装置や取り付け方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼすことがあります。**

● ハンドルを交換したり、パッドにステッカー類を貼ったり、カバーをつけたりしないでください。

- **エアバッグが正常に機能しなくなります。**
- **ハンドルまわりの修理をする場合は、必ず、ホンダプリモ店にご相談ください。**

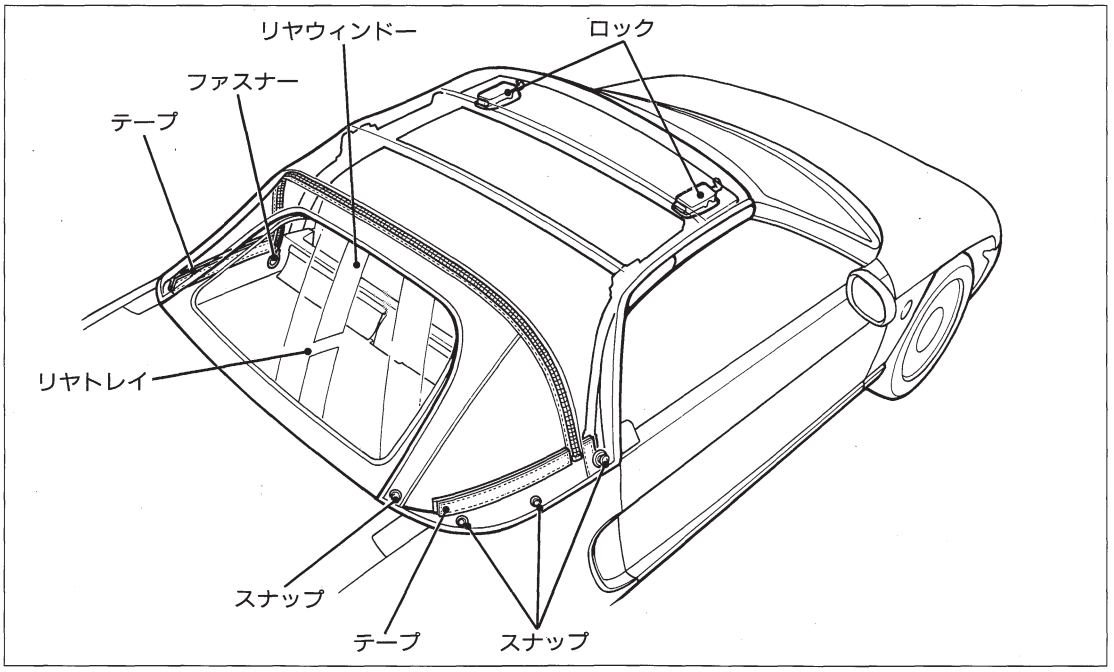




# ソフトトップの開閉

ソフトトップの開閉 ……26
開けかた ……27
閉めかた ……30

# ソフトトップの開閉




アドバイス

**ソフトトップ開閉時のアドバイス**

- ソフトトップを開閉するときは平坦で安全な場所を選び、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキを確実にかけてから行ってください。
- ソフトトップを開閉するときは、助手席の人も必ず降りてください。ソフトトップフレームが身体に当たるおそれがあり、危険です。
- ソフトトップの開閉操作をするときは、ソフトトップフレームの間に手、指などをはさまないよう注意してください。
- 風の強いときには、ソフトトップの開閉操作には十分注意してください。風にあおられる場合があります。
- 外気温が低いとき(約5℃以下)には、ソフトトップの開閉操作はしないでください。ソフトトップクロスを痛めます。
- ソフトトップを開けるときは、リヤトレイ上の物を取り除いてください。

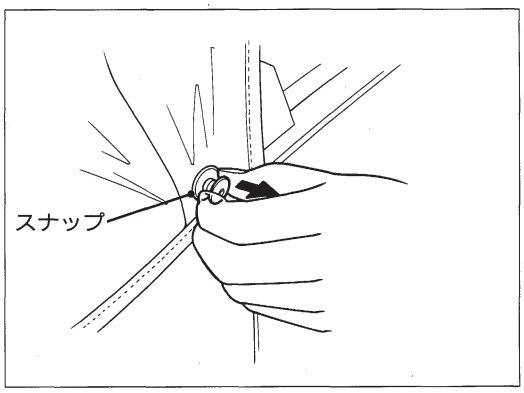
アドバイス

**ソフトトップ収納時のアドバイス**

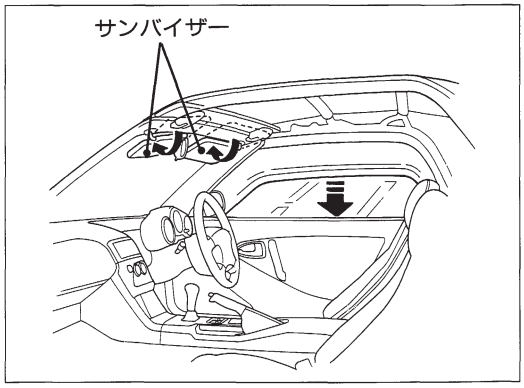
- ソフトトップを開けたときは確実に収納し、ソフトトップカバーを取り付けてください。
- ソフトトップを収納するときは、ソフトトップやリヤウィンドーの汚れ(砂粒、異物など)を取り除いてください。汚れているとソフトトップクロスを痛めたり、リヤウィンドーを傷つけたりする場合があります。
- ソフトトップが濡れているときは、必ず水気を拭きとって乾燥させてから収納してください。濡れたまま収納すると、室内への水の侵入、ソフトトップクロスの劣化、縮みやカビなどの原因となります。

## 開けかた

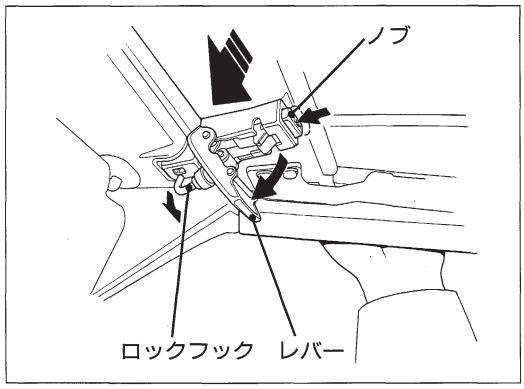
1 左右各１か所のスナップを外します。



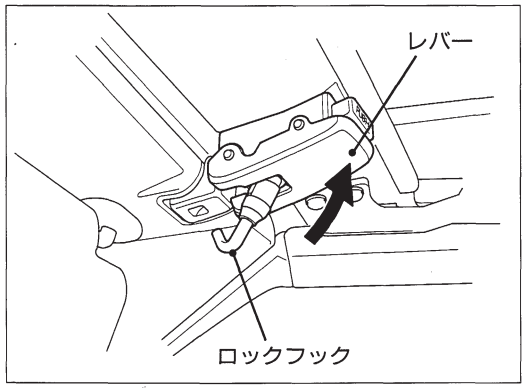

2 左右のサンバイザーをおろし、左右のウィンドーをいっぱいに下げます。



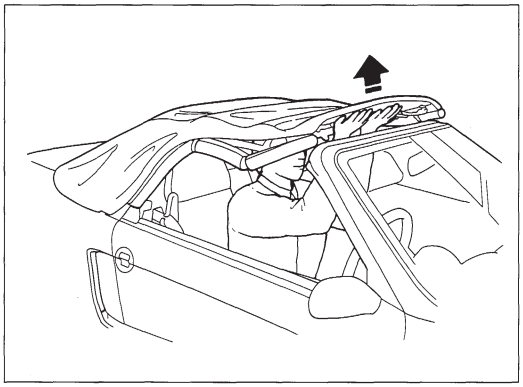

3 ソフトトップ前端部を押さえ、ノブを押しながらレバーを下げ、ロックフックを左右とも外します。



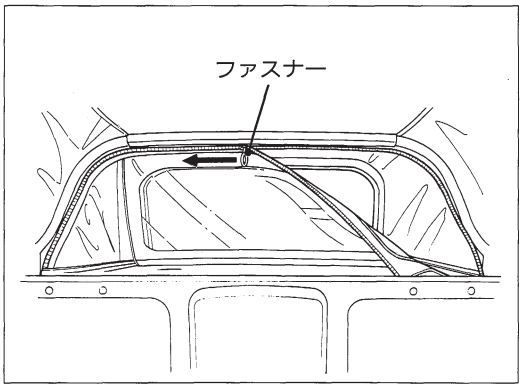

4 ロックフックを外したら、レバーを元に戻します。



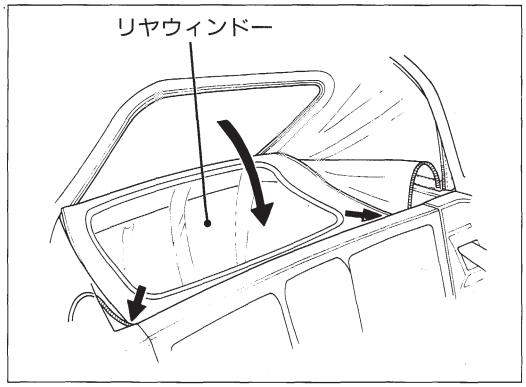
5 室内からソフトトップの先端を押し上げて少し開け、たるみを持たせます。



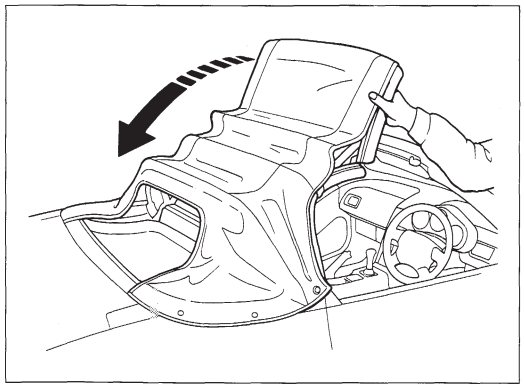
6 リヤウィンドーのファスナーをいっぱいに開けます。



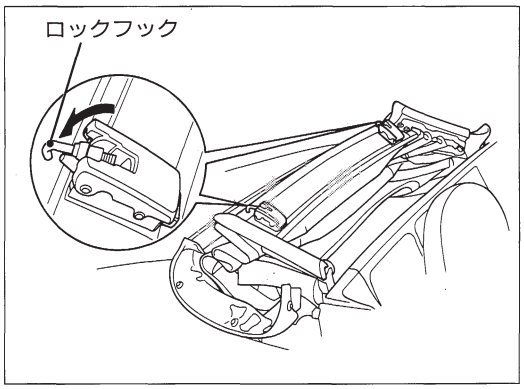

7 リヤウィンドーを、しわのないようにリヤトレイの上に置きます。



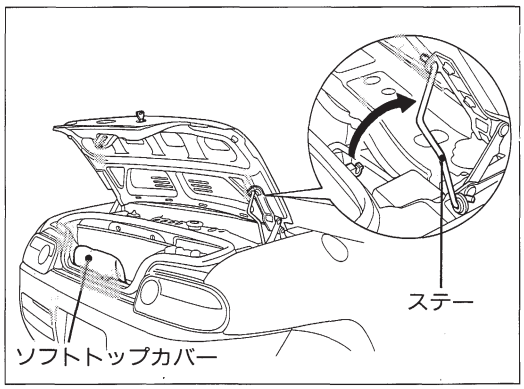

8 ソフトトップクロスをフレームの間に折り込むようにしながら、ソフトトップをゆっくりと折りたたみます。



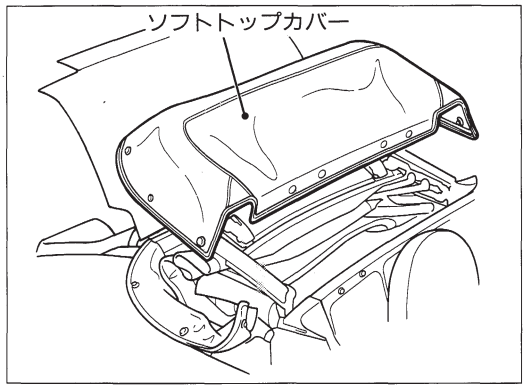
9 左右のロックフックが起きているときには、倒します。



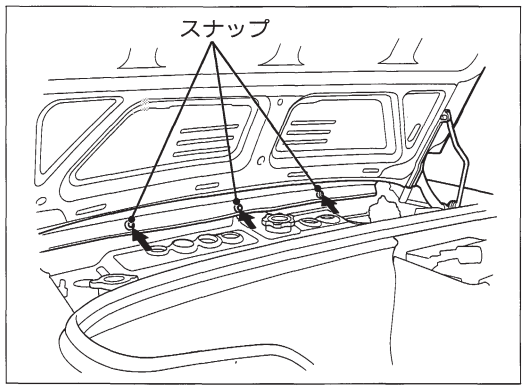

10 トランクを開け、ステーを確実にかけ、ソフトトップカバーを取り出します。



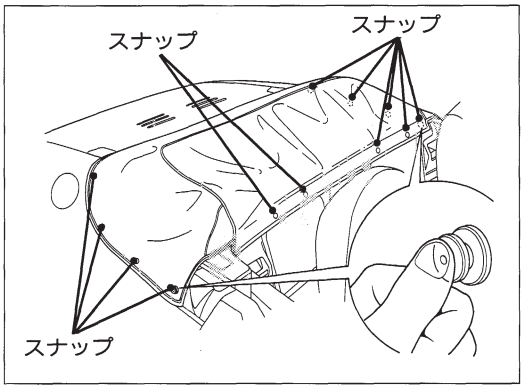

11 ソフトトップカバーをソフトトップの上にかぶせます。




12 後部 3 か所のスナップをトランク内から止め、トランクを閉めます。

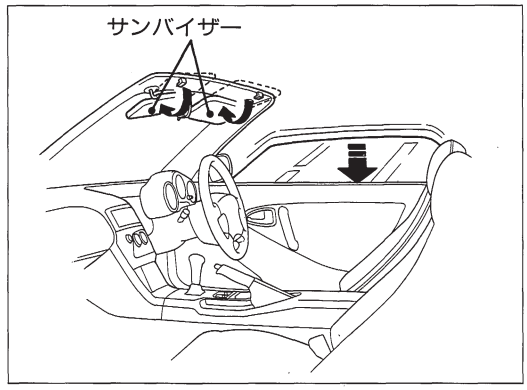


⑬前部 4 か所、左右各 4 か所のスナップを止めます。

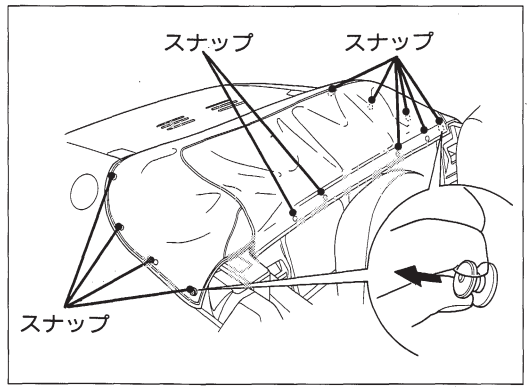



## 閉めかた

①左右のサンバイザーをおろし、左右のウィンドーをいっぱいに下げます。



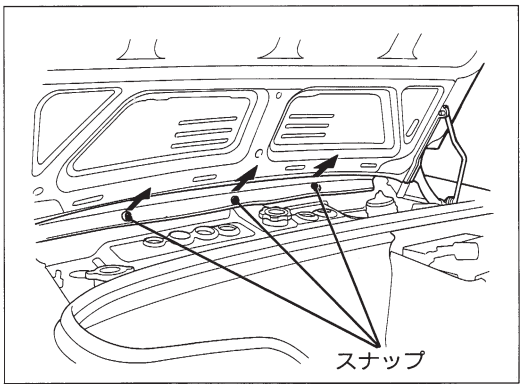

②ソフトトップカバーの前部 4 か所、左右各 4 か所のスナップを外します。



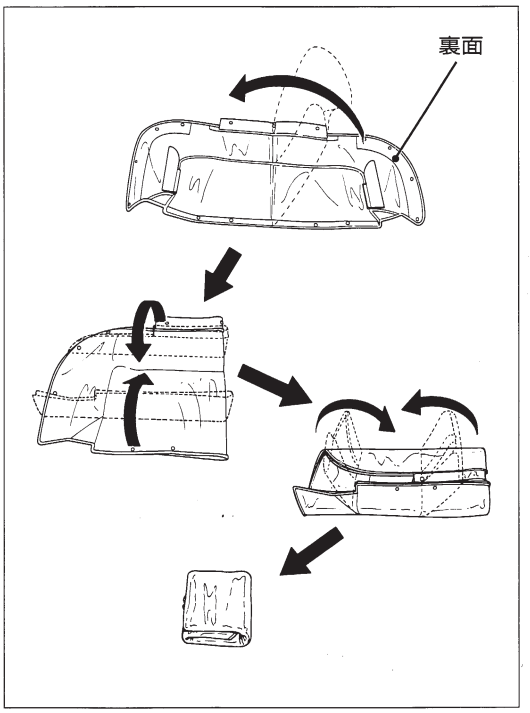
3 トランクを開け、ステーを確実にかけます。

トランクの開けかた　→37ページ

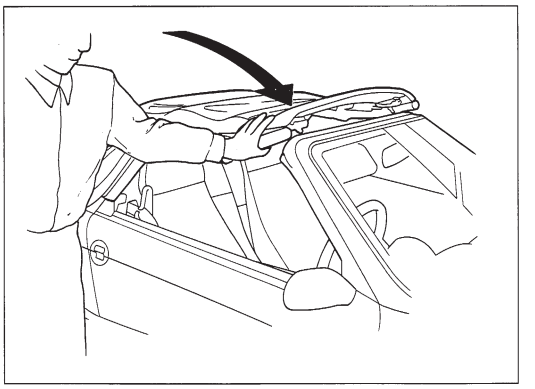
4 後部 3 か所のスナップをトランク内から外し、ソフトトップカバーを取り外します。



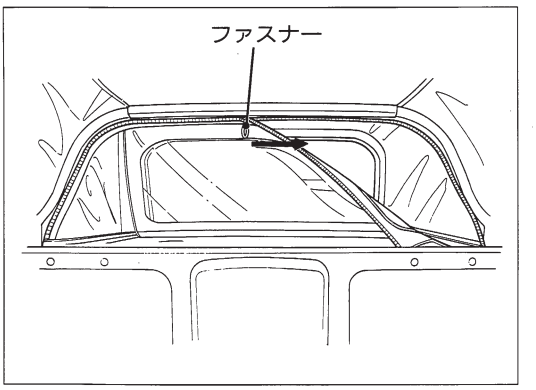

5 取り外したソフトトップカバーをたたみ、トランクにしまいます。



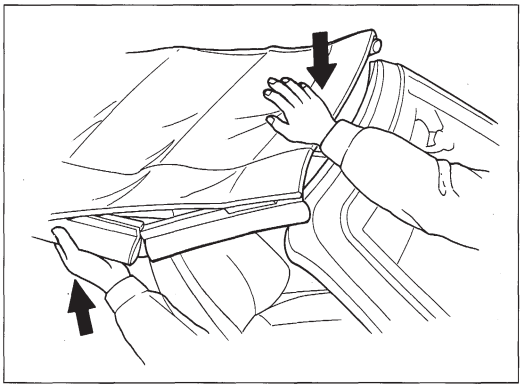

6 トランクを閉め、少したるみが残る程度までソフトトップをゆっくり引き上げます。



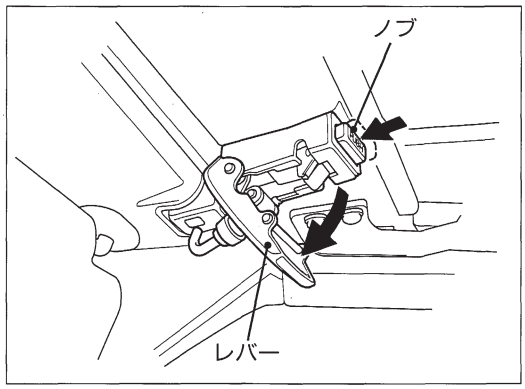
7 リヤウィンドーを持ち上げながら、ファスナーを閉めます。



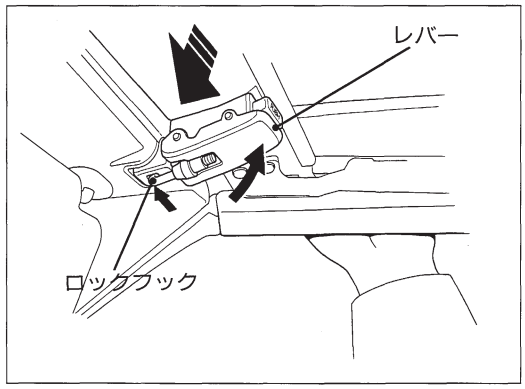
8 ソフトトップをいっぱいに張ります。



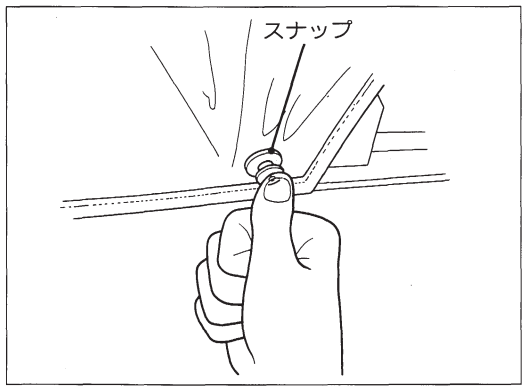
9 左右ともノブを押しながら、レバーを下げます。




10 ソフトトップ前端を押さえながらロックフックをかけ、レバーを"カチッ"と音がするまで押して左右とも固定します。




11 左右のスナップを止めます。



1

# 車を運転する前に


## 各部の開閉

キー ……34
ドアの施錠・解錠 ……34
パワーウィンドー ……36
ボンネット ……36
トランク ……37
エンジンルーム ……38
燃料補給口 ……41

## 各部の調節

シート ……42
後写鏡 ……43

## シートベルト ……44

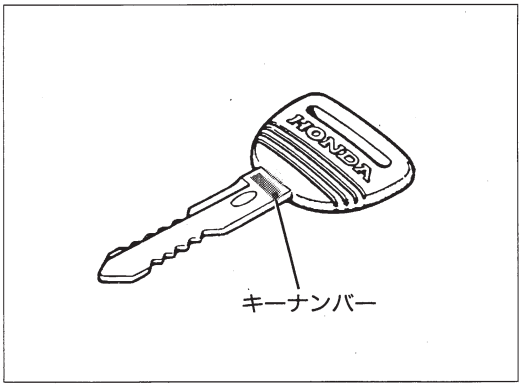
## 運行前点検

①前日の異状箇所の点検 ……47
②フロントコンパートメント、
　エンジンルームをのぞいて ……47
③車のまわりを回りながら ……50
④運転席にすわって ……53

# 各部の開閉

## キー

キーは、エンジン始動、停止のほかに、ドアやドキュメントボックスの施錠・解錠、トランクの解錠に使えます。




アドバイス

●キーナンバーを控えておいてください。万一、キーを紛失したときは、ナンバーをホンダプリモ店へご連絡いただければ、購入することができます。

## ドアの施錠・解錠

アドバイス

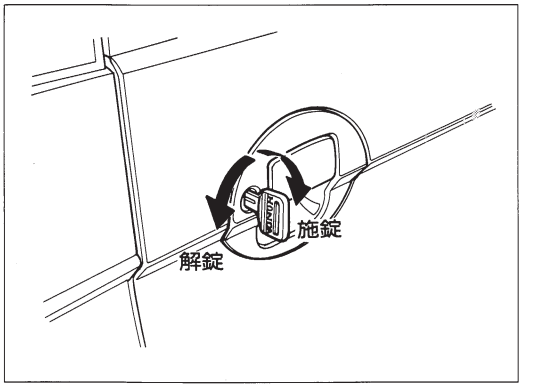
●車から離れるときは、エンジンを止め、ドアを必ず施錠してください。
また、車内の見えるところに、貴重品などを置かないようにしましょう。

注意

●ドアは確実に閉めてください。半ドアでは、走行中に開くおそれがあり危険です。
●ドアを開けるときは、周囲の安全を十分確かめてください。不用意に開けると、後続車などにぶつかるおそれがあり危険です。

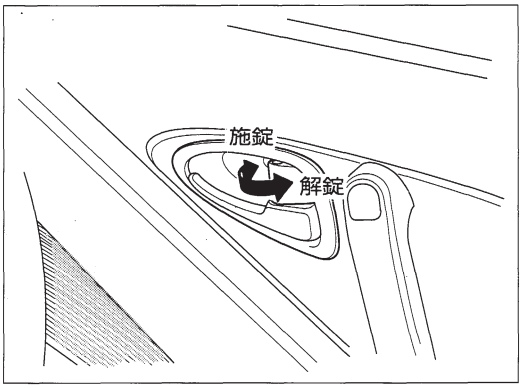
### ●車外から行う場合

キーを確実に差し込んで回します。



### ●車内から行う場合

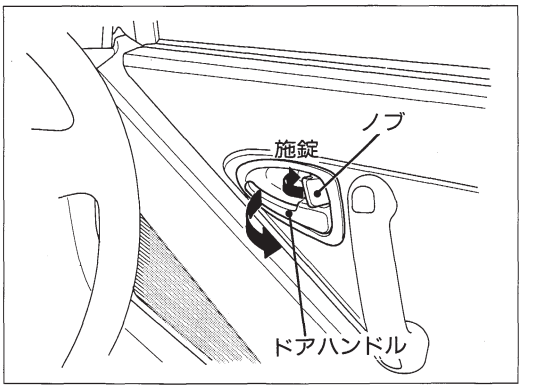
ノブを矢印の方向に動かすことにより、施錠（解錠）できます。




### ●キーを使わないで施錠する場合

**運転席ドア**

ドアハンドルを引いたままノブを施錠の方向に動かして、ドアを閉めれば施錠できます。



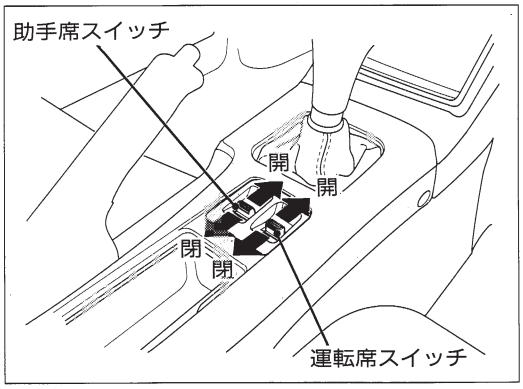
●キーを車内に置き忘れないようにしてください。

**助手席ドア**

ノブを施錠の方向に動かして閉めると施錠できます。

## パワーウィンドー

エンジンスイッチが〝ON〟のとき使えます。スイッチを操作している間、ウィンドーが作動します。

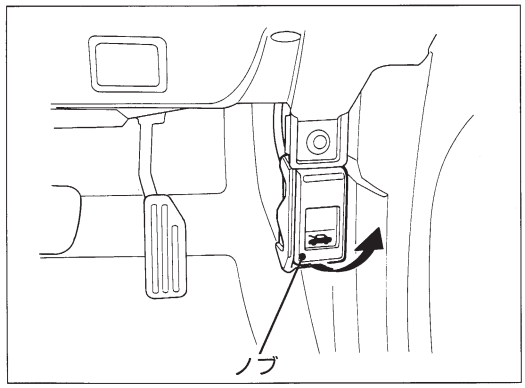


- パワーウィンドーを閉めるときは、手やくびをはさまないように注意してください。特にお子さまには気をつけましょう。
- パワーウィンドースイッチの上には物などを置かないでください。

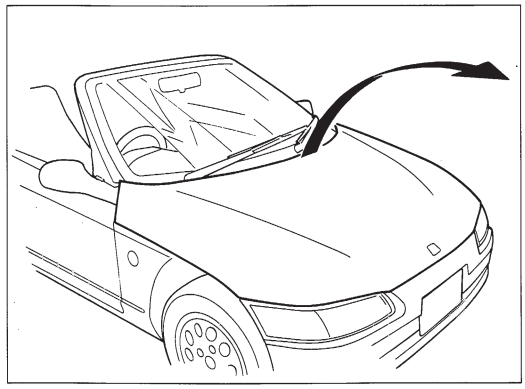
## ボンネット

### ●開けかた

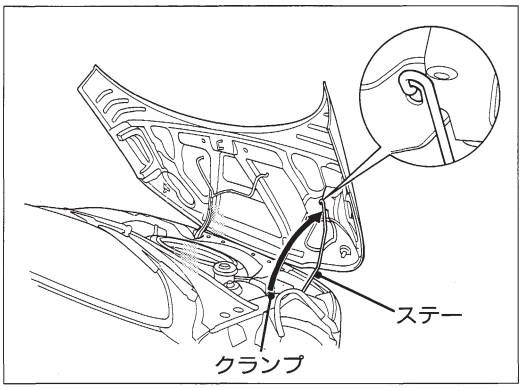
運転席足元のノブを引きます。




ボンネット後部が少し浮き上がるので、そのまま持ち上げます。



必ずステーを確実にかけ、固定します。




### ●閉めかた

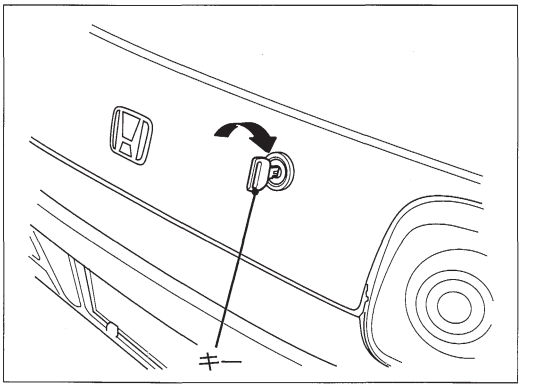
ステーを外し、クランプに納めます。
ボンネットを静かに下げ、手を離します。
ボンネットが完全に閉まっていることを確認します。

- ボンネットを開けているとき、風にあおられてステーが外れることがあります。特に風の強いときは、ご注意ください。
- ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように注意してください。
- ボンネットが完全に閉まっていないままで走行すると開くおそれがあり非常に危険です。走行前に必ず確認してください。

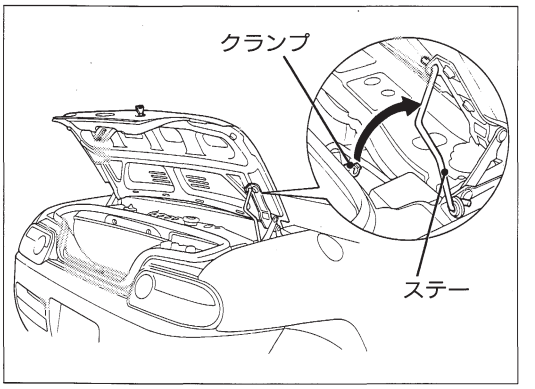
## トランク

### ●解錠

キーを確実に差し込んで回します。




必ずステーを確実にかけ、固定します。



### ●施錠

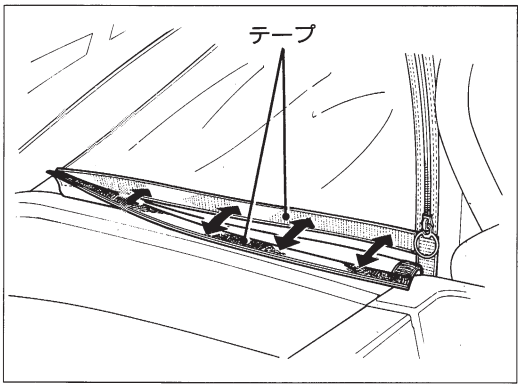
ステーを外し、クランプに納めます。
静かに下げ、手を離せば施錠できます。

- トランクを開けているとき、風にあおられてステーが外れることがあります。特に風の強いときは、ご注意ください。
- トランク内は高温になることがあります。熱に弱いものは入れないでください。
- 走行中はトランクを必ず施錠してください。
- エンジンをかけた状態で手荷物を出し入れするときは、排気管の後方に立たないでください。
- トランクを閉めるときは、手などをはさまないように注意してください。

## エンジンルーム

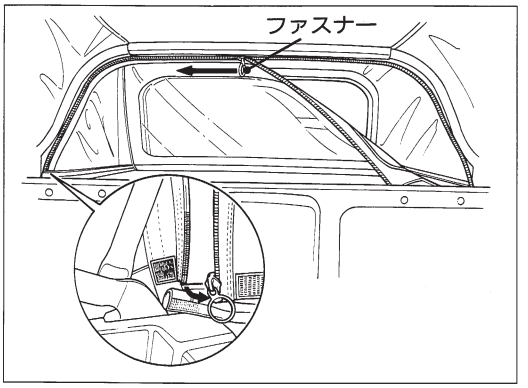
### ●開けかた

1 リヤウィンドー下部のテープを左右とも外します。

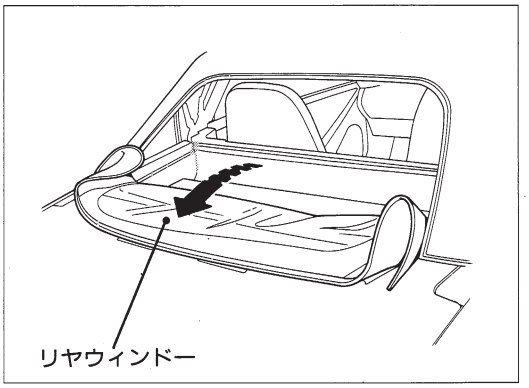



2 ソフトトップを少し開け、ソフトトップクロスにたるみを持たせて、リヤウィンドーのファスナーを外します。

ソフトトップの開閉　→26ページ



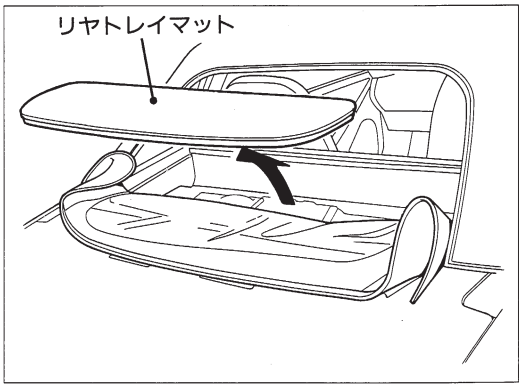
3 リヤウィンドーをトランク側へ引き出します。



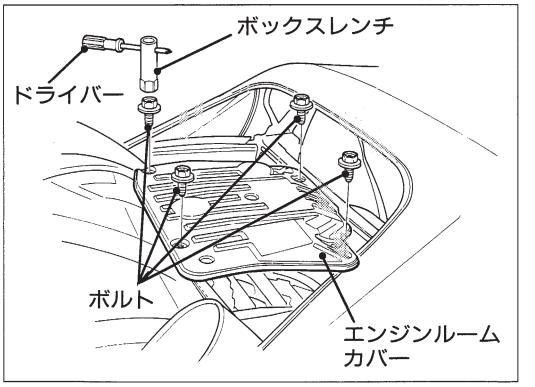

アドバイス

● リヤウィンドーやトランク上の汚れ(砂粒、異物など)を取り除いてください。汚れているとリヤウィンドーを傷つけたりする場合があります。

4 リヤトレイからリヤトレイマットを取り外します。



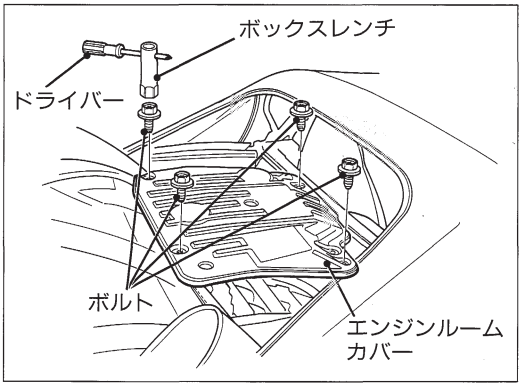

5 ボックスレンチを使って締付けボルト 4 本をゆるめて外し、エンジンルームカバーを取り外します。



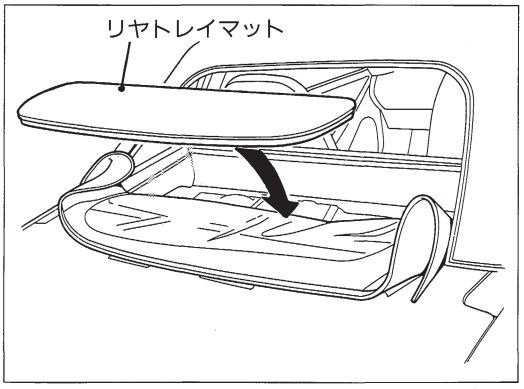
● 取り外したカバーやボルトなどをエンジンルーム内に置いたままでエンジンをかけると、部品をこわしたり、けがをするおそれがあります。

●閉めかた

1 エンジンルームカバーを取り付け、ボックスレンチを使ってボルト 4 本で確実に固定します。

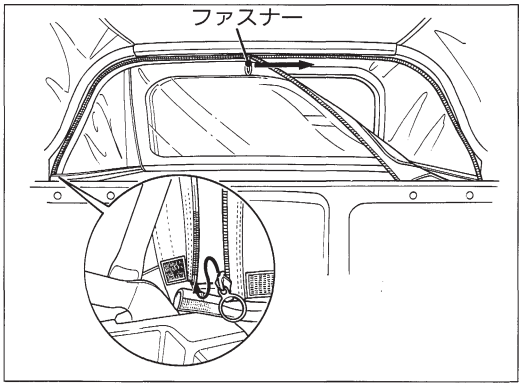



2 リヤトレイマットをリヤトレイに戻します。

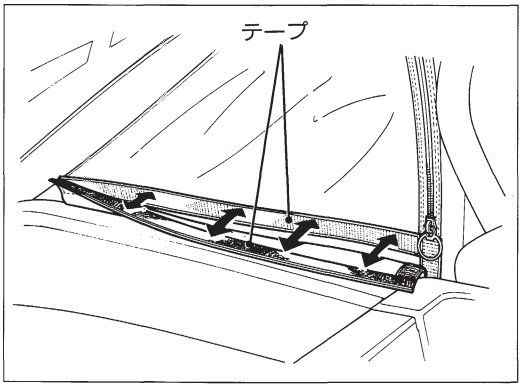



3 リヤウィンドーのファスナーを閉め、ソフトトップを元に戻します。

ソフトトップの開閉　→26ページ




4 リヤウィンドー下部のテープを左右とも取り付けます。



## 燃料補給口

燃料補給口は車の右側後方にあります。

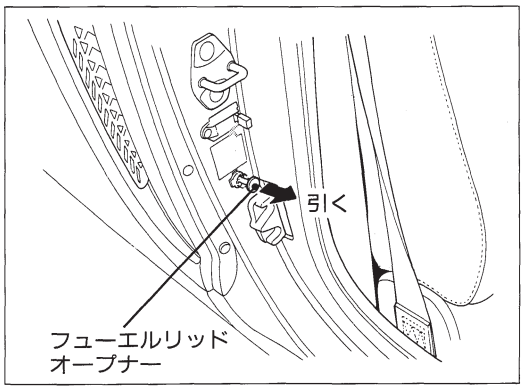
使用燃料：無鉛ガソリン

- 有鉛ガソリンを使うと、触媒装置などを損います。また、粗悪ガソリンや不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響を与えます。
- タンク容量は24ℓです。

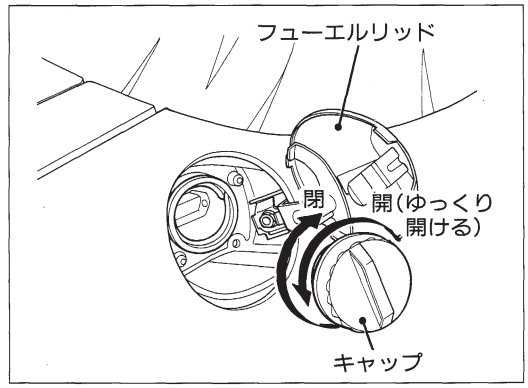
- 燃料補給時は火気厳禁です。
  エンジンは必ず止めてください。

### ●フューエルリッドの開けかた

運転席ドアを開け、フューエルリッドオープナーを引くとリッドが開きます。




### ●キャップの開閉




### ●閉めるとき

キャップを"カチッ"という音が2回以上するまで締め付けてから、フューエルリッドを手で押さえつければ閉まります。

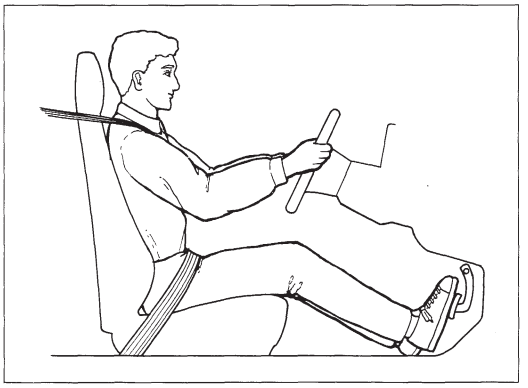
# 各部の調節

## シート

正しい運転姿勢がとれるようにシートを調節します。

### ●正しい運転姿勢

シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分踏み込め、ハンドルが楽に操作できる姿勢をいいます。

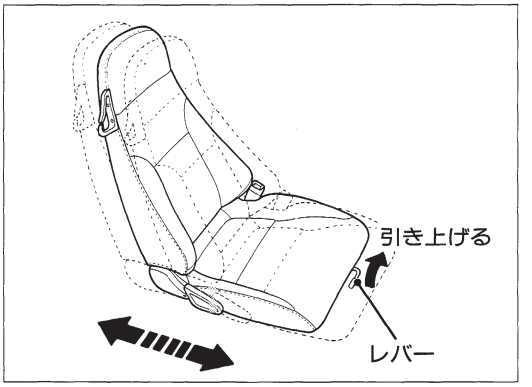


注意 WARNING

- シート各部の調節は走行する前に行ってください。
  走行中は、シートが急に動いて危険です。
- 調節後は、固定されていることを必ず確認してください。
- シートの背もたれは、必要以上に倒さないでください。万一のとき、シートベルトの下に滑り込んだりして、シートベルト本来の機能をはたさず危険です。
- シートの後部に、お子さまを乗せたりしないでください。

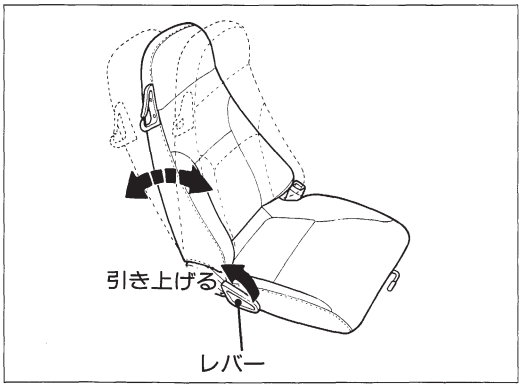
### ●位置の調節

レバーを引き上げながら、前後にシートを動かして調節します。




### ●背もたれの調節（運転席のみ）

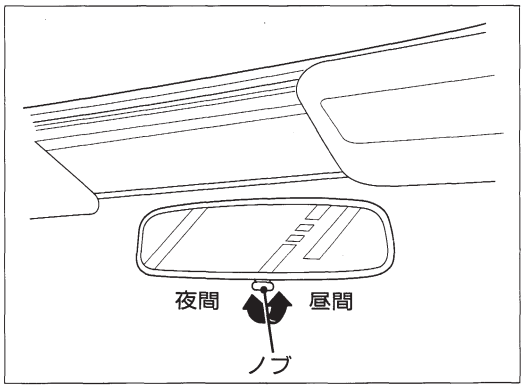
レバーを引き上げながら、背もたれの角度を調節します。



## 後写鏡

### ●防眩式室内後写鏡

夜間走行時、後続車のライトがまぶしいときにノブを夜間の位置に切り換えるとライトの反射が弱くなります。

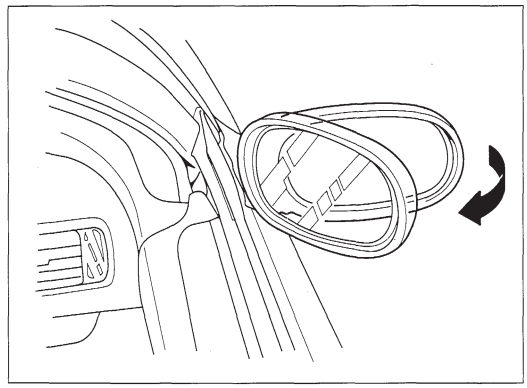



アドバイス

●視野調節はノブを昼間の位置にして行ってください。

### ●可倒式ドアミラー　ドアミラー装備車

ミラーを折りたたむことができます。狭い所へ駐車をするときなどに便利です。
走行するときは、必ず元に戻してください。



注意 WARNING

●ミラーを倒したまま走行しないでください。

# シートベルト

シートベルトは、車を運転するまえに運転者は必ず着用し、同乗者にも必ず着用させてください。
法律でも義務づけられています。

### ●シートベルトの着用

1 正しい運転姿勢(→42ページ)でシートにすわります。

2 タングプレートをつかみ、ゆっくり引き出します。

3 ベルトにねじれがないようにし、タングプレートをバックルの中へ"カチッ"と音がするまで差し込みます。

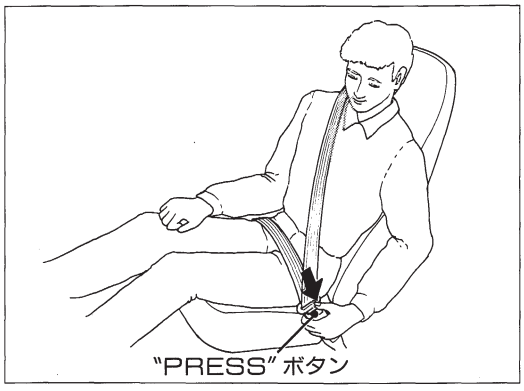
4 ベルトがねじれたり、引っかかったりしていないかを確認します。

●ねじれがあるとベルトの幅が狭くなり、局部的に強い力を受けて危険です。
ねじれないように使ってください。

5 ベルトを腰骨のできるだけ低い位置にかかるように引き、たるみがないように身体に密着させます。

● ベルト締め付け力を丈夫な腰骨の部分に拡散するため、ベルトは上腹部を避け腰骨のできるだけ低い位置にぴったり装着してください。

6 外すときはバックルの"PRESS"ボタンを押します。
ベルトが自動的に収納されますので、ひっかかったり、ねじれたりしていないかを確認します。



● ベルトは一人用です。
二人以上で一本のベルトを使わないでください。
● シートベルトは、くび、あご、顔に当たらないように着用してください。小さなお子さまなどは万一のとき危険ですので、装備されているシートベルトを直接使わないでください。
なお、ホンダプリモ店では生後10ヶ月～4才位の小さなお子さま用として、ホンダ純正アクセサリーのチャイルドシートを取り扱っておりますので、ご使用をおすすめします。
＊上記チャイルドシートは、この車の助手席への後ろ向き取り付けには適しませんので、ご注意ください。
● シートベルトを十分に機能させるために、バックルおよび自動巻き取り装置の内部に、異物を入れないようにしてください。
● ベルトが汚れた場合は、中性洗剤を溶かしたぬるま湯に、布をひたしてふき取り乾かしてください。薬剤を使ったり、漂白や染色は絶対しないでください。
ベルトを弱めます。
● 着用した状態で万一、事故に合った場合は、ベルト一式を交換してください。
● 妊娠中の女性や疾患のあるかたのベルトの着用は、万一のとき腹部、胸部、肩部などに圧迫を受けることがありますので、医師にご相談ください。

# 運行前点検

運行前点検は、自動車を使う人が、１日１回、運転する前に実施するよう法令により義務づけられています。
この点検は、フロントコンパートメントやエンジンルームをのぞいたり、車のまわりを回ったり、また、運転席にすわって車の状態をみることによって容易に出来るものです。運行前点検を確実に行うためには一定の順序で行うことが効果的です。
点検作業は、車を水平な場所に置いて行ってください。
右に点検順序を示します。

- 異常を知らずに使用し続けると、事故や故障の元になります。
  必ず運行前点検を行ってください。
- 異常が認められた場合は必ずホンダプリモ店で点検を行ってください。

## 運行前点検の順序

**❶前日の異状箇所の点検** →47ページ

**❷フロントコンパートメント、エンジンルームをのぞいて** →47ページ

ブレーキ液量の点検
※冷却装置の点検
※エンジンオイル量の点検
※発電機ベルトの点検

**❸車のまわりを回りながら** →50ページ

反射器、ナンバープレートの点検
灯火装置、方向指示器の点検
タイヤの点検
（※溝の深さの点検）

**❹運転席にすわって** →53ページ

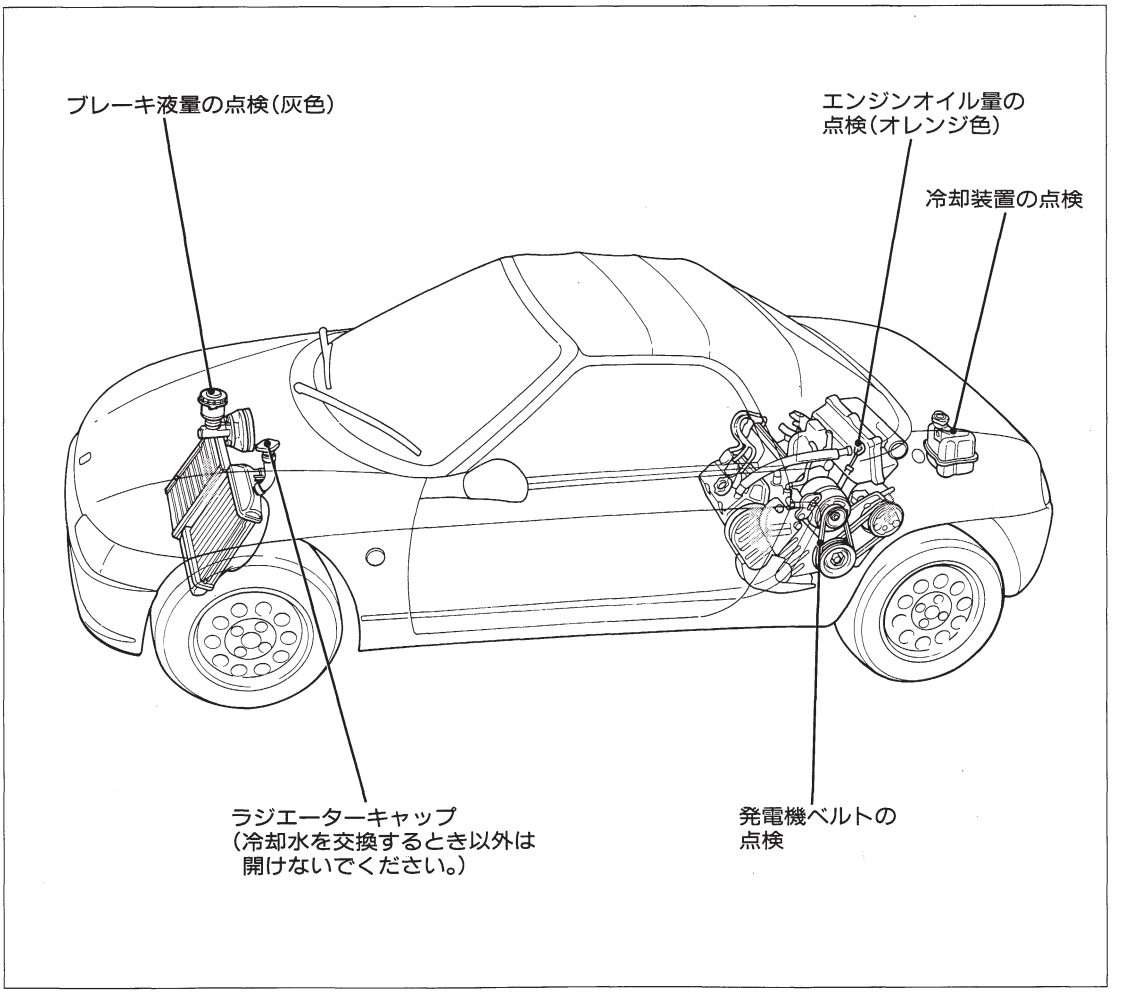
後写鏡の点検
駐車ブレーキの点検
ブレーキの点検
※燃料の量の点検

※印の点検項目は、80km／h以上で走行できる高速道路などを走行する予定がない場合には、行わなくてもよい項目です。

## ❶前日の異状箇所の点検

運行に支障がないかを点検します。

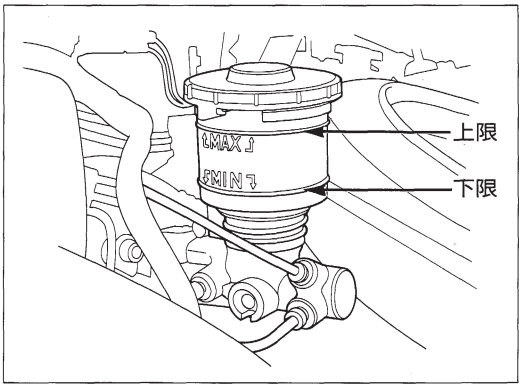
## ❷フロントコンパートメント、エンジンルームをのぞいて



## ブレーキ液量の点検

ボンネットを開け、リザーバータンクの液量が上限(MAX)と下限(MIN)の間にあるかを点検します。
液面が下限より下がっていたらすぐ補給してください。

ブレーキ液の補給　→112ページ



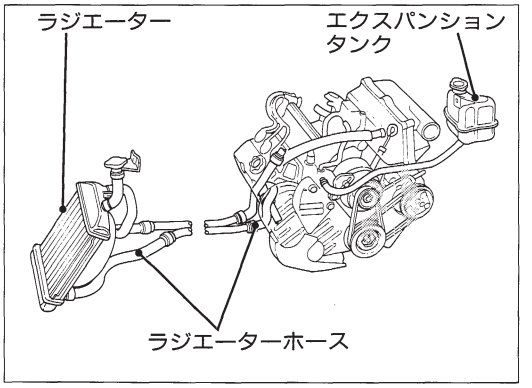

アドバイス

●万一、液の減りかたが著しいときは、ブレーキ系統の液漏れやブレーキパッドの摩耗が考えられます。ただちにホンダプリモ店で点検を受けてください。

## 冷却装置の点検

### ●水漏れ

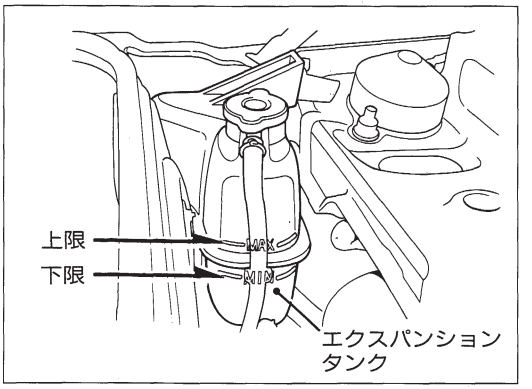
ラジエーター、ラジエーターホースなどから水漏れがないかを点検します。
このとき、車を停めておいた地面に水が漏れたあとがないかも調べます。




### ●冷却水の量

トランクを開け、エクスパンションタンク内の冷却水の量が上限(MAX)と下限(MIN)の間にあるかを点検します。
液面が下限より下がっていたらすぐ補給してください。

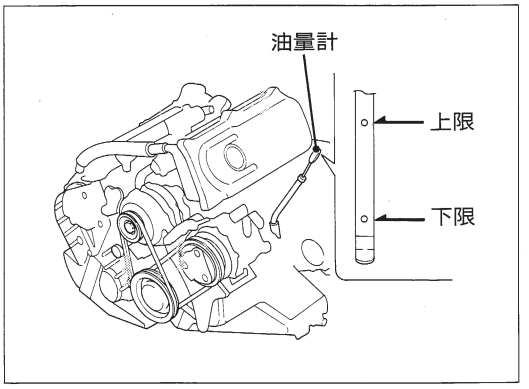
冷却水の補給　→111ページ



## エンジンオイル量の点検

エンジン始動前に行います。
トランクを開け、エンジンオイルの量が、油量計(オイルレベルゲージ)の目盛りの上限と下限の間にあるかを点検します。
点検は、油量計を抜き取り、付着しているオイルをふいて、再びいっぱいに差し込み、もう一度抜いてオイルの量をみます。
下限に近くなったら上限まで補給してください。

エンジンオイルの補給　→110ページ



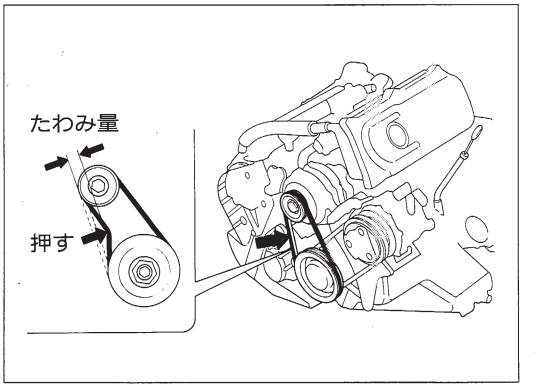
- **正確にオイル量を点検するために、次のことをお守りください。**
  - **車を水平な場所に置いて行ってください。**
  - **エンジン始動前か、エンジンを止めてから少なくとも3分以上たってから点検してください。**

## 発電機ベルトの点検

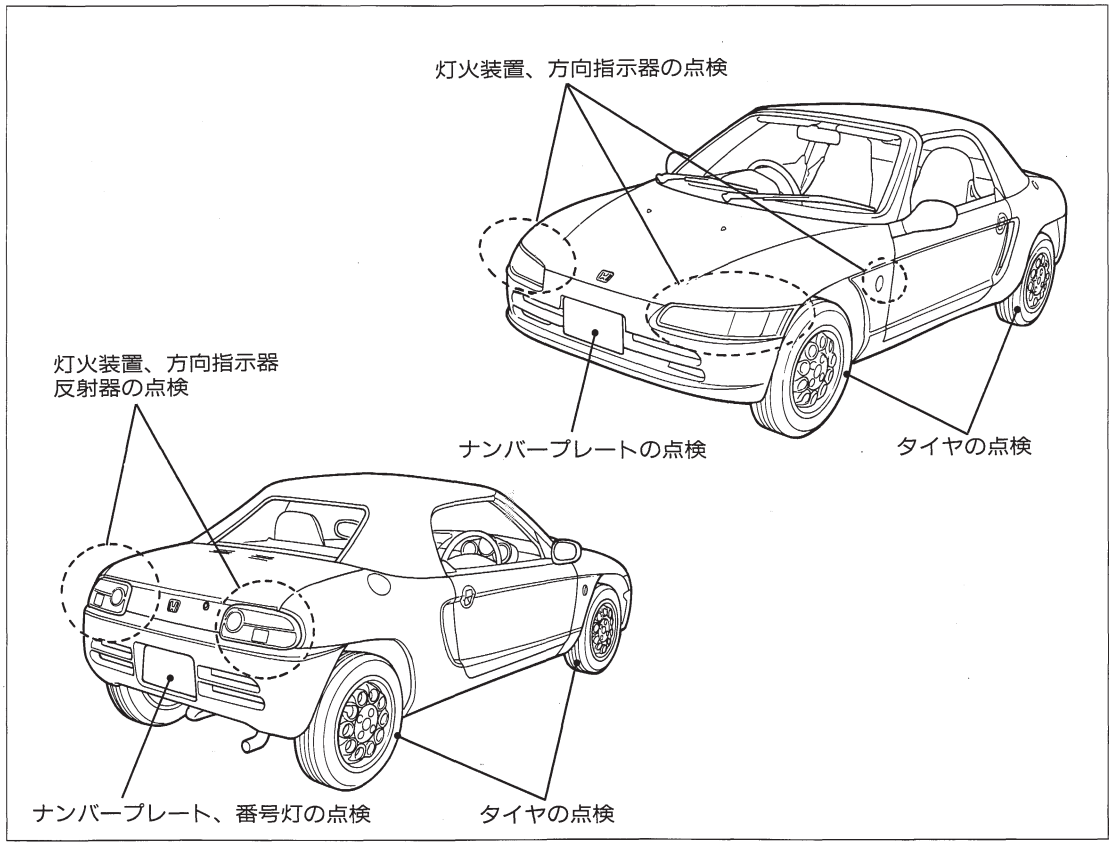
エンジンルームを開けます。

エンジンルームの開けかた　→38ページ

ベルトの中央部を強く押して(約10kgの力)、たわみ量を点検します。
このときベルトに傷がないかも点検します。
たわみ量は6.5～8㎜が適正です。



## ③車のまわりを回りながら




### 反射器、ナンバープレートの点検

反射器、ナンバープレートに著しい汚れや損傷がないかを点検します。
また、ナンバープレートが確実に取り付けられているかも手でさわって調べます。

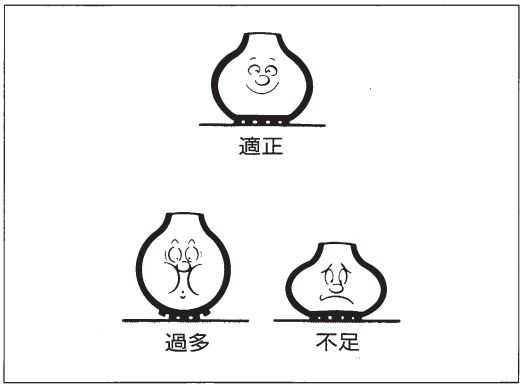
### 灯火装置、方向指示器の点検

エンジンスイッチを"ON"にし、
・前照灯・車幅灯・尾灯
・番号灯・後退灯・方向指示器
などを作動させて、点灯または点滅するかを点検します。
このとき、レンズに汚れや損傷がないかも調べます。
ブレーキペダルを軽く繰り返し踏み、制動灯が点灯するかを点検します。
点検は壁や鏡を利用するか、他の人に見てもらうなどして確認します。

## タイヤの点検

### ●空気圧

タイヤの接地部のたわみ状態を見て、空気圧が適当であるかを点検します。




**・標準タイヤ**

（空車時：単位kg/cm²）

| サイズ | | 空気圧 | |
|---|---|---|---|
| | | 一般 | 高速 |
| 前輪 | 155/65 R13 73H | 1.8 | |
| 後輪 | 165/60 R14 74H<br>165/60 R14 75H | 2.0 | |

**・応急用スペアタイヤ**

（空車時：単位kg/cm²）

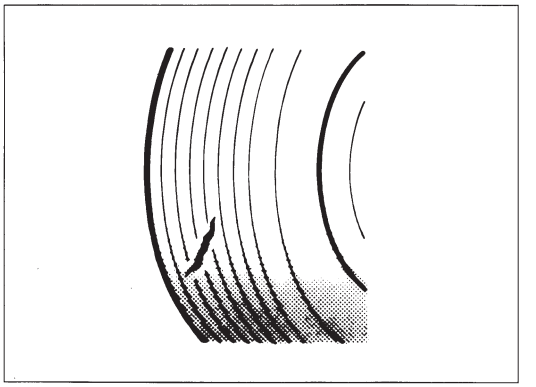
| サイズ | 空気圧 | |
|---|---|---|
| | 一般 | 高速 |
| T115/70 D14 | 4.2 | |

アドバイス ADVICE

● タイヤの空気圧やサイズは、運転席側ドア開口部に表示してあります。

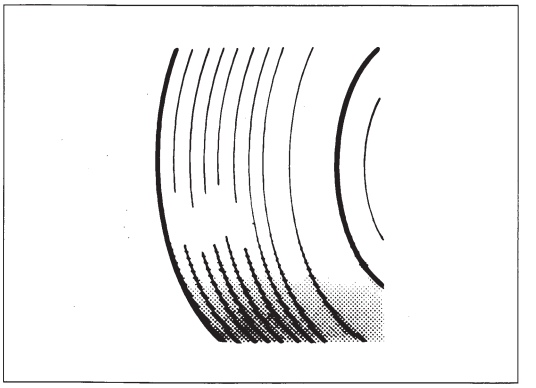
### ●亀裂、損傷

タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないかを点検します。



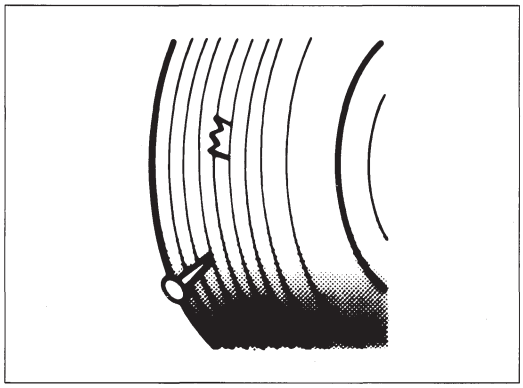
### ●異状な摩耗

タイヤの接地面に、極端にすり減っている個所がないかを点検します。



### ●異物のかみ込み

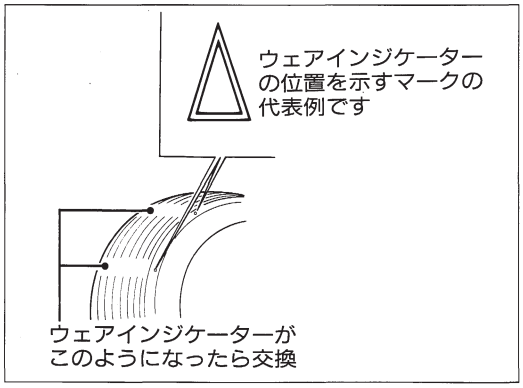
タイヤに釘や石などがささったり、かみ込んだりしていないかを点検します。



### ●タイヤの溝の深さ

タイヤの溝の深さに不足がないかをウェアインジケーター(摩耗限度表示)により点検します。ウェアインジケーターが表われたらタイヤを交換してください。

タイヤ交換　→91ページ



●ウェアインジケーターはタイヤの接地面にあり、他の部分より溝が1.6mmだけ浅くなっています。

●タイヤの摩耗、損傷、石など異物のかみ込みおよび指定外のタイヤ空気圧は、タイヤの寿命や乗り心地、操縦性を損ないます。

## ❹運転席にすわって

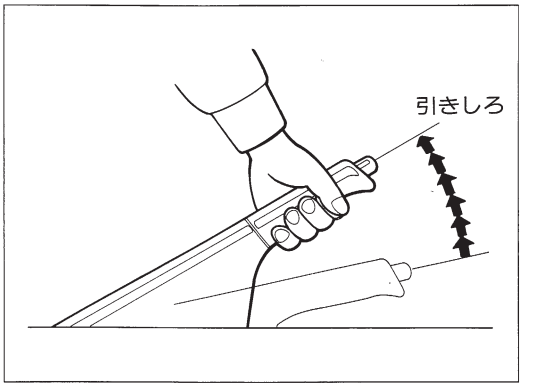
燃料の量の点検
後写鏡の点検
ブレーキの点検
駐車ブレーキの点検

### 後写鏡の点検

運転席に正しくすわって、後方や側方の状況が十分に確認できる位置に、後写鏡が調整されているかを点検します。

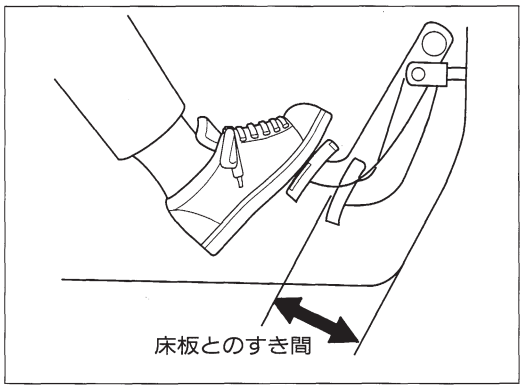
### 駐車ブレーキの点検

ブレーキをいっぱいに戻した状態からゆっくり引き上げて(約20kgの力)、5～9回の引っかかり音でレバーがロックするかを点検します。



## ブレーキの点検

エンジンを始動し、２～３回ペダルを踏み込んだのち、ペダルを力強く（約20kgの力）５秒以上踏み続けて床板とのすき間を点検します。
床板とのすき間は113mm以上が適正です。
（参考値・カーペットとのすき間99mm以上）

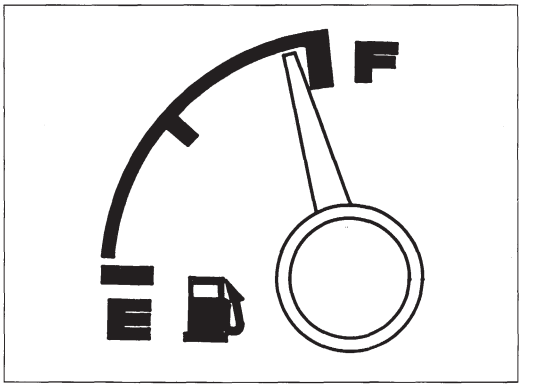


●踏み込んだとき、ふわふわする感じがある場合、または踏み続けたとき、ペダルがさらにはいり込む場合は、空気の混入や液漏れが考えられます。このようなときには、ブレーキのきき不良や片ぎきのおそれがあります。ブレーキの片ぎきは、ブレーキをかけたときにハンドルをとられて危険です。ただちにホンダプリモ店で点検を受けてください。

## 燃料の量の点検

燃料計により燃料の量が十分であるかを点検します。

燃料補給について　→41ページ



# 2

# 車を運転するときに


## メーターのはたらき

スピードメーター ……56
タコメーター ……56
オドメーター ……57
トリップメーター ……57
燃料計 ……57
水温計 ……57

## 表示灯、警告灯

方向指示器表示灯 ……58
前照灯の上向き(ハイビーム)表示灯 ……58
充電警告灯 ……59
油圧警告灯 ……59
排気温警告灯 ……59
ブレーキ警告灯 ……60
シートベルト警告灯 ……60
PGM-FI警告灯 ……61
SRSエアバッグシステム警告灯 ……61
警告灯の電球切れの点検 ……61

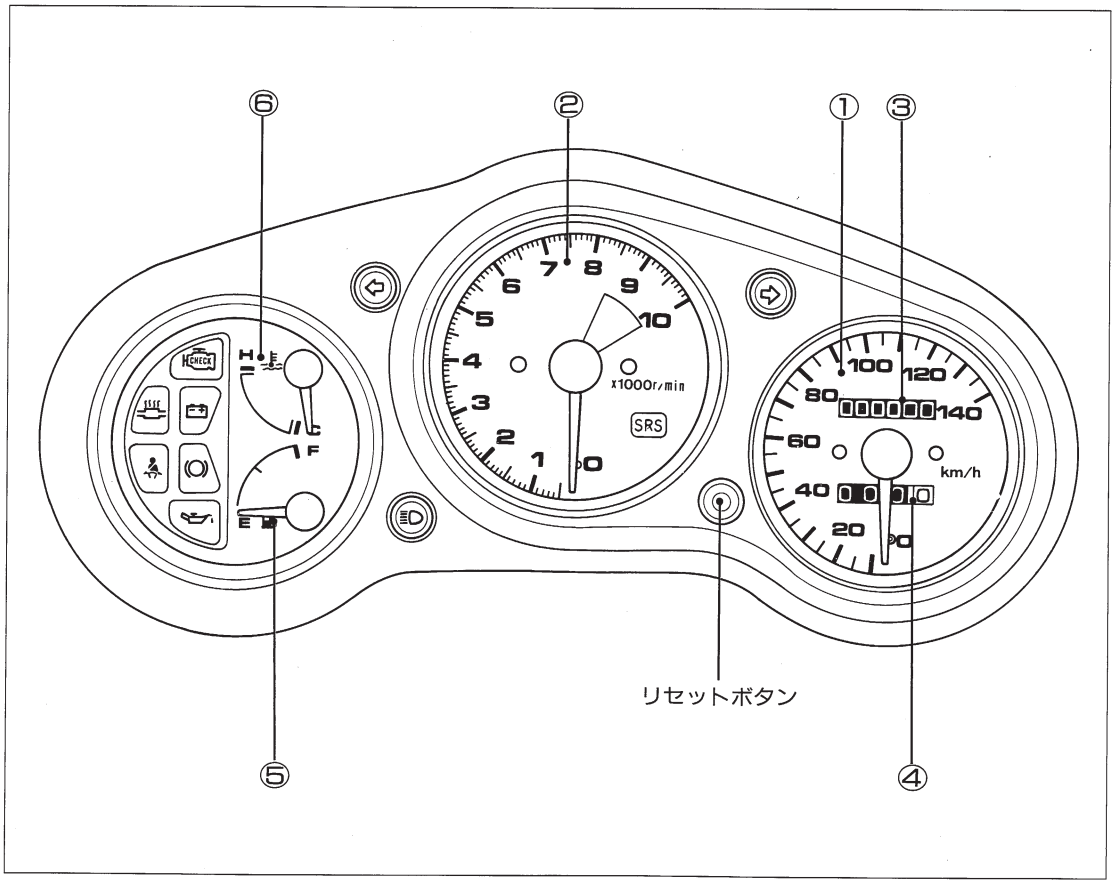
## スイッチの使い方

エンジンスイッチ ……62
ライトスイッチ ……63
方向指示器スイッチ ……64
ワイパー/ウォッシャースイッチ ……64
非常点滅表示灯スイッチ ……65

## 運転のしかた

駐車ブレーキ ……66
エンジンのかけかた ……66
チェンジレバーの操作 ……68

# メーターのはたらき




### ①スピードメーター

走行速度をkm／hで示します。

### ②タコメーター

1分間あたりの、エンジン回転数を示します。

アドバイス

●エンジン故障の原因となりますので、限界回転数以上のレッドゾーンに入らないように運転してください。特に高速走行時、変速(シフトダウン)するときには注意してください。

限界回転数 ……8,500r.p.m.

### ③オドメーター

走行距離の累計をkmで示します。

### ④トリップメーター

区間距離を知りたいとき、リセットボタンを押して〝0〟に戻して使います。

### ⑤燃料計

エンジンスイッチの位置に関係なく常に燃料の残量を示します。
〝E〟に近づいたら、早めに補給してください。

- 燃料補給後、エンジンスイッチを〝ON〟にしてから正しい量を示すまで、しばらく時間がかかります。

燃料補給について　→41ページ

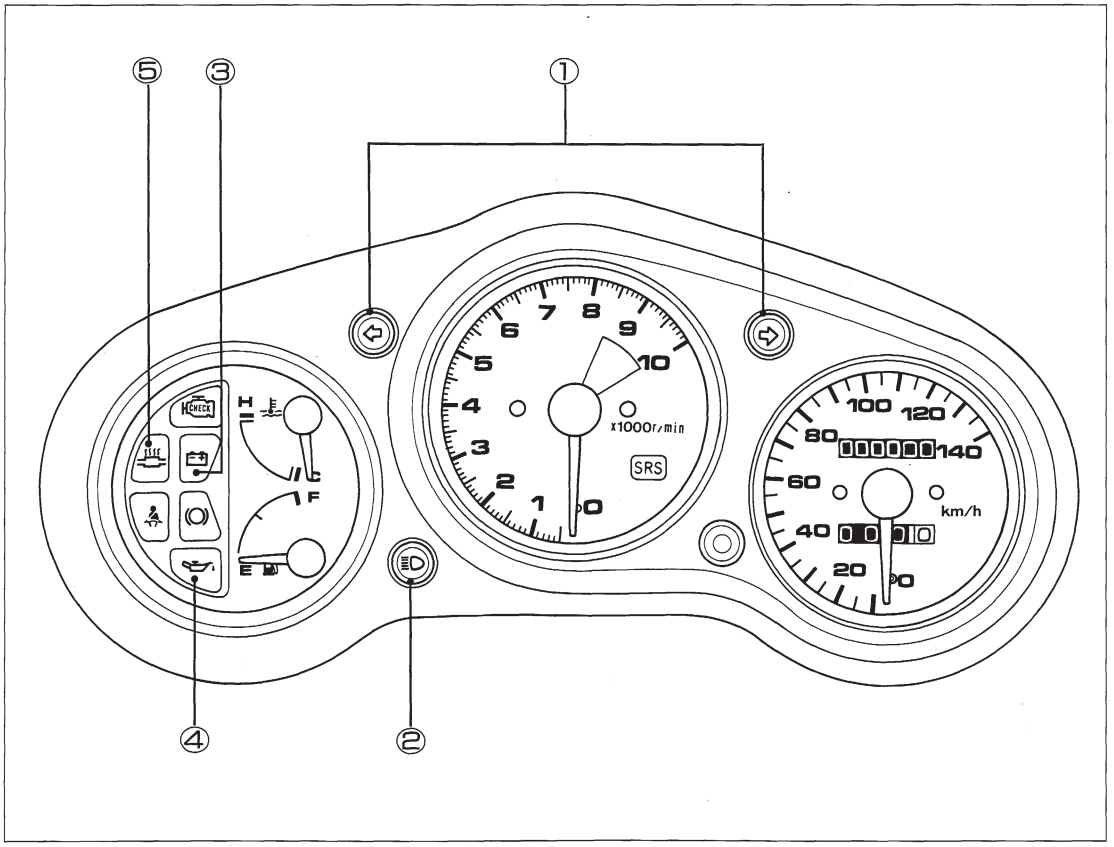
### ⑥水温計

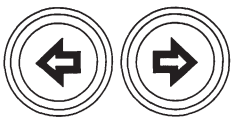
エンジン冷却水の温度を示します。
走行中は、目盛の赤いマークより下側をさすのが正常です。

- 万一、針が赤いマークに入った場合はオーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に停めてエンジンを冷やしてください。
そのまま走行を続けるとエンジン故障の原因となります。

オーバーヒートしたとき　→95ページ

# 表示灯、警告灯



## ①方向指示器表示灯

方向指示器のランプの点滅状態を表示します。

アドバイス

●方向指示器の電球が切れたときや、ワット(W)数の違ったものを使ったときは、表示灯の点滅が異常になります。

電球(バルブ)の交換　→97ページ
電球(バルブ)のワット数　→131ページ

## ②前照灯の上向き(ハイビーム)表示灯

前照灯が上向きのときに点灯します。

### ③充電警告灯

充電系統が異常のときに点灯します。

警告灯の電球切れの点検　→61ページ

●万一、運転中に点灯した場合は、エアコンスイッチを"OFF"にして、すみやかにホンダプリモ店で点検を受けてください。

発電機ベルトの点検　→49・109ページ

### ④油圧警告灯

エンジンの潤滑系統が異常のときに点灯します。

警告灯の電球切れの点検　→61ページ

●万一、運転中に点灯したときは、安全な場所に停車してエンジンを止め、エンジンオイル量を点検してください。
エンジンオイルが減っていないのに点灯しているときは、ホンダプリモ店で点検を受けてください。

エンジンオイル量の点検　→49・108ページ

### ⑤排気温警告灯

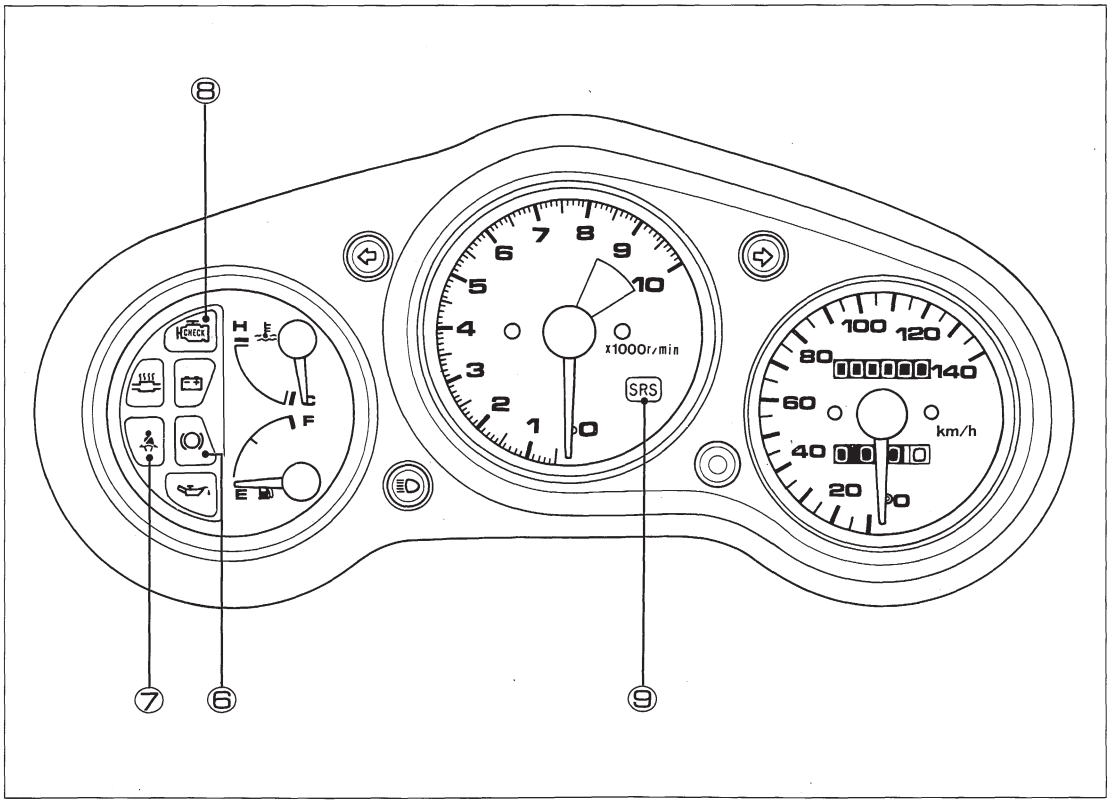
触媒装置の温度が異常に高いときに点灯します。

●充電警告灯が点灯すると排気温警告灯も同時に点灯します。この場合は触媒装置の異常を知らせているのではなく、充電系統の異常を知らせています。

走行中に点灯したときは、枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10分間以上エンジンを止めて、冷えるまでお待ちください。

警告灯の電球切れの点検　→61ページ

●走行中に一度点灯した警告灯は、触媒装置の温度が下がっても修理するまで消灯しません。
最寄りのホンダプリモ店に連絡してください。
または急加速、急減速などの無理な運転を避け、50km/h以下の速度で、最寄りのホンダプリモ店まで走行し点検を受けてください。
●警告灯が点灯したまま運転を続けると触媒装置を焼損することがあります。



### ⑥ブレーキ警告灯

駐車ブレーキがかかっているときやブレーキ液量がいちじるしく減少しているときに点灯します。

警告灯の電球切れの点検　→61ページ

●万一、駐車ブレーキをかけても点灯しないとき、解除しても消灯しないとき、走行中点灯したときは、ただちにホンダプリモ店で点検を受けてください。

ブレーキ液量の点検　→48・104ページ

### ⑦シートベルト警告灯

エンジンスイッチを"ON"にすると、運転席シートベルトを着用するまで点灯し続けます。運転席シートベルトを着用しないでエンジンスイッチを"ON"にすると、ブザーが約6秒間鳴ります。

### ⑧PGM-FI警告灯

エンジン制御システムが異常のときに点灯します。

●万一、運転中に警告灯が点灯した場合は、高速走行を避けて、ただちにホンダプリモ店で点検を受けてください。

### ⑨SRSエアバッグシステム警告灯

**エアバッグ装備車**

SRSエアバッグシステムが異常のときに点灯します。

SRSエアバッグシステム　→70ページ

●警告灯が点灯したときには、すみやかにホンダプリモ店で点検を受けてください。点灯している間は、必要なときにエアバッグが膨らみません。
なお、警告灯が点灯しても、エアバッグが誤って膨らむことはありません。

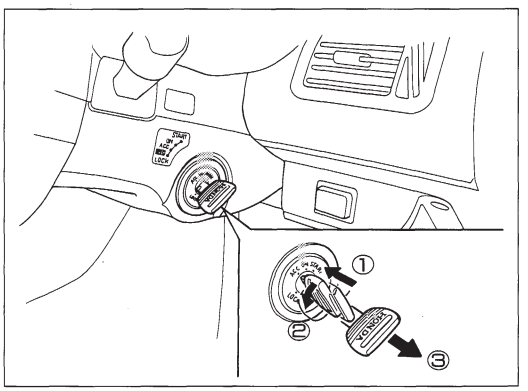
## 警告灯の電球切れの点検

エンジンスイッチを"ON"位置にしたとき、下記の警告灯類が点灯するのが正常です。

- 充電警告灯
  （エンジン始動後消灯）
- 油圧警告灯
  （エンジン始動後消灯）
- 排気温警告灯
  （エンジン始動後消灯）
- ブレーキ警告灯
  （駐車ブレーキを解除すると消灯）
- PGM-FI警告灯
  （数秒後消灯）
- SRSエアバッグシステム警告灯
  （約6秒後消灯）

# スイッチの使い方

## エンジンスイッチ




### "LOCK"

キーを抜く位置です。
"ACC"でキーを押し込んで"LOCK"まで回してキーを抜けば、ハンドルは固定されます。

アドバイス

●"LOCK"から"ACC"にキーが回らないときは、ハンドルを左右に軽く動かしながらキーを回してください。

### "ACC"

エンジンを止めてラジオなどのアクセサリーを使用するときの位置です。

### "ON"

運転するときの位置です。

アドバイス

●エンジンを止めた状態で"ON"にし、長時間放置しないでください。
バッテリー容量が低下し、エンジンがかからなくなることがあります。

### "START"

エンジン始動位置です。
始動したら、キーから手を離してください。自動的に"ON"に戻ります。

### ●キー抜き忘れ警告ブザー

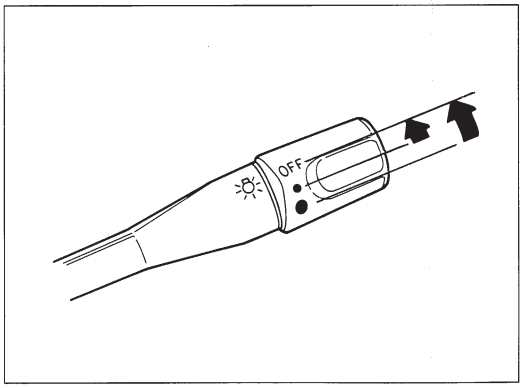
エンジンスイッチが"ACC"または"LOCK"のままで車を離れようとしたとき(運転席ドアを開けたとき)、ブザーが鳴りキーの抜き忘れを知らせます。

## ライトスイッチ

### ●ライトの点灯・消灯

**点灯**

エンジンスイッチの位置に関係なく、次のように点灯、消灯します。




| ライト名 / スイッチ位置 | 前照灯 | 車幅灯・尾灯<br>番号灯・計器類<br>照明灯 |
|---|---|---|
| OFF | —— | ———— |
| ● | —— | 点　灯 |
| ● | 点灯 | 点　灯 |

**消灯**

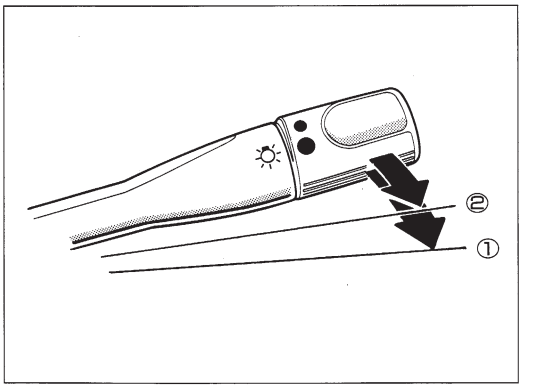
ライトスイッチを"OFF"の位置にすると消灯します。

アドバイス ADVICE

●エンジンを止めた状態で、ライト類を点灯したままにしないでください。バッテリーあがりの原因となります。

### ●前照灯の上向き(ハイビーム)と下向き(ロービーム)の切り換え

レバーを①の位置まで引くと上向き下向きの切り換えができます。遠くまで照らしたいとき上向きにします。表示灯(→58ページ)が点灯して上向きであることを知らせます。




アドバイス ADVICE

●対向車のあるときや市街地走行など、上向きが不適切なときは下向きにします。

### ●追越合図

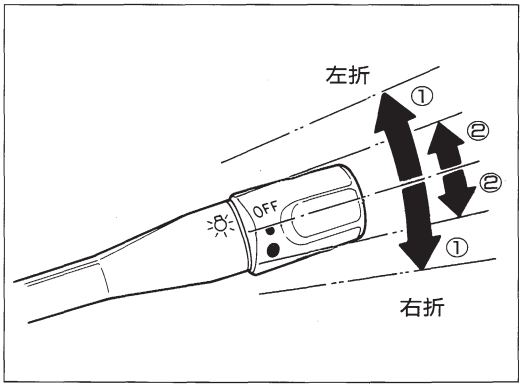
レバーを軽く②の位置まで引いたり離したりすると、前照灯の上向きが点滅します。先行車に合図を送るときなどに使います。

アドバイス ADVICE

●前照灯が上向き(ハイビーム)のときは作動しません。

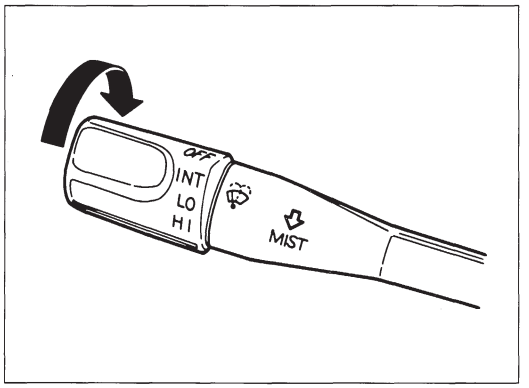
## 方向指示器スイッチ

ふだんは①の位置で使います。
この位置では、ハンドルの切り角が小さいときには戻らない場合もあります。戻らないときは、手で戻してください。
車線変更などでは、②の位置に軽く手で押さえながら使います。

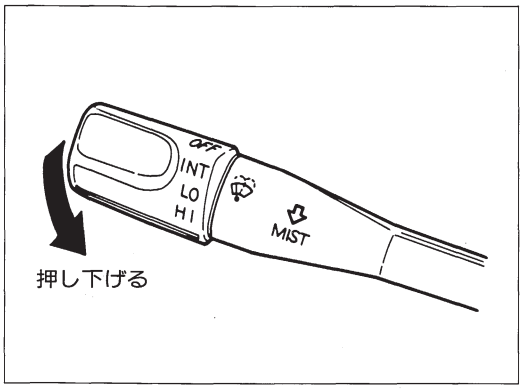



## ワイパー/ウォッシャースイッチ

### ●ワイパースイッチ




**OFF** ……停止
**INT**(間欠)……雨量の少ないとき
**LO**(低速)……普通雨量のとき
**HI**(高速)……雨量の多いとき

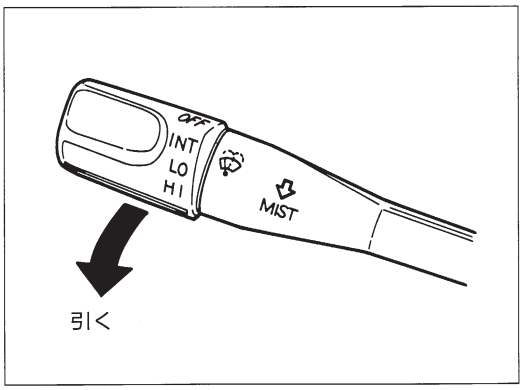



*MIST(ミスト)…レバーを押し下げている間、HI(高速)で作動します。

*MIST(ミスト)とは、英語で"もや、霧"という意味です。

### ●ウォッシャースイッチ

レバーを手前に引くとウォッシャー液が噴射します。




アドバイス

●ワイパーを止めるときは、エンジンスイッチが〝ON〟のままワイパースイッチを〝OFF〟にしてください。ワイパーを正しい位置で止めるためです。

アドバイス

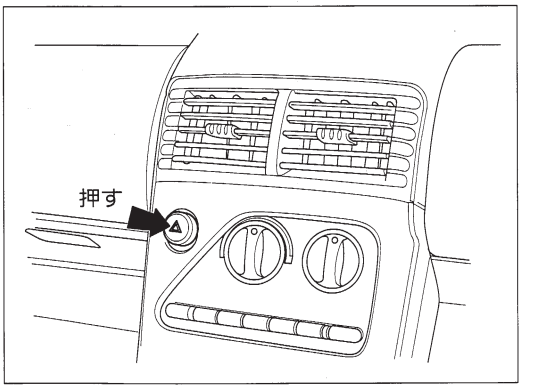
●空ぶきはガラス面に傷をつけたり、ブレード(ゴム部)を傷めたりします。
ウォッシャー液を噴射してからワイパーを動かしてください。
●ウォッシャー液が出ないときはウォッシャースイッチを切ってください。ウォッシャー液がないままで動かすとポンプの故障の原因となります。
●寒冷時、ブレード(ゴム部)がガラス面に張りつくことがありますのでヒーターで前面ガラスを暖めてください。
→79ページ
凍りついたまま動かすとブレード(ゴム部)を傷めたり、ワイパーモーターの故障の原因となります。

注意

●寒冷時、ウォッシャー液を噴射するときは先にヒーターを使って前面ガラスを暖めてください。吹きつけられた液が凍結し視界をさまたげるのを防ぐためです。
→79ページ

## 非常点滅表示灯スイッチ

スイッチを押すとすべての方向指示器のランプが点滅します。
故障でやむをえず路上駐車するとき使います。



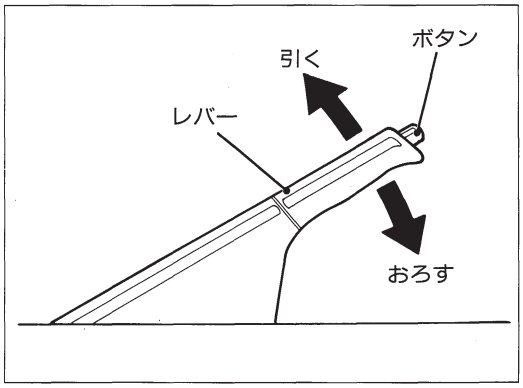

アドバイス

●非常時にのみお使いください。
完全充電の新しいバッテリーでも約2時間以上使うとバッテリー容量が低下し、エンジンの始動ができなくなります。

# 運転のしかた

## 駐車ブレーキ

ボタンを押さずにレバーをいっぱいに引くと、後輪ブレーキがききます。戻すときはレバーを軽く引きあげながら、レバー先端のボタンを押し込み、そのまま下に完全におろします。




アドバイス

●駐車するときは、必ず駐車ブレーキをかけてください。

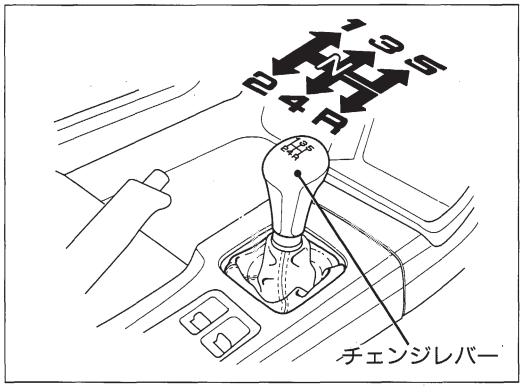
寒冷時の駐車ブレーキの取り扱い
→128ページ

## エンジンのかけかた

### ●エンジンをかける前に

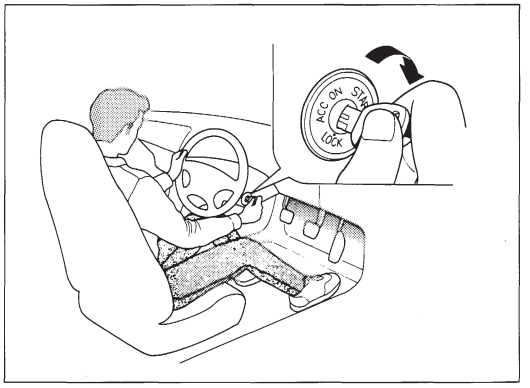
駐車ブレーキをかけ、チェンジレバーを N(ニュートラル)にしてください。

チェンジレバーの操作　→68ページ



## ●かけかた

1 アクセルペダルを踏まずに、エンジンが始動するまでスターターを回してください。




アドバイス

●バッテリーあがりを防ぐため、スターターは連続して15秒以上回さないでください。15秒回してもエンジンが始動しなかったときは、一度キーを"ACC"に戻して10秒以上待ってから再始動してください。

2 エンジンがあたたまっていると始動に時間がかかることがあります。アクセルペダルを半分程度踏み込んだまま、スターターを回してください。エンジンが始動したら、アクセルペダルを徐々に戻してください。

3 エンジン始動後は、PGM-FIの働きによりエンジン回転が高くなりますが、自動的に適正回転に下がります。

アドバイス

●ライトスイッチ、ファンスイッチは"OFF"にした方が始動は容易になります。

アドバイス

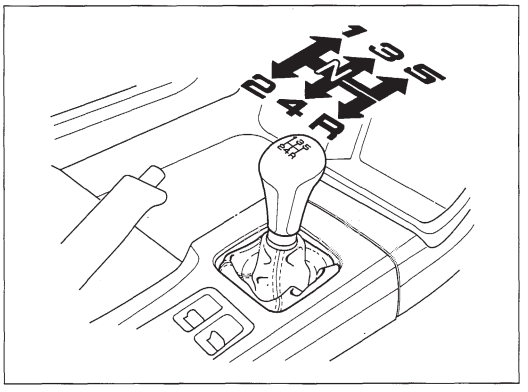
●寒い日または数日間以上運転しなかったときは、必ず暖機が完了してから走行してください。

注意

●換気の悪い車庫や屋内ではエンジンをかけたままにしないでください。一酸化炭素中毒をおこす危険があります。
●排気音が変わったり、車内でガソリンや排気ガスのにおいが消えない場合は、必ずホンダプリモ店で点検を受けてください。

## チェンジレバーの操作

### ●チェンジレバー




変速するときは、クラッチペダルをいっぱいに踏み込んで、チェンジレバーを確実に操作します。

**Rに入れるとき**

誤操作を防ぐため、5 から R へは直接、入れられません。一度 N へ戻してから R に入れてください。

●トランスミッションを傷めないために、R には車が完全に停止してから入れてください。

### ●速度範囲

エンジンを過回転させないために、下表の各チェンジレバー位置での速度範囲を参考に、シフトダウンしてください。

| チェンジレバー位置 | 速度範囲 |
|---|---|
| 1 | 0〜40km/h |
| 2 | 15〜65km/h |
| 3 | 20〜80km/h |
| 4 | 35km/h〜 |
| 5 | 40km/h〜 |

●エンジン故障の原因となりますので、限界回転数以上のレッドゾーンに入らないように運転してください。特に高速走行時、変速(シフトダウン)するときには注意してください。
限界回転数 ……8,500r.p.m.
●エンジンの回転をあやまって限界回転数以上のレッドゾーンで運転した場合、エンジン保護装置により、燃料供給が停止されます。そのとき、軽い衝撃を感じることがありますが、異常ではありません。
●1,000km走行するまでは急発進、急加速を避け、表の上限速度よりも控えめな運転をしてください。

●法定速度を守って走行してください。
●滑りやすい路面では、急激なエンジンブレーキがタイヤのスリップを招くことがあります。シフトダウンする際の車速には十分注意してください。

# 3

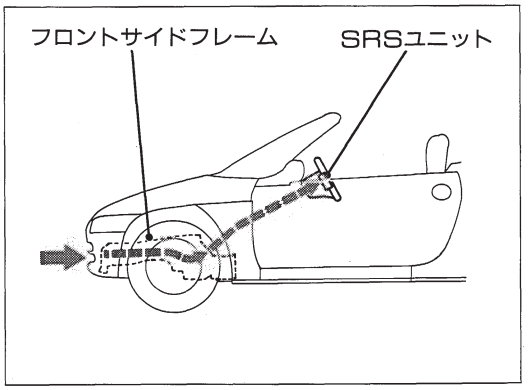
# 安全装備

SRSエアバッグシステム ……70
その他の安全装備 ……72

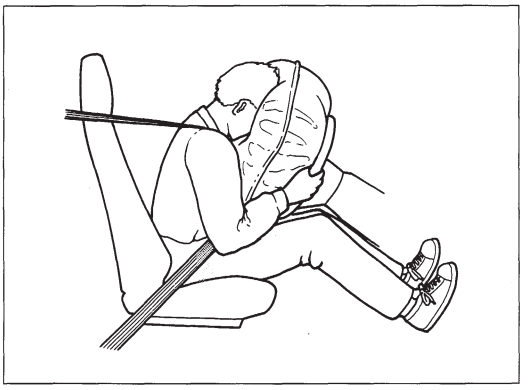
## SRSエアバッグシステム(運転席用シートベルト補助乗員保護装置)

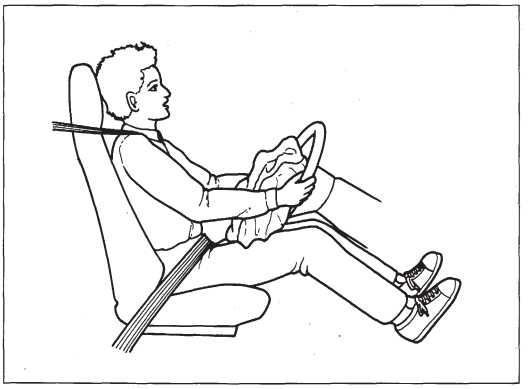
SRSエアバッグ装備車

SRSエアバッグシステムは、エンジンスイッチが"ON"のとき、前方向からの衝突によりフロントサイドフレームに強い衝撃を受け、(正しくシートベルトを着用していてもハンドルに顔面があたり、けがをするような場合)SRSユニット内の2個のセンサーが一定以上の衝撃を感知するとシステムが作動し、エアバッグが膨らんで運転者の顔面への衝撃を緩和する構造になっております。




このシステムは、シートベルトと併用することでその効果を発揮します。

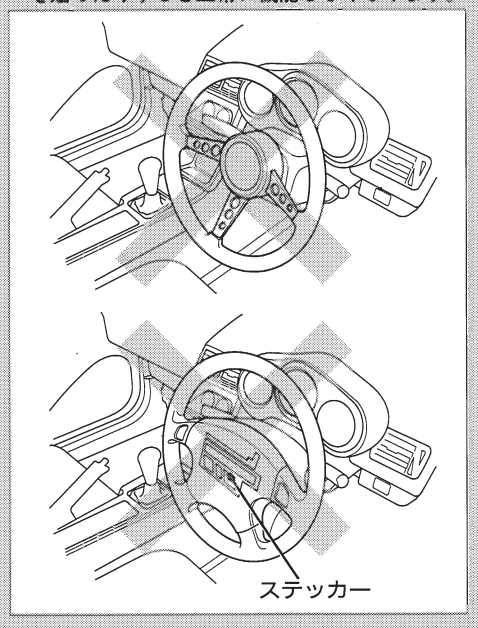




エアバッグが膨らんでも乗員保護の効果がない、横方向・後部からの衝突や転覆あるいは、シートベルトだけで乗員を保護できるような低い速度での衝突では、システムは作動しません。また、出会い頭、電柱・立木、トラックへの潜り込み等、フロントサイドフレームに衝撃が伝わりにくい衝突では、システムが正常であっても作動しないことがあります。

**SRSエアバッグシステムはシートベルトに代わるものではありません。**
**必ず、シートベルトを着用してください。**

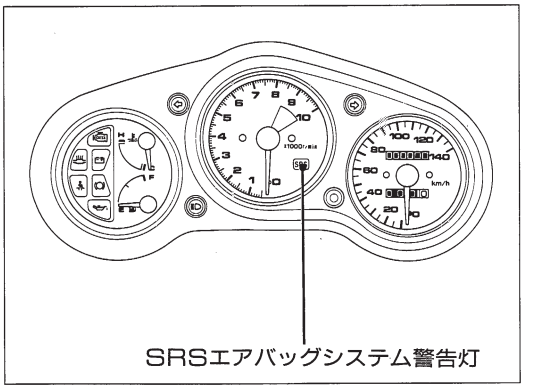
●ハンドルを交換したり、パッドにステッカー類を貼ったりすると正常に機能しなくなります。



- 膨らんだエアバッグはすぐにしぼみます。視界を妨げません。
- エアバッグが膨らむと白煙が出ますが、火災ではありません。また、人体への影響もありません。
- ステアリングパッド内にSRSユニットを内蔵しているため、ハンドルに衝撃を与えないでください。
- エアバッグは一度膨らむと再使用できません。ホンダプリモ店で交換してください。
- ハンドルまわりの修理をする場合は、SRSエアバッグシステムに影響を及ぼすおそれがありますので、必ずホンダプリモ店にご相談ください。

## ●SRSエアバッグシステム警告灯

メーター内に組み込まれており、ユニットがシステムの異常を検出すると点灯します。




エンジンスイッチを"ON"にしたときに約6秒間点灯して消えるのが正常です。

## ●定期点検について

SRSエアバッグシステムは、性能を維持するため、定期的に点検が必要です。点検は、お車を最初に登録してから10年後に1回目を、その後は5年ごとに受けてください。

## その他の安全装備

ほかに、次のような安全装備を採用しています。

**●シートベルト未装着警報装置**

シートベルトの未装着を警告灯とブザーで知らせ、ベルトの装着を促します。

（⇨60ページ）

**●ドアビーム**

側面から外力が加わったときに、ドアの変形を抑える効果があります。

**●ロールオーバーバルブ**

車が転倒したとき、燃料タンクブリーザーからの燃料流出を防止します。

**●難燃性材料使用の内装**

フロアカーペットやシートなど内装材すべてに、燃え広がりにくい素材を採用しています。

# 4

# ドライブを快適にする装備


ヒーター・エアコン

吹き出し風調節ノブ ……75

ヒーター・エアコンの使いかた ……76

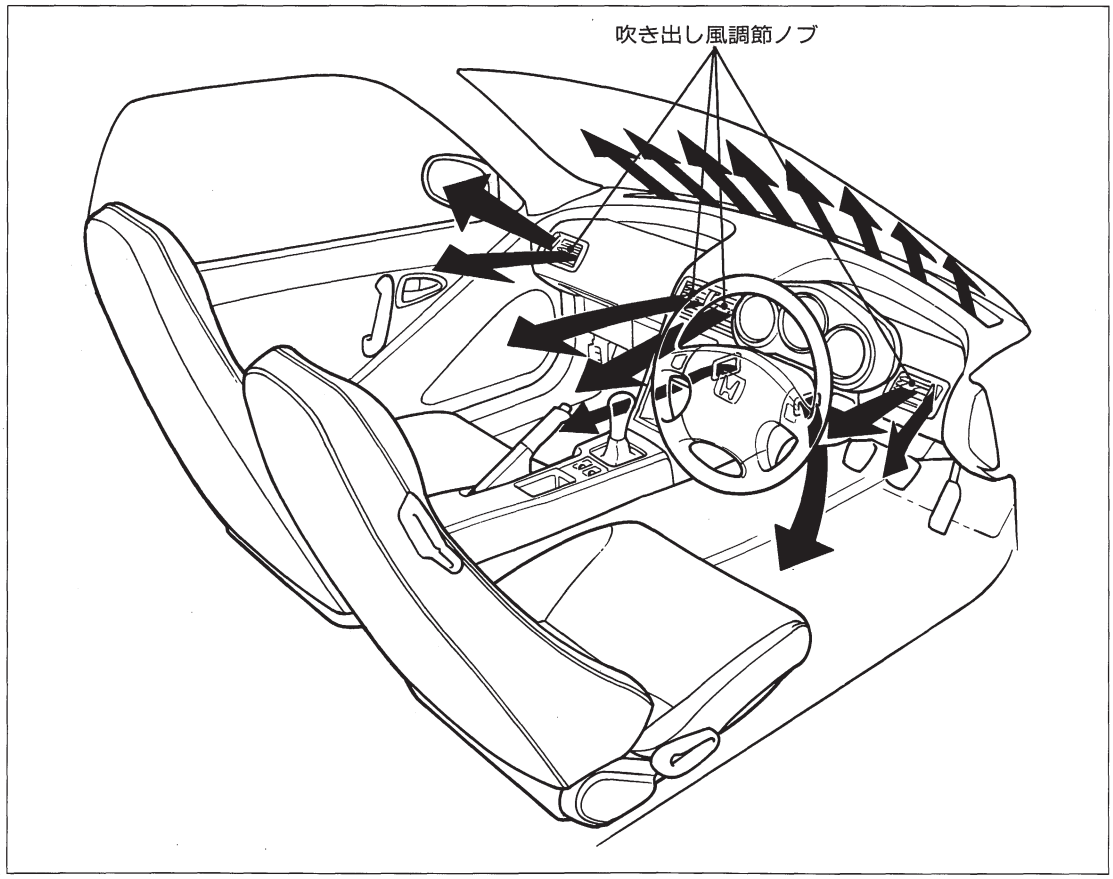
室内装備品

室内灯 ……81

サンバイザー ……81

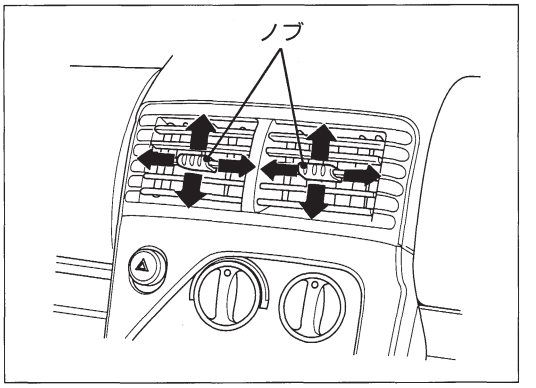
小物入れ ……82

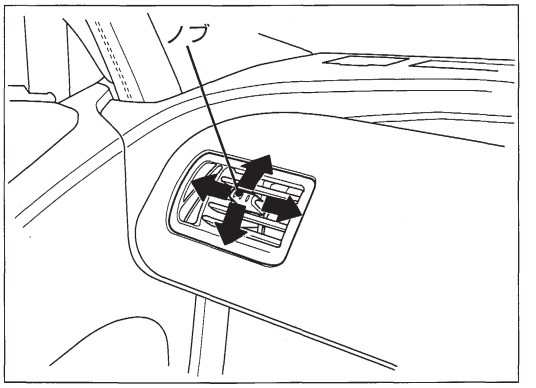
# ヒーター・エアコン



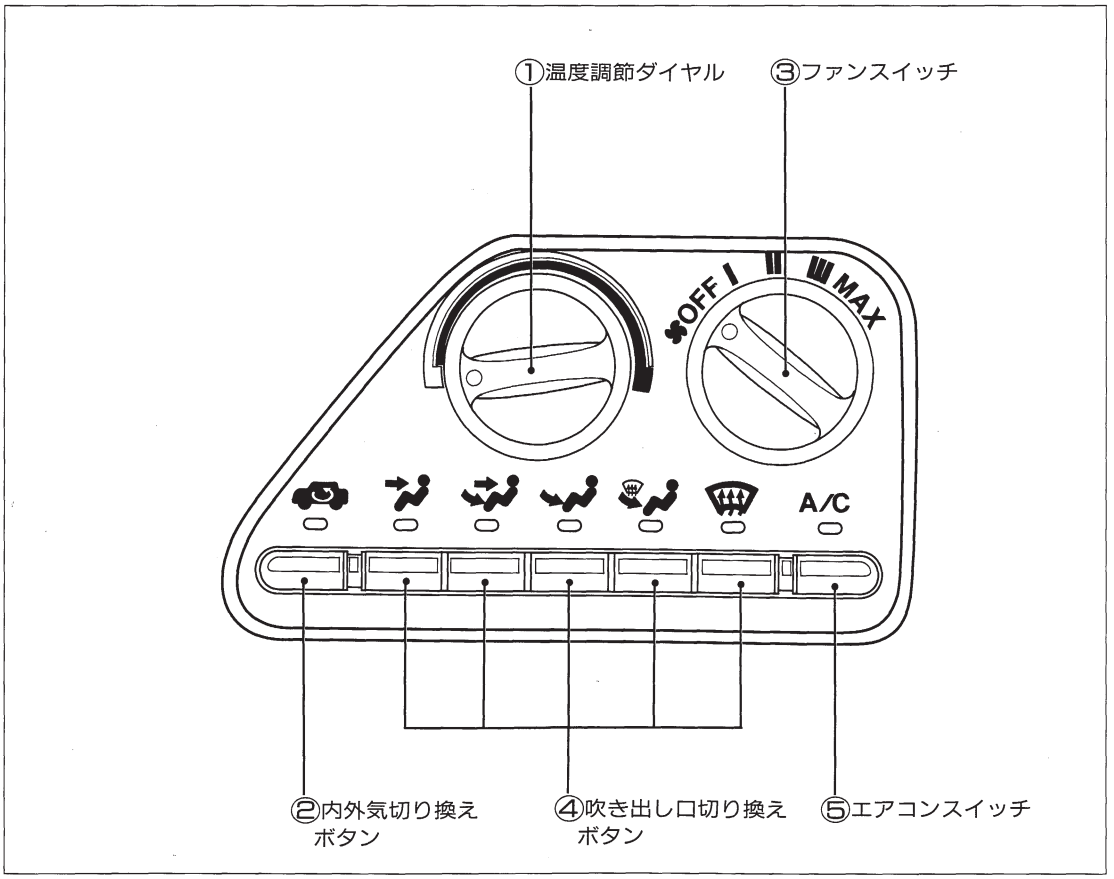
## 吹き出し風調節ノブ

ノブを上下または左右に動かして、吹き出し風の向きを調節します。



## ヒーター・エアコンの使いかた




### ①温度調節ダイヤル

ダイヤルを左右に回し、吹き出し風の温度を調節します。右に回すと、吹き出し風の温度が高くなります。

### ②内外気切り換えボタン

"🚗"のボタンを押すと内気循環になり、表示灯が点灯します。もう一度押すと表示灯は消灯し、外気導入になります。

アドバイス

- 通常の暖房時はガラスの曇りを防ぐため、外気導入で使ってください。
- トンネルや渋滞地域などで外気が汚れているときは、一時的に内気循環にしてください。

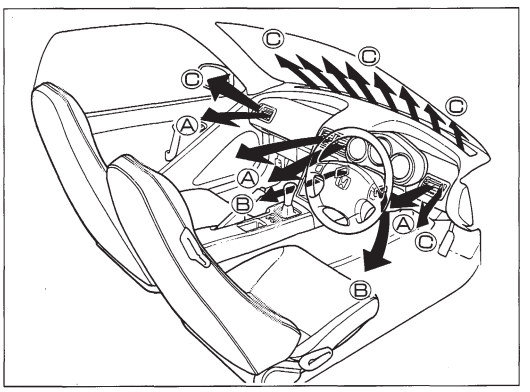
### ③ファンスイッチ

| スイッチの位置 | 風　　量 |
|---|---|
| OFF | 停　止 |
| I | 弱 |
| II | 中 |
| III | 強 |
| MAX | 最　強 |

### ④吹き出し口切り換えボタン

各ボタンを押すことにより吹き出し口が変わり、表示灯が点灯します。

| 表　　示 | 吹き出し口 |
|---|---|
| | Ⓐ・・ |
| | Ⓐ Ⓑ・ |
| | ・Ⓑ・ |
| | ・Ⓑ Ⓒ |
| | ・・Ⓒ |




### ⑤エアコンスイッチ

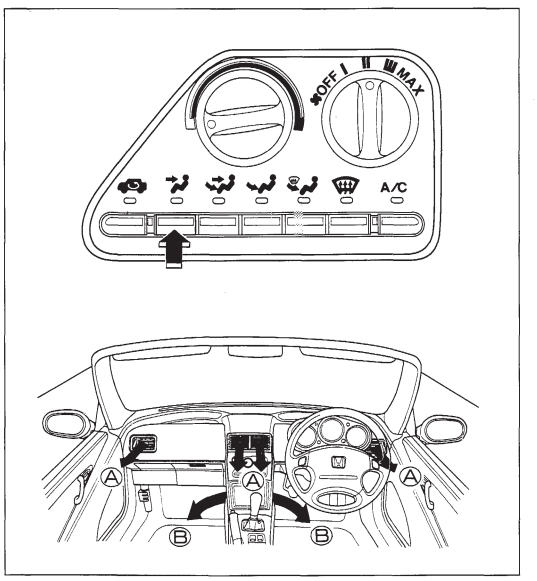
ファンスイッチがⅠ、Ⅱ、Ⅲ、MAXのとき、エアコンスイッチを押すと、表示灯が点灯します。もう一度押すと切れます。
冷房や除湿暖房をするときに使います。

アドバイス

●通常の暖房として使うときは、スイッチを切っておいてください。

### ●換気

内外気切り換えボタンは外気導入にします。
各ボタン/ダイヤルを図の位置にし、ファンスイッチを入れるとⒶから外気が吹き出します。
エアコンスイッチは"OFF"にします。
吹き出し口切り換えボタンを"　"の位置にすると、Ⓑからも吹き出します。

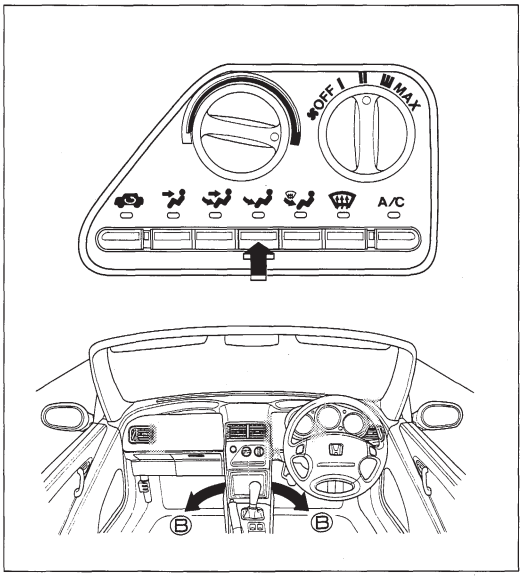


### ●暖房

内外気切り換えボタンは外気導入にします。
各ボタン/ダイヤルを図の位置にし、ファンスイッチを入れると温風がⒷから吹き出します。
エアコンスイッチは、"OFF"にします。

アドバイス ADVICE

●温度調節ダイヤル、ファンスイッチは好みの位置に合わせてください。




急速に車内を暖めたいときは内外気切り換えボタン"🚗"を押して内気循環(表示灯点灯)にし、温度調節ダイヤルを右いっぱいにしてファンスイッチを"MAX"(最強)にします。

注意 WARNING

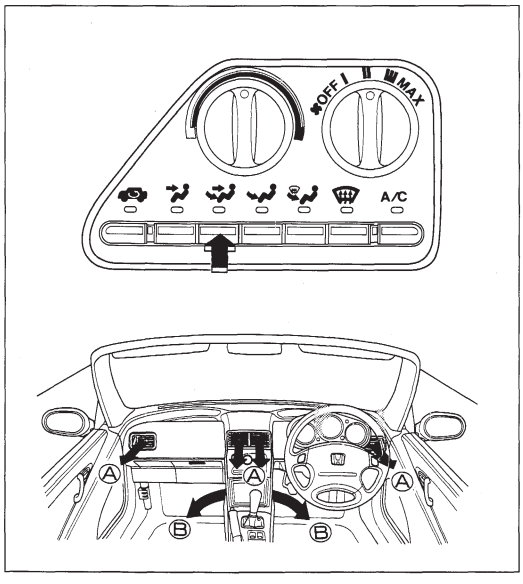
●内気循環で使い続けると窓ガラスが曇り、視界を妨げて危険です。一度暖めた後は外気導入で使ってください。

### ●頭寒足熱暖房

内外気切り換えボタンは外気導入にします。
各ボタン/ダイヤルを図の位置にし、ファンスイッチを入れるとⒷから温風が、Ⓐからは比較的温度の低い風が吹き出します。
エアコンスイッチは"OFF"にします。

アドバイス ADVICE

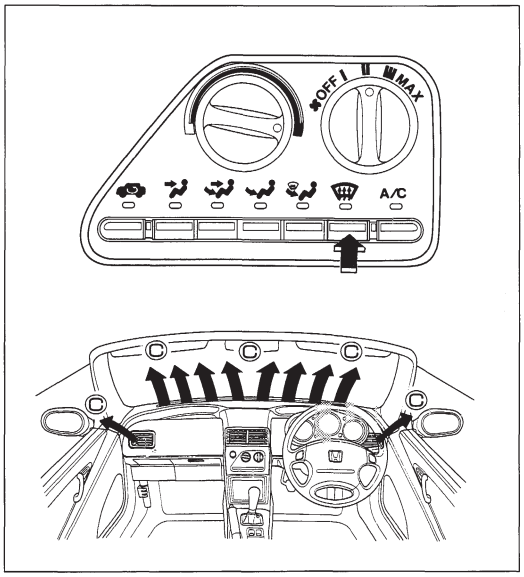
●温度調節ダイヤルは図の位置付近に、ファンスイッチは好みの位置に合わせてください。



### ●前面／側面ガラス霜取り（デフロスター）、曇り取り

内外気切り換えボタンは外気導入にします。
各ボタン/ダイヤルを図の位置にし、ファンスイッチを入れると©から温風が吹き出します。夏期の曇り止めには、温度調節ダイヤルを適度に調節します。
梅雨時など湿度の高いときにエアコンスイッチを入れると、©から除湿された風が吹き出し前面／側面ガラスの曇り止めに効果があります。

●エアコンスイッチを入れているときは、温度調節ダイヤル左端（最大冷房）付近にしないでください。冷風が前面ガラスにあたるとガラスの外側が曇ることがあります。



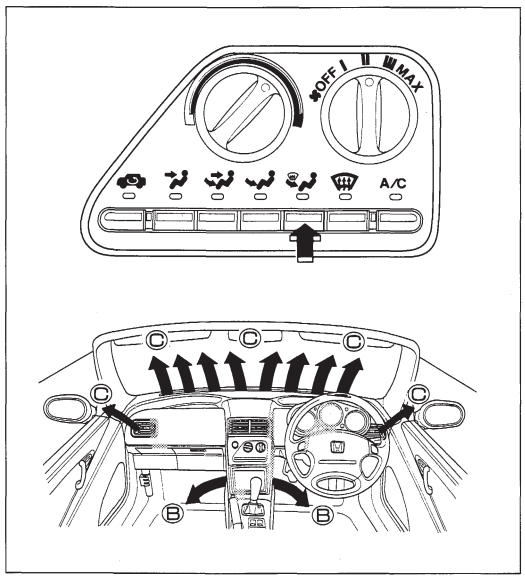

急速に霜を取りたいときは内外気切り換えボタン"🚗"を押して内気循環（表示灯点灯）にし、温度調節ダイヤルを右いっぱいにしてファンスイッチを"MAX"（最強）にします。

●内気循環で使い続けると窓ガラスが曇り、視界を妨げて危険です。一度霜を取った後は外気導入で使ってください。

### ●曇り止め暖房

内外気切り換えボタンは外気導入にします。
各ボタン/ダイヤルを図の位置にし、ファンスイッチを入れると温風がⒷと©から吹き出します。

●温度調節ダイヤル、ファンスイッチは好みの位置に合わせてください。



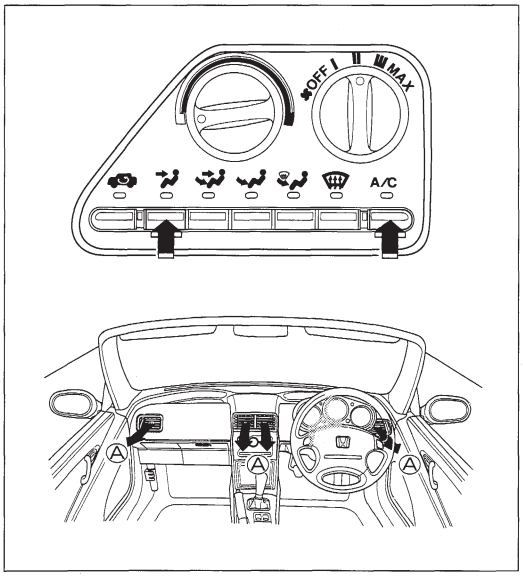

エアコンスイッチを入れると、除湿暖房ができます。
春・秋などの雨天で曇りやすいときに使います。外気が除湿され、乾燥した空気で暖めますので、曇り止めに役立ちます。

### ●冷房

内外気切り換えボタンは外気導入にします。
各ボタン/ダイヤルを図の位置にし、エアコンスイッチ、ファンスイッチを入れると冷やされた空気がⒶから吹き出します。

アドバイス

- 温度調節ダイヤル、ファンスイッチは好みの位置に合わせてください。



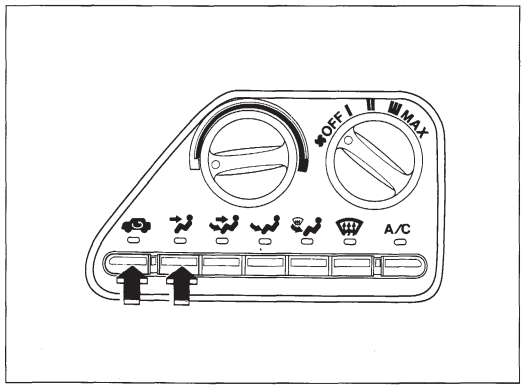

急速に車内を冷やしたいときは、ファンスイッチを"MAX"(最強)に、内外気切り換えボタン"🚗"を押して内気循環(表示灯点灯)に、温度調節ダイヤルを左端(最大冷房)にします。

注意

- 急速冷房で車内が冷えたら内外気切り換えボタンをもう一度押して、外気導入にしてください。内気循環のまま長時間使うと車内の空気が汚れます。
- 炎天下に駐車していたときは、窓を開けて熱気を追い出しながら、冷房を開始してください。
- 長時間、冷風を直接体に当てないでください。冷やしすぎは健康上良くありません。

### ●使用しないとき

各ボタン/ダイヤルを図の位置にし、内外気切り換えボタン"🚗"を押して内気循環(表示灯点灯)にします。




### ●冷房を常用しないとき

装置各部のオイルをきらさないために、ときどきエンジンを低回転させた状態で、数分間冷房または除湿暖房してください。

アドバイス

- 室内の温度が低いときは、エアコンが作動しないことがあります。このような場合には、室内を暖めてから内気循環で使ってください。

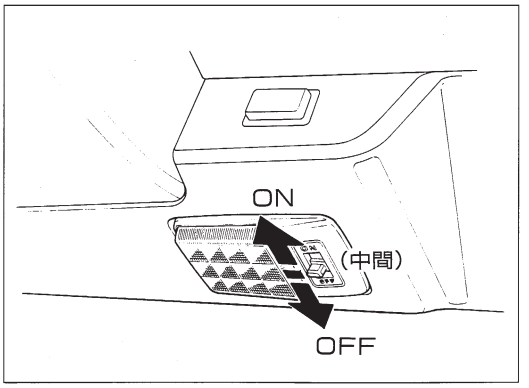
# 室内装備品

## 室内灯

**"ON"**
ドアの開閉に関係なく点灯します。

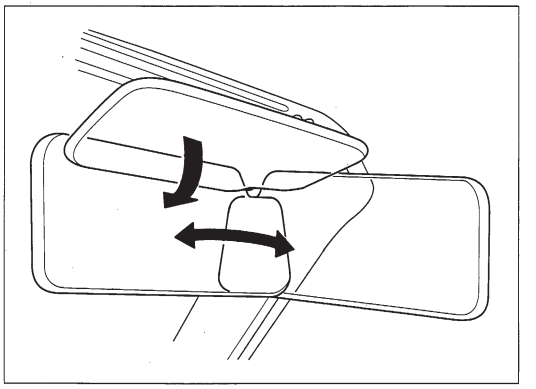
**(中間)**
運転席ドアを開いたときのみ点灯します。

**"OFF"**
ドアの開閉に関係なく消灯します。




## サンバイザー

サンバイザーを横に移動するときは、一度おろしてから行います。

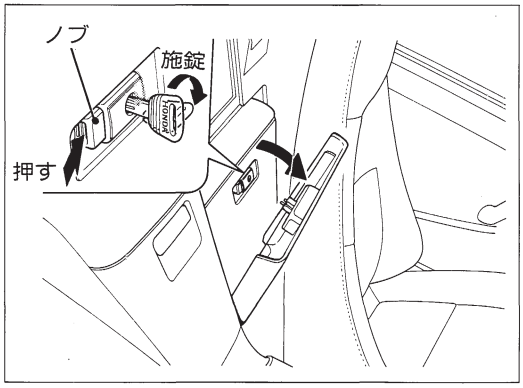


● ソフトトップを閉めているときは、横に移動しないでください。

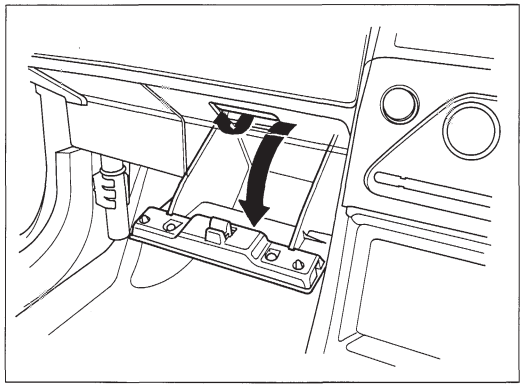
## 小物入れ

### ●ドキュメントボックス

助手席背もたれのうしろに、ドキュメントボックスがあります。車検証や取扱説明書を入れておくのに便利です。
ノブを押して開けます。
キーで施錠できます。



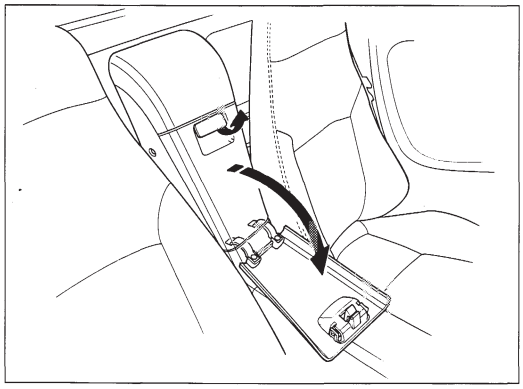

### ●アシスタントボックス



●走行中は、アシスタントボックスのふたを必ず閉めておいてください。
万一の場合、アシスタントボックスのふたや内部の小物が思わぬ危険物となります。

### ●カセットボックス

カセットテープを入れておくのに便利です。



# 5

# 万一のとき


**工具・スペアタイヤ・発炎筒**

格納場所 ……84

工具の種類 ……85

**故障したとき**

発炎筒について ……86

踏切で動けなくなったとき ……86

高速道路で故障したとき ……87

故障の修理について ……87

けん引について ……87

**パンクしたとき**

ジャッキの取り扱い ……89

応急用スペアタイヤ ……90

タイヤ交換 ……91

**バッテリーあがりのとき** ……95

**オーバーヒートしたとき** ……95

**ライト類が点灯しないとき**

ヒューズの交換 ……96

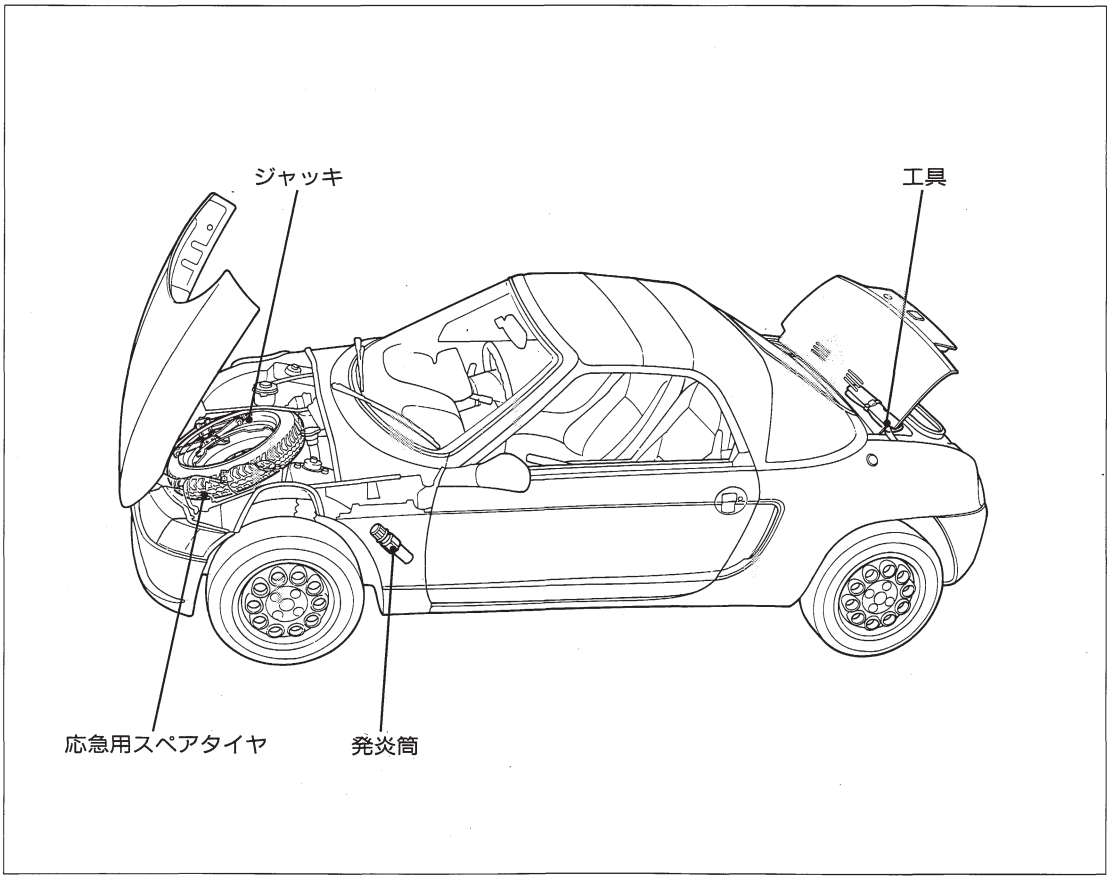
電球(バルブ)の交換 ……97


＊全国のホンダ販売店およびJAFの電話番号は別冊の「サービス網一覧」に記載してあります。

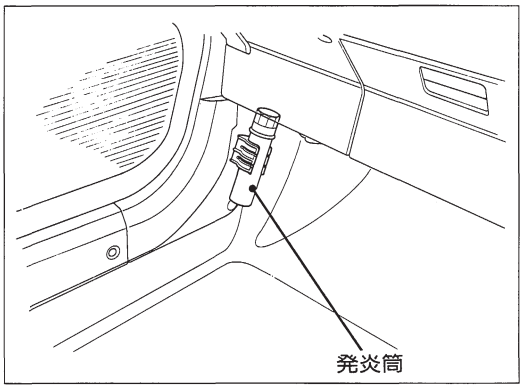
# 工具・スペアタイヤ・発炎筒

## 格納場所

●工具・スペアタイヤ・発炎筒

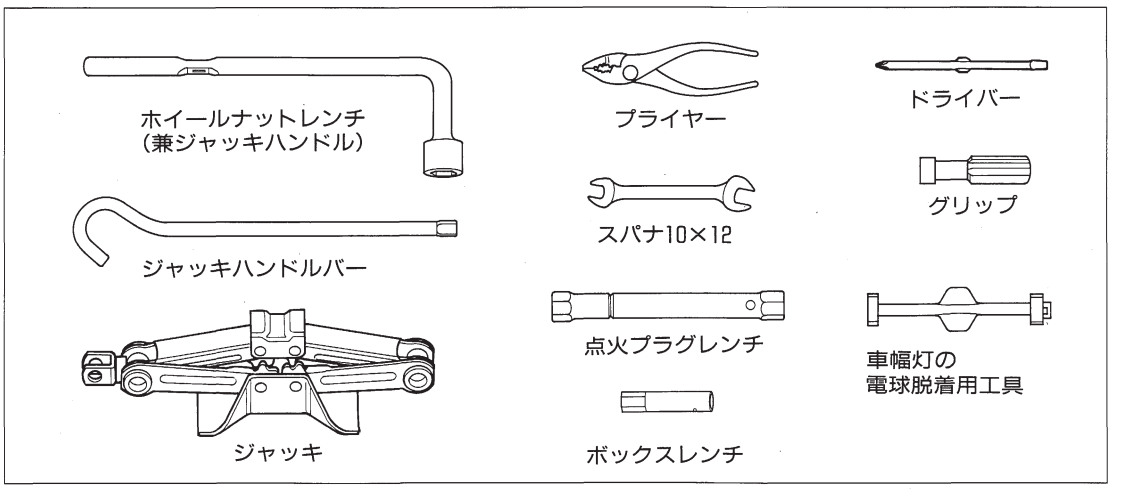


## ●発炎筒




発炎筒は助手席足元にあります。

## 工具の種類




アドバイス

- 工具の種類、ジャッキ、発炎筒の使いかたなどはあらかじめ確かめておきましょう。
- スペアタイヤ、ジャッキは所定の位置にしっかり固定してください。
- 高速道路で故障などにより停止するときは、停止表示器による表示義務がありますので、停止表示板などを常時携帯するようにしましょう。

注意

- 工具類は熱くなっている場合がありますので、使用する際は注意してください。

# 故障したとき

車を路肩に停め、非常点滅表示灯を点滅させます。必要に応じて停止表示板、発炎筒を使い、後続する車に故障車とわかるようにします。

## 発炎筒について

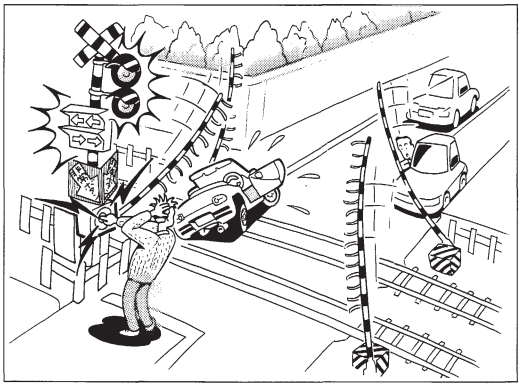
高速道路、踏切などの危険な場所で故障したときに使います。
発炎筒に記載されている次のことをよく読んであらかじめ確認しておいてください。

・使いかた
・発炎時間
・使用上の注意
・有効期限

- お子さまにいじらせないでください。
- 発炎筒を使うとき顔やからだに向けるとやけどの危険があるのでやめてください。
- ガソリンなどの燃えやすいもののそばで使うと火災を招く危険があるので避けてください。
- トンネル内で使うと視界を悪くするので危険です。
  トンネル内では非常点滅表示灯を使ってください。

## 踏切で動けなくなったとき

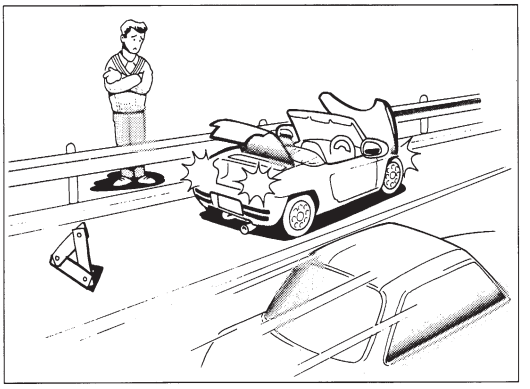
脱輪などで踏切内で動けなくなったときは、踏切の非常ボタンを押してください。
非常ボタンがわからず、緊急を要するときは、発炎筒で合図をしてください。



## 高速道路で故障したとき

車を路側帯に寄せ、非常点滅表示灯を点滅させ、停止表示板を置いて表示してください。

●人は車からおりて、安全な場所に避難してください。



一般道路で動けなくなったときは、付近の人に安全な場所まで押してもらってください。
または、ギヤを 2 に入れて、クラッチペダルを踏まずにスターターを回して移動します。

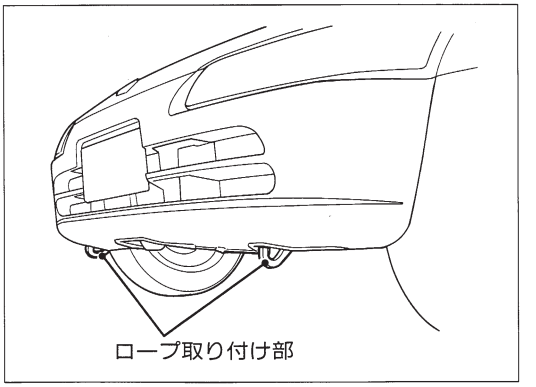
## 故障の修理について

ホンダプリモ店へお申しつけください。
お持ちこみいただければ、簡単なものはその場で修理いたします。長くかかるものは、予定をお知らせします。
お持ちこみのむずかしいときには電話でご連絡ください。
遠出などのときは全国どこでもホンダ販売店へご連絡ください。
所在地、電話番号については別冊の「整備手帳」をご覧ください。

## けん引について

### ●ロープ取り付け部

けん引されるときには、ロープ取り付け部を利用します。

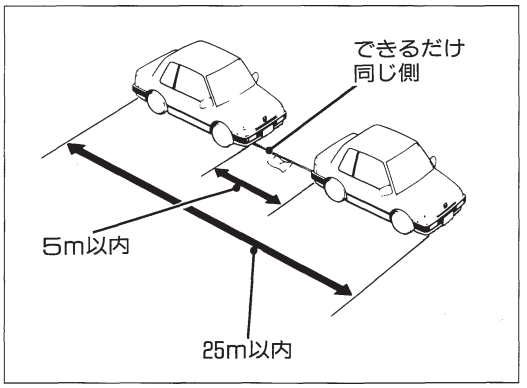


●他の部分へロープなどをかけないでください。
●ロープ取り付け部は、けん引されるときにのみお使いください。

## ●けん引されるとき

けん引されるときは後輪を持ち上げた状態で行ってください。
やむをえず全輪を接地させて行う場合は、次の方法で行ってください。

1. チェンジレバーを N(ニュートラル)にします。
2. エンジンを始動します。(エンジンがかからない場合は、エンジンスイッチを"ACC"または"ON"にします。)
3. 駐車ブレーキを解除し、けん引されます。




アドバイス

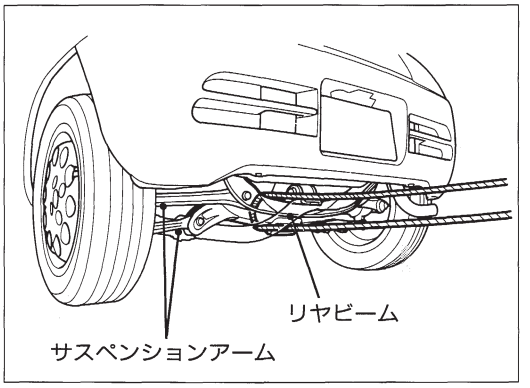
●けん引車の制動灯に注意して、ロープをたるませないようにしてください。また、ロープには白い布(0.3m平方以上)を必ず付けてください。

注意

●エンジンがかからない状態でけん引される場合は、次のことに十分注意してください。
・ブレーキの倍力装置がはたらかなくなるので、ブレーキのききが悪くなります。
●長い下り坂では、ブレーキ部の温度が上がりブレーキがきかなくなるおそれがあります。レッカー車にけん引してもらってください。

## ●動けなくなったとき

脱輪などして後方へ引き出す場合は、リヤビームを使用します。




アドバイス

●リヤビームを使用して引き出した場合は、すみやかにホンダプリモ店で後輪アライメントの点検を受けてください。

注意

●他車のけん引には、絶対に使用しないでください。
●サスペンションアームでは、絶対にけん引しないでください。

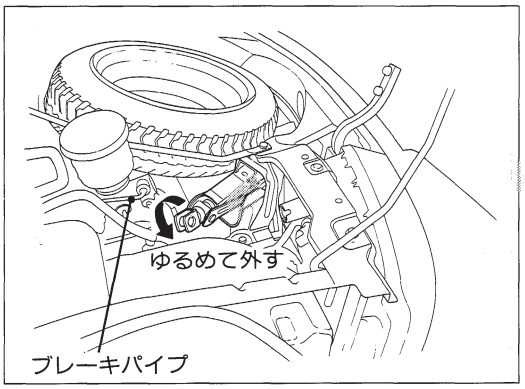
# パンクしたとき

## ジャッキの取り扱い

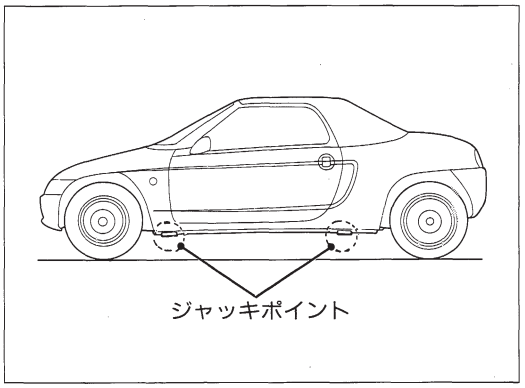
### ●ジャッキの取り出しかた

フロントコンパートメント内のジャッキをゆるめて外します。

- 工具類は熱くなっている場合がありますので、使用する際は注意してください。
- ジャッキを出し入れするときは、ブレーキパイプに当らないように注意してください。



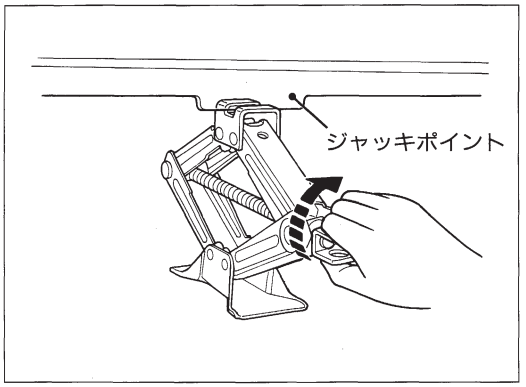

### ●ジャッキをかける位置



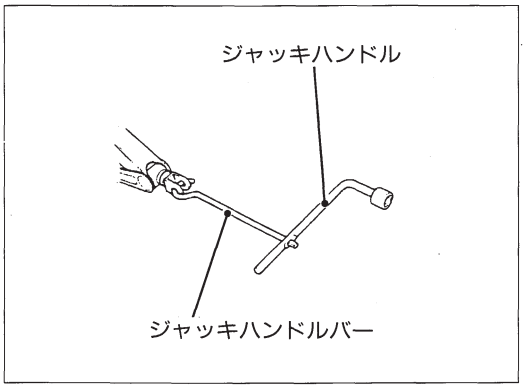

### ●ジャッキのかけかた

1 ジャッキを地面の平らな固くて安定できるところに置きます。

2 ジャッキを手で回して、ジャッキの溝がジャッキポイントに入るまで上げます。

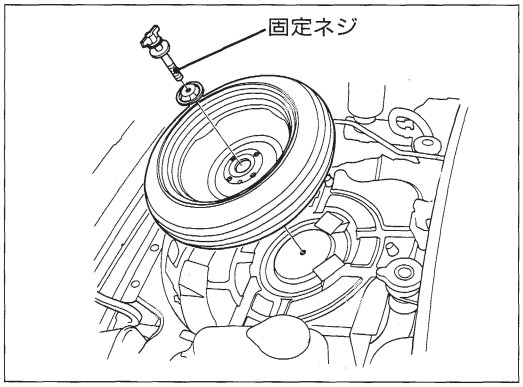



3 ジャッキハンドルとジャッキハンドルバーを使って、タイヤと地面が少し離れるまで車体を上げます。

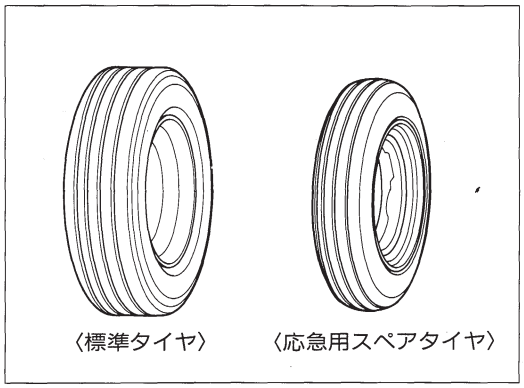


## 応急用スペアタイヤ

ボンネットを開け、固定ネジをゆるめて左側から取り出します。




応急用スペアタイヤは、タイヤがパンクしたときの応急用としてのみに使うタイヤです。
応急用スペアタイヤは標準タイヤに比べて、直径がやや小さくできています。




お使いになるときは次の注意事項をお守りください。

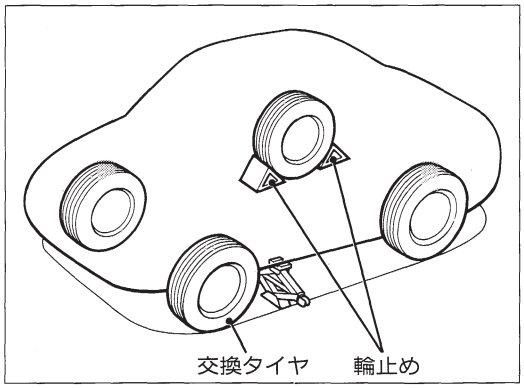
- 空気圧はときどき点検し、指定空気圧でお使いください。
  (指定空気圧：4.2kg/cm²)
- 応急用スペアタイヤを装着したときは80km/h以下で走行し、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。
- 応急用スペアタイヤは標準タイヤと比べて直径が小さいため車高が低くなります。突起物など乗り超えるときは、車の下にひっかけないように注意してください。
- この応急用スペアタイヤとホイールはあなたのお車の専用品です。他のタイヤやホイールと組み合わせたり、他の型式の車に使わないでください。
- 応急用スペアタイヤにはタイヤチェーンは装着できません。チェーン装着時に後輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを前輪に装着し、外した前輪タイヤを後輪に取り付け、これにタイヤチェーンを装着してください。

## タイヤ交換

1 車を安全な場所に停め、工具類を取り出します。

●工具類は熱くなっていることがありますので、取り出す際には注意してください。

2 駐車ブレーキを十分にかけ、交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に輪止めをします。



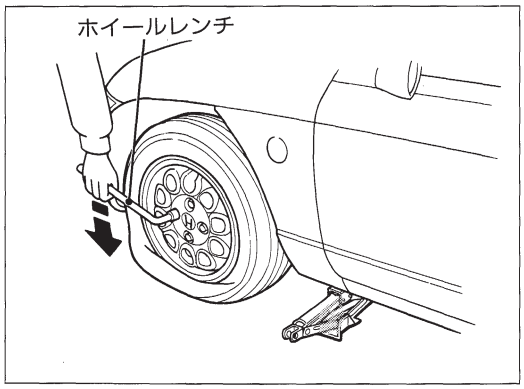

3 スペアタイヤは、交換するタイヤの近くの車体の下にホイール表面を上にして置きます。

●ホイール表面を下にして置くと、ホイールに傷がつくおそれがあります。

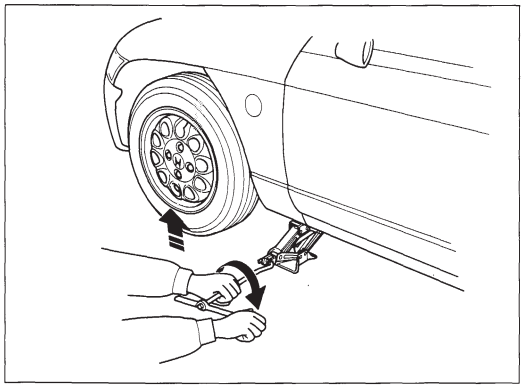
4 ジャッキをセットします。

→89ページ

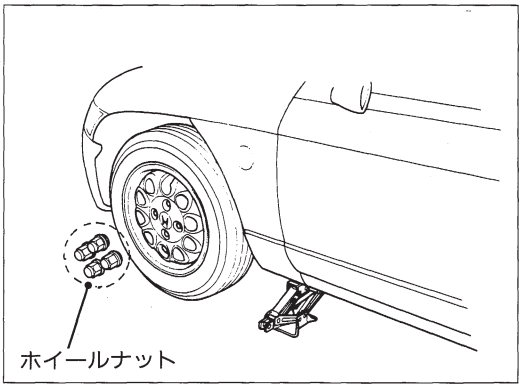
5 ホイールナットをホイールナットレンチで少し(約1回転)ゆるめます。



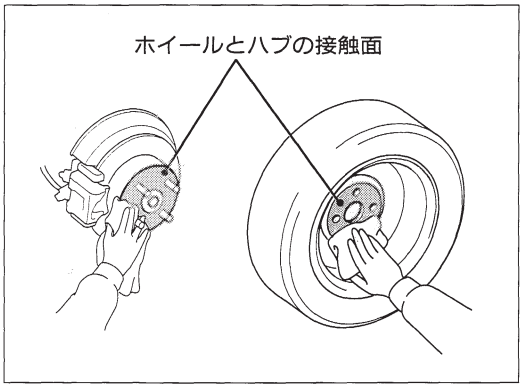

6 タイヤと地面が少しはなれるまでジャッキで車体を上げます。



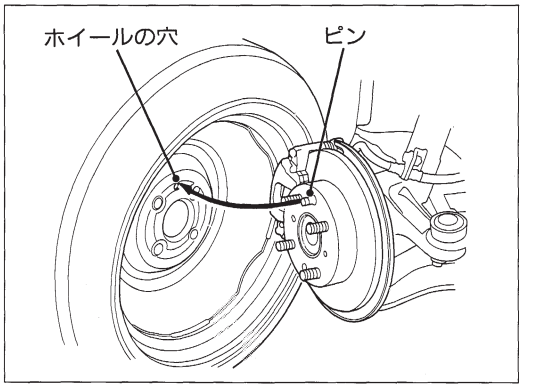
7 ホイールナットを外し、タイヤを外します。



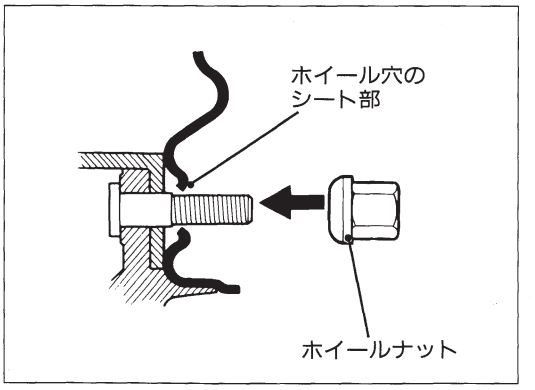

8 応急用スペアタイヤのホイールと、ハブの接触面のよごれをふき取ります。




9 応急用スペアタイヤを取り付けます。前輪に取り付けるときには、ホイールの穴とピンの位置を合わせます。

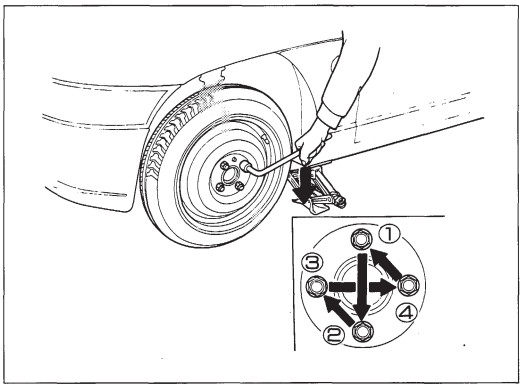



10 ホイールナットがホイール穴のシート部に軽く当たり、ホイールがガタつかない程度までホイールナットを締めます。

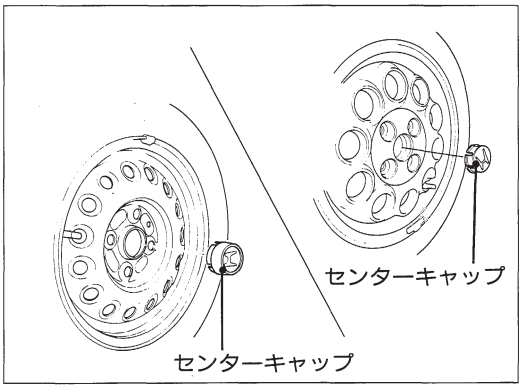


11ジャッキをおろし、図の番号順に2～3度にわたり、ホイールナットをしっかり締め付けます。

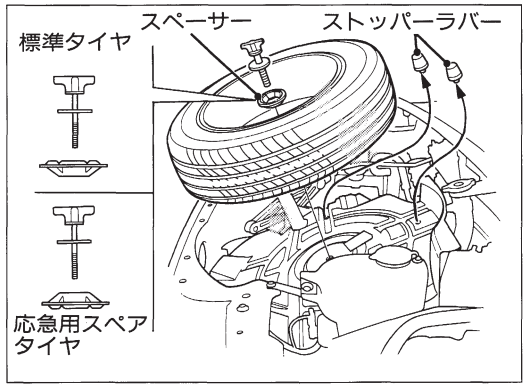
ホイールナット締め付けトルク：
10～12kgm(参考)




12パンクした標準タイヤはセンターキャップを外します。



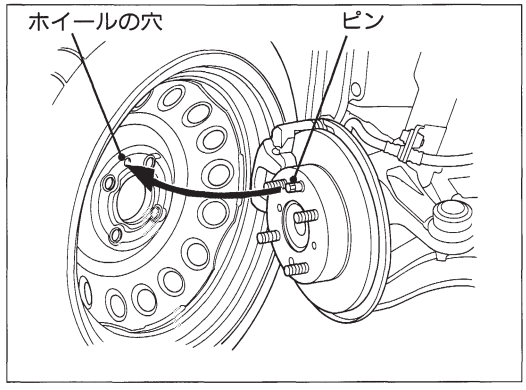

13パンクした標準タイヤをフロントコンパートメントにしまうときは、ストッパーラバーを外します。スペーサーは、応急用スペアタイヤを固定していたときとは逆向きにして固定します。



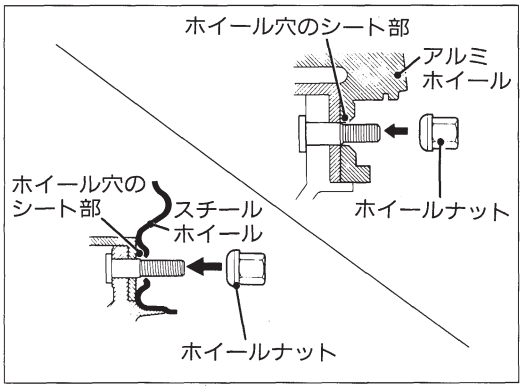
●応急用スペアタイヤをしまうときは、ストッパーラバーを取り付けてください。石けん水などをつけると、取り付け易くなります。

## ●標準タイヤを取り付けるとき

1前輪を取り付けるとき、スチールホイール装備車はホイールの穴とピンの位置を合わせます。

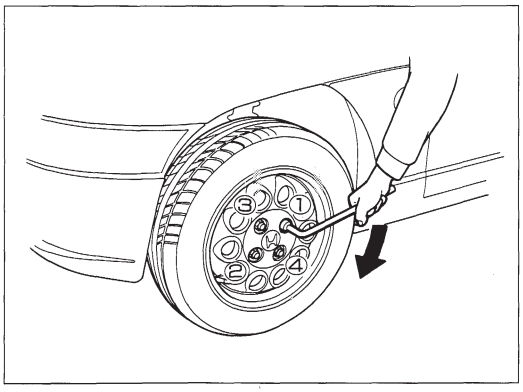


2 ホイールナットがホイール穴のシート部に軽く当たり、ホイールがガタつかない程度までホイールナットを締めます。




3 ジャッキをおろし、図の番号順に2～3度にわたり、ホイールナットをしっかり締め付けます。

ホイールナット締め付けトルク：
10～12kgm(参考)




アドバイス

- レンチを足で踏んだり、パイプなどを使って必要以上に締め付けないでください。
  トルクがかかりすぎることがあります。
- スペアタイヤの空気圧は使うときに調整してください。
  万一、未調整のまま走る場合は、速度を控えめにしてください。
  タイヤの空気圧 →51、105ページ
- パンク修理、タイヤの自然摩耗、リムの変形などでホイールバランスが狂うことがあります。
  車体の振動などの異常を感じたらホンダプリモ店で点検を受けてください。

注意

- この車専用のホイールをお使いください。
  専用以外のホイールを使うと走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。ホイール交換に際しては、必ずホンダプリモ店にご相談ください。
- 必ず指定サイズ、同一種類のタイヤを使ってください。指定サイズ以外のタイヤや種類の異なるタイヤを使うと安全性を損ないます。
- タイヤ交換は、地面の硬い平らな場所で、他の交通に十分注意して行ってください。必要に応じて停止標示板、非常点滅表示灯を使ってください。
- ジャッキを使うときは必ず指定された位置にかけ、乗っている人は降りてもらい、また荷物はおろしてください。
- 車がジャッキだけで支えられているときは、エンジンをかけたり、車の下に入ったりしないでください。
  万一、ジャッキが外れると非常に危険です。

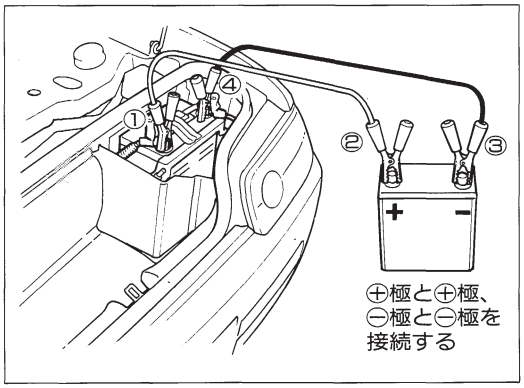
注意

**アルミホイール装備車**

- ホイールナットとハブのネジ部には、絶対に油をつけないで下さい。油がついていると、ゆるみの原因になります。
- パンク修理などでホイールを取り付け直したときには、1,000km走行時にホイールナットのゆるみの有無を点検してください。
- インパクトレンチによる締め付けは避けてください。

# バッテリーあがりのとき

他のバッテリーを利用してエンジンをかけるときは、図の番号順にコードを接続し、エンジン始動後は逆の順序でコードを取り外してください。

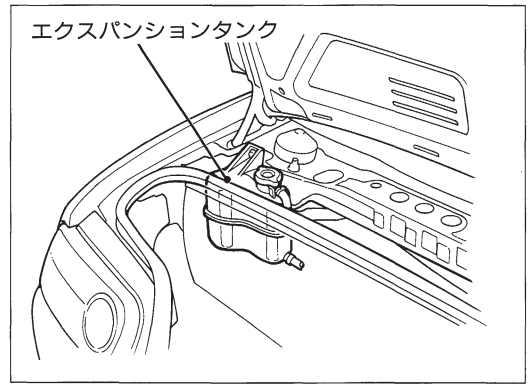


- バッテリーからは可燃性のガスが発生しているので、爆発の危険があります。バッテリーを取り扱うときは、以下の点に十分注意してください。
  - コードを接続するときは、⊕⊖極を間違えないでください。
    ショートして火花が出ることがあります。
  - バッテリーを充電するときは、すべてのキャップを外してください。
    バッテリー液の補給　→113ページ
  - 換気に十分注意し、換気の悪い場所では行わないでください。
- 安全のため、押しがけはしないでください。

# オーバーヒートしたとき

1 車を安全な場所に停め、エンジンを止めトランクを開けて風通しをよくします。

トランクの開けかた　→37ページ




2 エンジンが冷えてから、冷却水量、ホースなどからの水漏れを点検します。

冷却装置の点検　→48ページ

3 冷却水が不足していたら補給します。

冷却水の補給　→111ページ

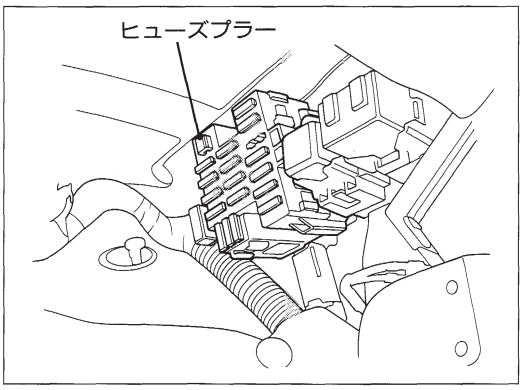
- エンジンが十分に冷え、水温が下がるまで、エクスパンションタンクキャップおよびラジエーターキャップを外さないでください。
  冷却水には圧力がかかっているため、蒸気や熱湯がふき出し、やけどなど思わぬけがをすることがあります。
  また、冷機時でもフロントコンパートメント内のラジエーターキャップを開けると、ラジエーター液があふれます。
  ラジエーターキャップは、冷却水を交換するとき以外は開けないでください。

# ライト類が点灯しないとき

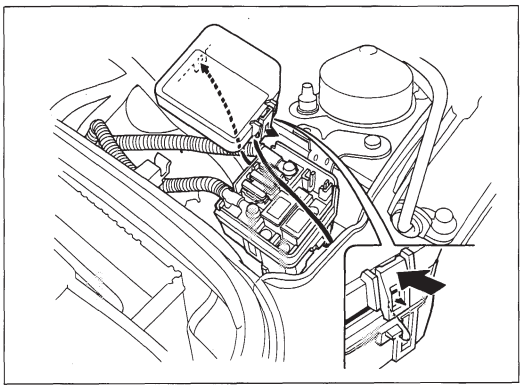
## ヒューズの交換

ヒューズボックスは、運転席足元、トランクルーム内にあります。
エンジンスイッチを"LOCK"にし、故障の状況から点検すべきヒューズをヒューズボックスの表示に従い確認し、ヒューズが切れていないかを点検します。

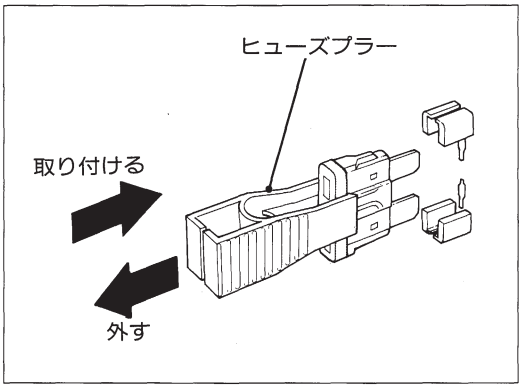
### 運転席足元ヒューズボックス



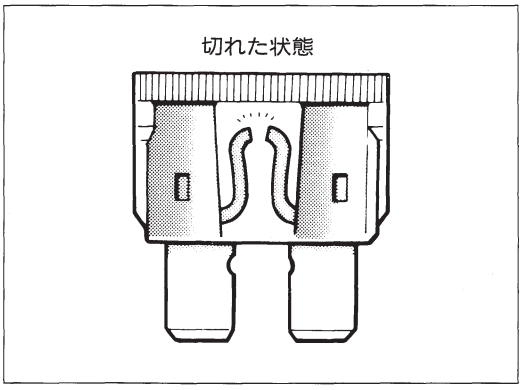

### トランクルーム内ヒューズボックス



備えつけのヒューズプラーでヒューズを外します。




ヒューズが切れた場合は、ヒューズボックスの表示に従い規定容量のヒューズに交換します。




アドバイス

●交換してもすぐにヒューズが切れる場合は、ホンダプリモ店で点検を受けてください。

注意

●規定容量のヒューズ以外のものは絶対に使わないでください。
配線コードなどを焼損させる原因となります。

## 電球(バルブ)の交換

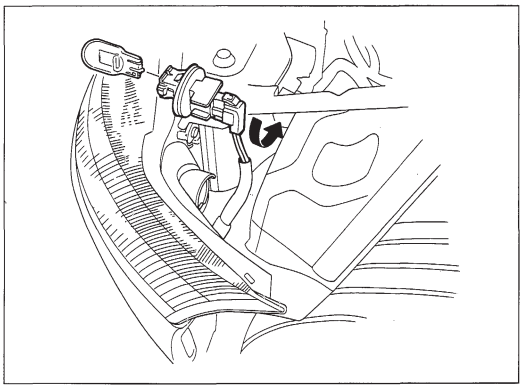
電球切れが確認された場合には、次の要領で交換します。

アドバイス

- ランプ本体やレンズを外すときは、ボディに傷を付けないように注意してください。
- 電球を交換するときはワット(W)数の違うものを使わないでください。
  電球のワット数 →131ページ
- ハロゲンバルブ(ヨウ素入り電球)を交換するときには、電球の表面に手などが触れないようにしてください。
  使用時電球が高温になるため、油などが付着すると寿命が短かくなります。
  万一、触れた場合は、中性洗剤の薄い水溶液を柔らかい布に含ませてよくふき取ってください。

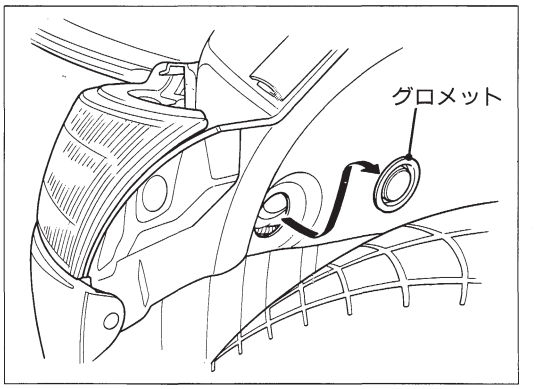
### ●前面方向指示器／前面非常点滅表示灯

ソケットを左へ回して外し、電球を抜き取ります。

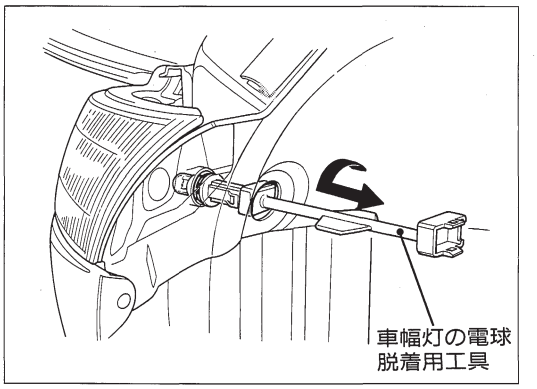


### ●車幅灯

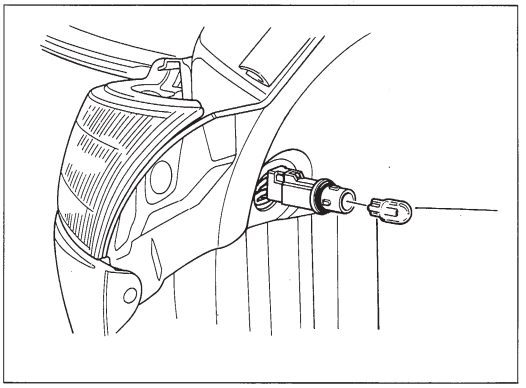
1 フロントコンパートメント側から、タイヤハウスにあるグロメットを押して外します。




2 車幅灯の電球脱着用工具をタイヤ側より挿入し、ソケットを左へ回してゆるめて外します。

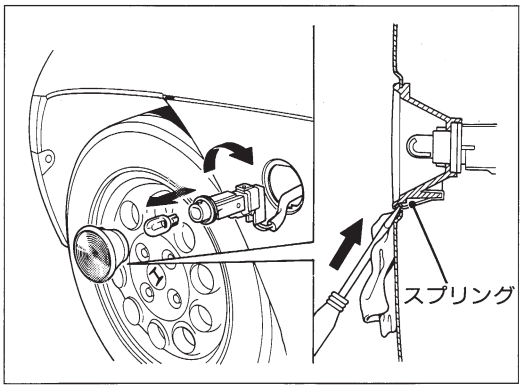


3 電球を交換し、ソケットを車幅灯の電球脱着用工具で確実に取り付けます。



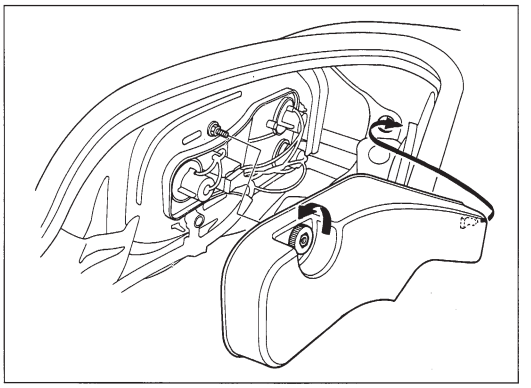
**●側面方向指示器／側面非常点滅表示灯**

ドライバーの先端に布などを巻き、下方よりスプリングを押しながらランプ本体を外します。ソケットを左へ回して外し、電球を抜き取ります。

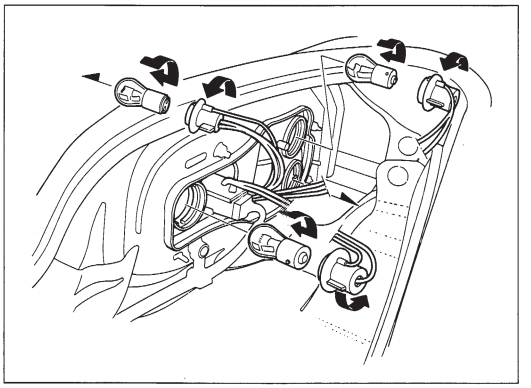



**●制動灯／尾灯、後方方向指示器／後方非常点滅表示灯、後退灯**

1 左側はネジをゆるめ、カバーを開けます。

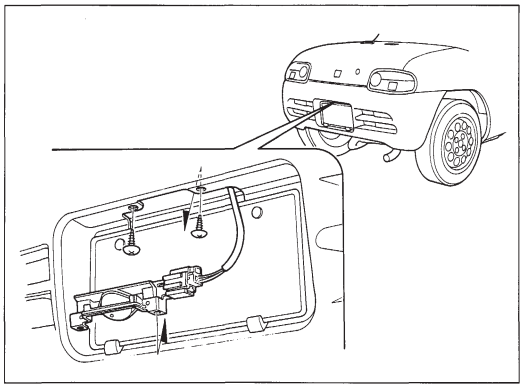


2 ソケットを左へ回して外し、電球を押しながら左へ回し抜き取ります。

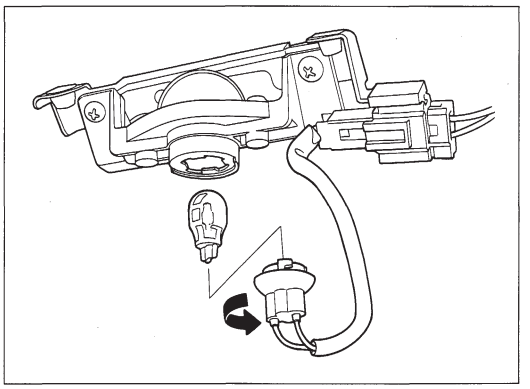


●番号灯

1ネジを外し、ランプ本体を外します。

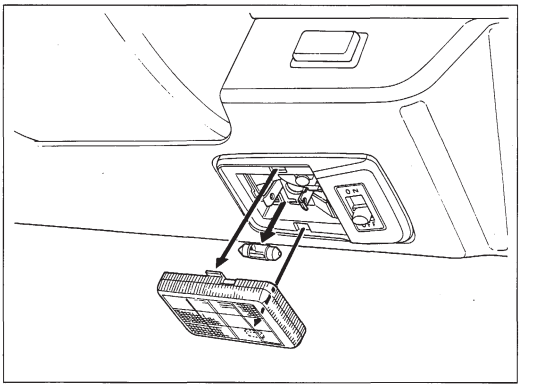


2ソケットを左へ回して外し、電球を抜き取ります。



●室内灯

レンズを外して電球を抜き取ります。



## MEMO

# 6

# 車の手入れ


**6か月点検**

点検項目 ……102

**簡単な整備**

エンジンオイルの補給……110
冷却水の補給 ……111
ウォッシャー液の補給……112
ブレーキ液の補給 ……112
バッテリー液の補給 ……113
バッテリー端子部の清掃 ……113
クラッチ液の補給 ……114
タイヤの位置交換 ……114
エアクリーナーエレメントの交換……115
ワイパーブレードラバーの交換 ……116
ソフトトップの手入れ ……117
塗装の手入れ……118
内装の手入れ……120
アルミホイールの取り扱い ……120
エアコンの手入れ ……121
冬期の整備 ……122

# 6か月点検

自家用乗用車は法令によって、6か月、12か月、24か月の定期点検を行うことが義務づけられています。ホンダプリモ店で必ず点検を受けてください。
6か月点検については、乗用車の構造と装置についての基礎的な技術知識を有する方であれば、ご自身で行うことができます。
ご自身で6か月点検を行う場合は、次頁以降の点検方法に基づき作業してください。

アドバイス ADVICE

- 点検結果は所定の用紙に記録する必要があります。点検結果の記録用紙(定期点検整備記録簿)は、別冊「整備手帳」に掲載されています。記録は2年間保存してください。

点検するときは安全に十分注意してください。

注意 WARNING

- 静止状態での点検は平坦な場所で、車輪に輪止めをしてから行ってください。
- フロントコンパートメント、エンジンルーム内の点検は、エンジンなどの高熱部に十分注意してください。やけどなど、思わぬけがをすることがあります。
- 換気の悪い車庫や屋内では、エンジンをかけたままにしないでください。
- 走行して点検するときは、周囲の交通事情に十分注意して行ってください。
- ジャッキアップして点検するときは、適切なジャッキを使ってください。(お車に備え付けのジャッキは、タイヤ交換時のみに使うものです。)

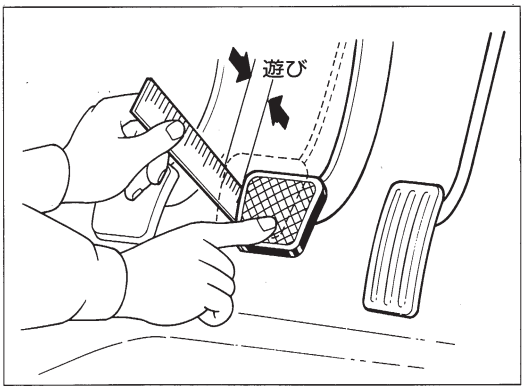
## 点検項目


ブレーキペダルの遊び、踏み込んだときの床板とのすき間 ……103
ブレーキのきき具合 ……103
駐車ブレーキレバーの引きしろ ……103
ブレーキホース、パイプの漏れ、損傷、取り付け状態 ……104
リザーバータンクの液量 ……104
タイヤの空気圧 ……105
タイヤの亀裂、損傷 ……105
タイヤの溝の深さ、異状な摩耗 ……106
タイヤの金属片、石、その他の異物 ……106
クラッチペダルの遊び、切れたときの床板とのすき間 ……107
バッテリーの液量 ……108
エンジンオイルの汚れ、量 ……108
冷却水の量 ……109
発電機ベルトのゆるみ、損傷 ……109
灯火装置、方向指示器の作用 ……109

## ブレーキペダルの遊び、踏み込んだときの床板とのすき間

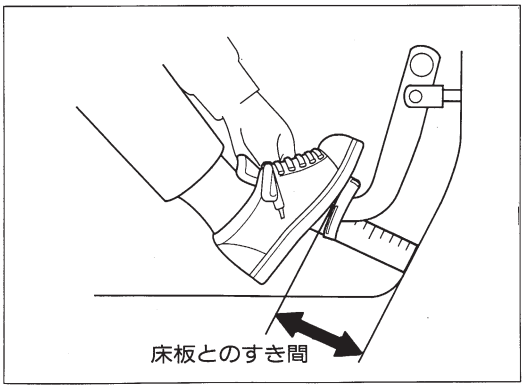
### ●遊び

エンジンを停止させた状態で、２～３回ブレーキペダルを踏み込んだのちに、ブレーキペダルを指で押し、抵抗を感じるまでの移動量（遊び）を定規などで点検します。
遊びは１～10mmが適正です。




### ●床板とのすき間

エンジンを始動し、２～３回ブレーキペダルを踏み込んだのち、ブレーキペダルを力強く（約20kgの力）５秒以上踏み続けて床板とのすき間を定規などで点検します。
床板とのすき間は113mm以上が適正です。



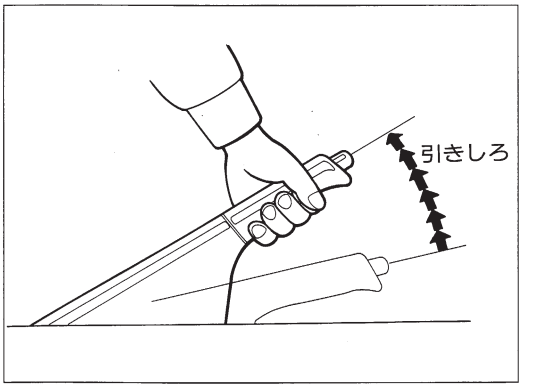
●踏み込んだときふわふわする感じがある場合、または踏み続けたときペダルがさらにはいり込む場合は、空気の混入や液漏れが考えられます。ただちにホンダプリモ店で点検を受けてください。

## ブレーキのきき具合

乾燥した路面で低速走行して、ブレーキテストを行い、きき具合が十分か、片ぎきがないかを点検します。

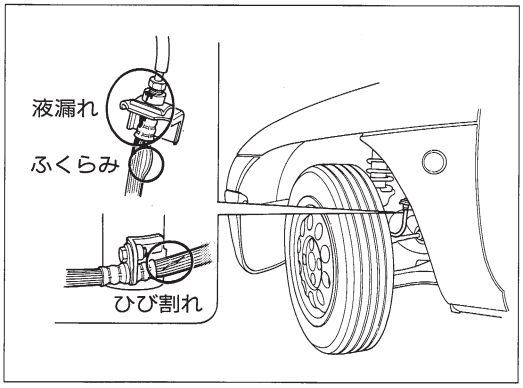
## 駐車ブレーキレバーの引きしろ

ブレーキレバーをいっぱいに戻した状態からゆっくり引き上げて（約20kgの力）、５～９回の引っかかり音でレバーがロックするかを点検します。



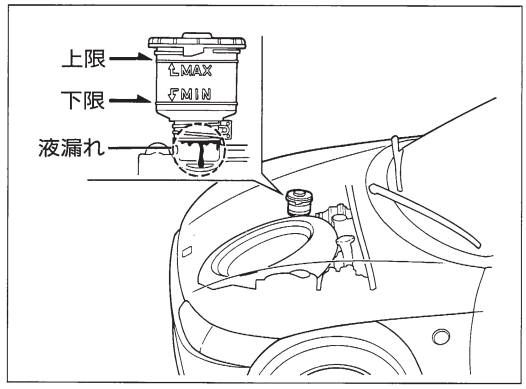
## ブレーキホース、パイプの漏れ、損傷、取り付け状態

ハンドルを右にいっぱいに切った状態で、左側フロントブレーキのブレーキホースに傷、ひび割れ、ふくらみなどがないかを目視、または手でさわって点検します。また、ホースが車体などと接触していないかやホースの接続部から液漏れがないかも点検します。
次に、ハンドルを左にいっぱいに切り、右側のフロントブレーキについても同様に点検します。




## リザーバータンクの液量

リザーバータンクの液量が上限(MAX)と下限(MIN)の間にあるか、タンク周辺から液漏れがないかを目視や手でさわって点検します。

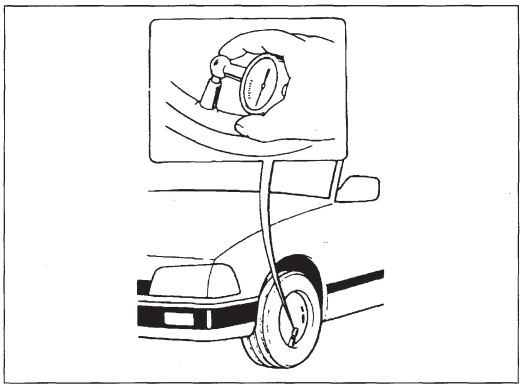



アドバイス

- 液面が下限より下がっていたらすぐ補給してください。
  ブレーキ液の補給 →112ページ
- 万一、液の減りかたが著しいときは、ブレーキ系統の液漏れやブレーキパッドの摩耗が考えられます。
  ただちにホンダプリモ店で点検を受けてください。

## タイヤの空気圧

走行前、タイヤが冷えているときにタイヤゲージで空気圧を点検します。



（空車時：単位kg/cm²）

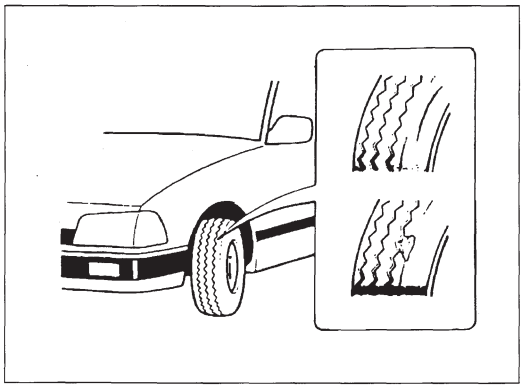
| サイズ ＼ 空気圧 | | 前輪 一般 | 前輪 高速 | 後輪 一般 | 後輪 高速 |
|---|---|---|---|---|---|
| 標準タイヤ | 155/65 R13 73H | 1.8 | | —— | |
| | 165/60 R14 74H | —— | | 2.0 | |
| | 165/60 R14 75H | —— | | 2.0 | |
| 応急用スペアタイヤ | T115/70 D14 | 4.2 | | 4.2 | |

アドバイス

● スペアタイヤの空気圧は基準値より0.2kg/cm²くらい高めにしておき、使うときに調整してください。

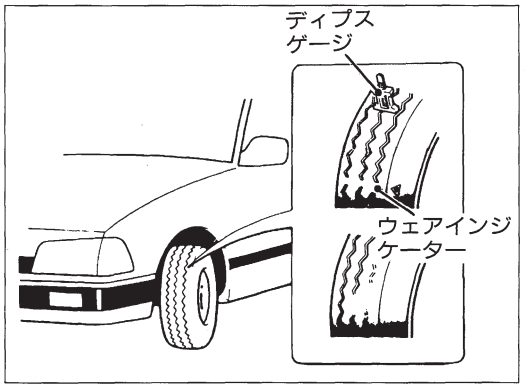
## タイヤの亀裂、損傷

タイヤの接地面の全周と両側面に亀裂や損傷がないかを目視により点検します。



## タイヤの溝の深さ、異状な摩耗

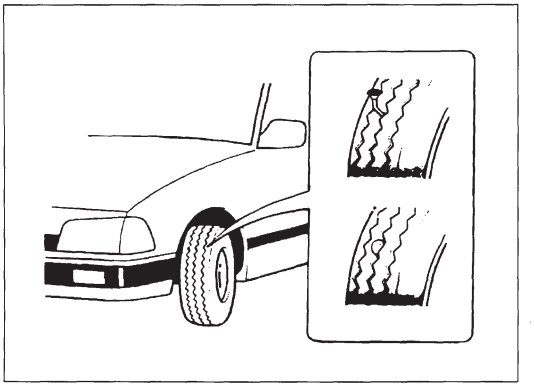
タイヤの接地面に表示されているウェアインジケーター(摩耗限度表示)またはディプスゲージ(またはノギス)により溝の深さが1.6㎜以上あるかを点検します。
タイヤの全周に片減りや局部摩耗、段付き摩耗がないかを目視により点検します。



●ウェアインジケーターは、タイヤの接地面にあり、他の部分より溝が1.6㎜だけ浅くなっています。

## タイヤの金属片、石、その他の異物

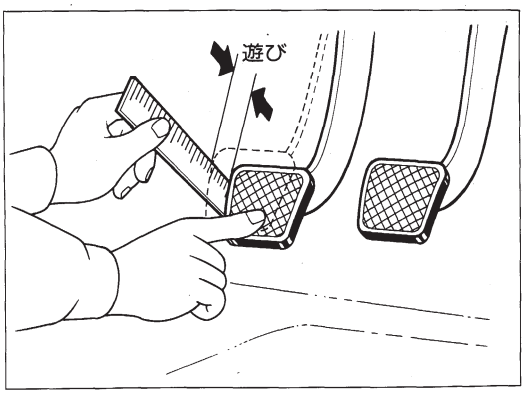
タイヤの接地面と両側面に釘や異物がささったり、溝に石などがかみ込んだりしていないかを目視や手でさわって点検します。



## クラッチペダルの遊び、切れたときの床板とのすき間

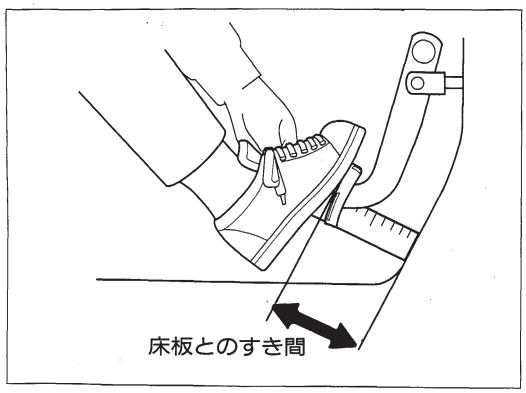
### ●遊び

クラッチペダルを手で抵抗を感じるまで押したときの移動量(遊び)を定規で点検します。
遊びは13〜23㎜が適正です。




### ●切れたときの床板とのすき間

駐車ブレーキをいっぱいに引き、エンジンを始動します。
アイドリング状態でクラッチペダルをいっぱいに踏み込み、ギヤを 5 に入れたのちペダルを徐々に離し、クラッチがつながる直前の状態(エンジン音が変化したり振動が発生したりします)でペダルと床板とのすき間を点検します。
切れたときの床板とのすき間は74㎜以上が適正です。
(参考値・カーペットとのすき間は59㎜以上)



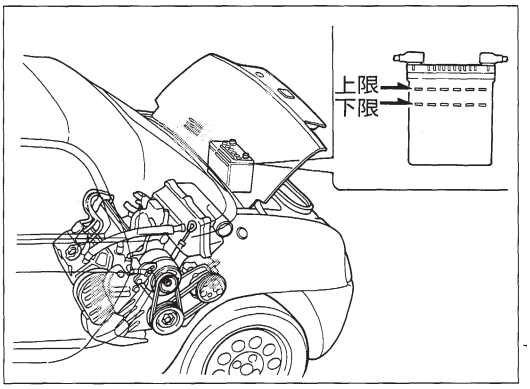

アドバイス
ADVICE

●車が発進しないように必ず駐車ブレーキをかけてください。

## バッテリーの液量

各槽の液面が上限と下限の間にあるかを目視により点検します。

バッテリー液の補給　→113ページ

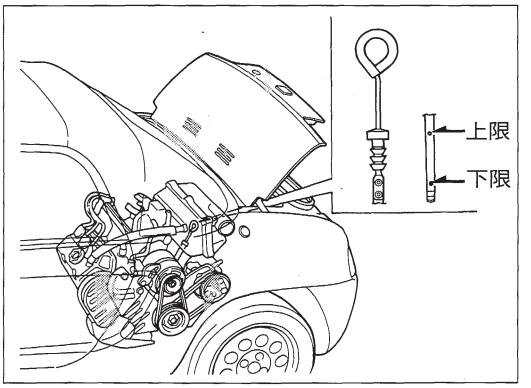


- バッテリーからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。
  バッテリーを取り扱うときはショートによる火花や火気に十分注意してください。
- バッテリー液は希硫酸です。
  目や皮ふにつくとその部分が侵されますので十分注意してください。
  万一、付着したときは、すぐ多量の水ですくなくとも5分間以上洗浄し、専門医の診断を受けてください。

## エンジンオイルの汚れ、量

エンジンを停止させ、油量計(オイルレベルゲージ)により、油量が目盛りの上限と下限の間にあるかを目視により点検します。
また、油量計に付着したオイルを手でさわるか、または布などに付着させ、オイルの汚れ具合も点検します。

エンジンオイルの補給　→110ページ

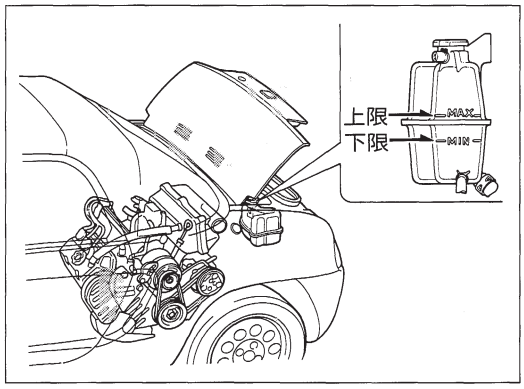


- 正確にオイル量を点検するために次のことをお守りください。
  - 車を水平な場所に置いて行ってください。
  - エンジン始動前か、エンジンを止めてから少なくとも3分以上たってから行ってください。

## 冷却水の量

エクスパンションタンク内の冷却水量が上限(MAX)と下限(MIN)の間にあるかを目視により点検します。

冷却水の補給　→111ページ

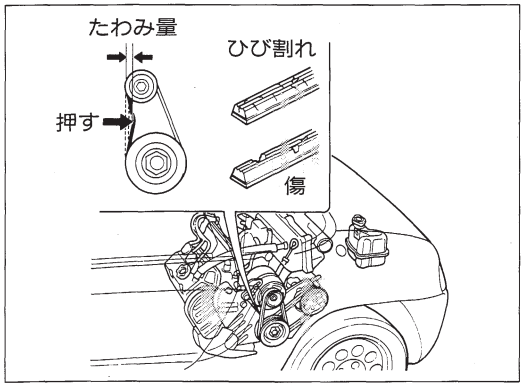



## 発電機ベルトのゆるみ、損傷

エンジンルームを開けます。

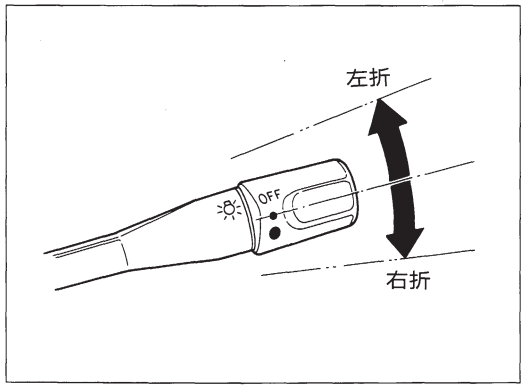
エンジンルームの開けかた　→38ページ

発電機ベルトの中央部を強く押して(約10kgの力)、たわみ量を点検します。
このときベルトに傷やひび割れがないかも調べます。
ベルトのたわみ量は6.5〜8㎜が適正です。




## 灯火装置、方向指示器の作用

前照灯を点灯させ、明るさが不足していないか、照射方向が著しく狂っていないかを目視などにより点検します。
前照灯のレンズに破損、ひび割れがないかを目視により点検します。
また、確実に取り付けられているか、手でさわって点検します。
車幅灯、尾灯、制動灯、後退灯(エンジンスイッチが"ON"の状態で確認)、番号灯などを作動させ、点灯、または点滅するかを目視により点検します。
各灯器のレンズに変色、破損、ひび割れがないかを目視により点検します。
また、確実に取り付けられているか、手でさわって点検します。




エンジンスイッチを"ON"にして、方向指示器を左右に作動させ、毎分60〜120回の一定の周期で方向指示灯が点滅するかを点検します。
方向指示器のレンズに変色、破損、ひび割れがないかを目視により点検します。また、確実に取り付けられているか、手でさわって点検します。

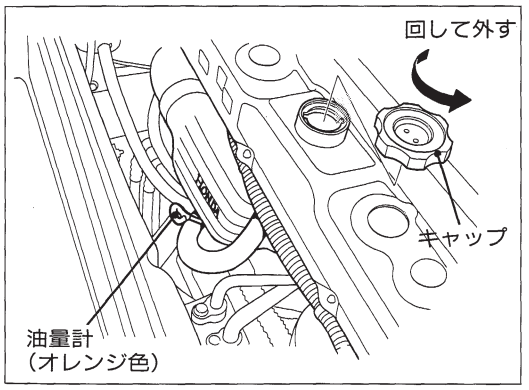
# 簡単な整備

整備の際には次のことに注意してください。

- 安全な場所を選んで行ってください。
- 適切な工具を使ってください。
- エンジンは停止状態で行ってください。
- 駐車ブレーキを十分にかけ、輪止めをするなどして、車を動かないようにして行ってください。
- 自動車をジャッキアップするときには、適切なジャッキを使ってください。(車に備え付けのジャッキは、タイヤ交換時にのみ使うものです。)
- フロントコンパートメント、エンジンルーム内の整備はエンジンなどの高熱部に十分注意してください。やけどなど思わぬけがをすることがあります。
- 取り出した部品はエンジンルーム内に置かないでください。エンジンルーム内に落としたり、万一のとき危険です。

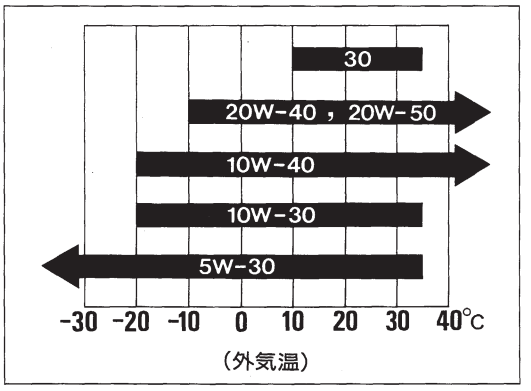
## エンジンオイルの補給

トランクを開け、キャップを回して外し、油量計で確かめながら上限まで補給します。
補給後、キャップは確実に締め付けます。
補給がすんだらエンジンをかけ、1分間アイドリングした後、エンジンを停止し、3分以上たってから再度、油量計で確かめます。




**推奨オイル**

ホンダ純正オイル ウルトラU
(4サイクル4輪車用、API SE級)10W-30
ホンダ純正オイル ウルトラGX
(4サイクル4輪車用、API SF級)10W-30
ホンダ純正オイル ウルトラLTD
(4サイクル4輪車用、API SG級)10W-30
またはAPI SE級以上のエンジンオイルで、気温に応じた粘度のものを下表にもとづきお使いください。

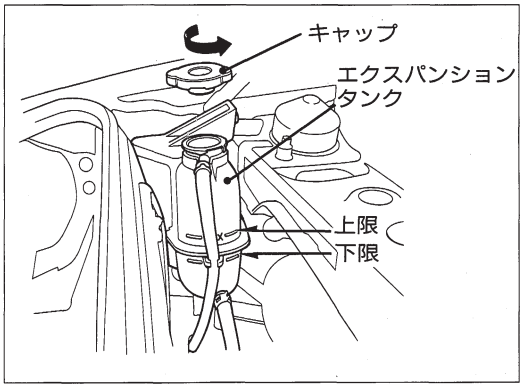


- 作業は水平な場所で行ってください。
- オイルの量は上限を超えないようにしてください。
- オイルをこぼしたときは、完全にふき取ってください。

- 銘柄やグレードの違うオイルを混用したり、低品質オイルを使わないでください。
- 補給するときは、キャップ部からゴミなどが入らないようにしてください。

## 冷却水の補給

冷却水は、エクスパンションタンクに補給します。
トランクを開け、エクスパンションタンクのキャップを外し、タンクの上限(MAX)まで補給します。
指定液の濃度を50%にしてお使いください。




指定液：ホンダ純正ウルトララジエーター液

液面は暖機時に上がり、冷機時に下がりますがエンジン温度に関係なく上限(MAX)まで補給します。

アドバイス

- 上限(MAX)を越えて補給しないでください。

アドバイス

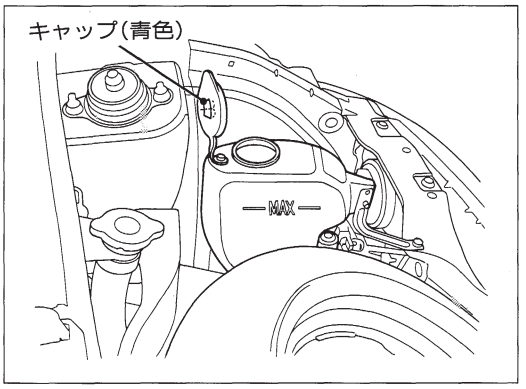
- 指定液の濃度を上水道(軟水)で50%に薄めてお使いください。
- 指定以外のラジエーター液や不適当な水を使うと、錆などの原因となります。
- 冷却水の減り具合が著しいときは、水漏れが考えられます。必ずホンダプリモ店で点検を受けてください。

注意

- エンジンが十分に冷え、水温が下がるまでエクスパンションタンクキャップおよびラジエーターキャップを外さないでください。冷却水には圧力がかかっていますので、蒸気や熱湯がふき出し、やけどなど思わぬけがをすることがあります。
  また、冷機時でもフロントコンパートメント内のラジエーターキャップを開けると、ラジエーター液があふれます。ラジエーターキャップは、冷却水を交換するとき以外は開けないでください。

## ウォッシャー液の補給

ボンネットを開け、ウォッシャータンクにウォッシャー液を入れて水でうすめ、ウォッシャータンクの上限(MAX)まで補給します。




アドバイス

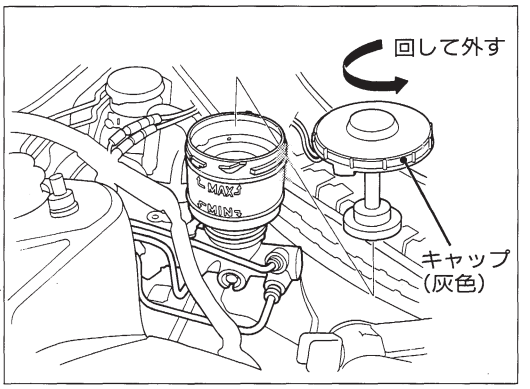
- 上限(MAX)を越えて補給しないでください。
- "ホンダウォッシャー液"には凍結防止剤が入っていますので気温に合わせた濃度でお使いください。
  ウォッシャー液の濃度の使いわけおよび注意事項はウォッシャー液の容器に記載してあります。
- 粗悪品や不凍液、石けん水を使うと塗装面などに害をあたえます。

## ブレーキ液の補給

1 ブレーキ液が不足している場合は、リザーバータンクのキャップを回して外し、上限(MAX)までブレーキ液を補給します。

2 補給後はキャップを確実に締め付けます。

指定液：ホンダブレーキフルード
DOT 3またはDOT 4




アドバイス

- 上限(MAX)を越えて補給しないでください。
- 補給はエンジンが冷えてから行ってください。
  エンジン温度が高いときに排気系統へブレーキ液が付くと、発煙することがあります。

アドバイス

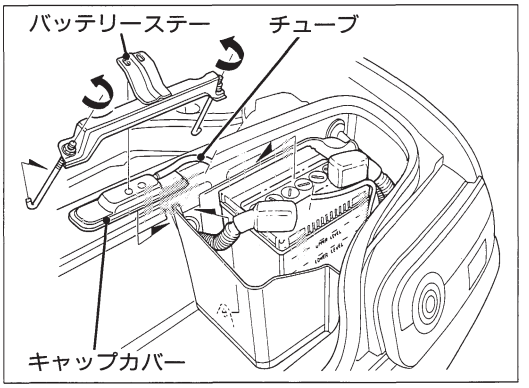
- 補給するときはこぼさないようにしてください。
  ブレーキ液をこぼすと塗装面や応急用スペアタイヤを傷めますので、すぐに水できれいに洗い流してください。
- ブレーキ液量の減り具合が著しいときは、ブレーキ系統の液漏れやブレーキパッドの摩耗が考えられます。
  ただちにホンダプリモ店で点検を受けてください。

注意

- ブレーキ液は粗悪品を使ったり、他の銘柄品を混用しないでください。ブレーキのきき具合やブレーキ系統に悪影響を与え危険です。
- 補給の際はゴミや水がタンクの中に入らないようにしてください。
  小さなゴミでも混じるとブレーキがきかなくなるおそれがあります。

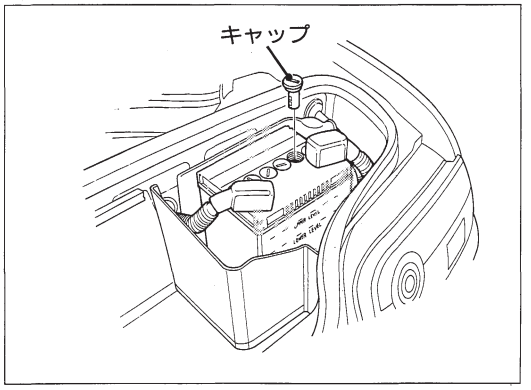
## バッテリー液の補給

1 バッテリー液が不足している場合は、バッテリーステーをゆるめキャップカバーを外します。



●キャップカバーを外すときは、キャップカバーからチューブが外れないように注意してください。

2 キャップを回して外し、各層とも上限までバッテリー補充液(蒸留水)を補給します。



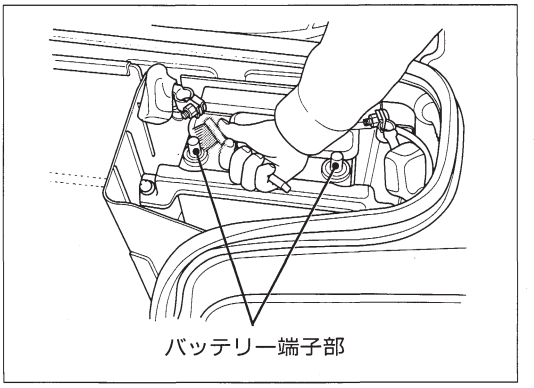

3 補給後はキャップを確実に締め付けます。

4 キャップカバーをバッテリーステーと共に取り付けます。

●バッテリーからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。
バッテリーを取り扱うときはショートによる火花や火気に十分注意してください。

●バッテリー液は希硫酸です。目や皮ふに着くとその部分が侵されますので十分注意してください。
万一、付着したときは、すぐ多量の水ですくなくとも5分間以上洗浄し、専門医の診察を受けてください。

## バッテリー端子部の清掃



●作業は必ずエンジンを停止させて行ってください。

1 端子部に汚れや腐食があるときは清掃します。端子に白い粉がついているときは、ぬるま湯で清掃します。

●清掃のときは、バッテリー槽内に異物が入らないように、注液口のキャップは締めておいてください。

2 端子部の腐食が著しい場合は、端子部を取り外して、ワイヤーブラシ、サンドペーパーでみがきます。

アドバイス

- 端子を取り外す場合は、マイナス側の端子から外してください。
  取り付ける場合は、プラス側の端子(赤色)から取り付けてください。
- 端子部にゆるみが生じないよう確実に締め付けてください。

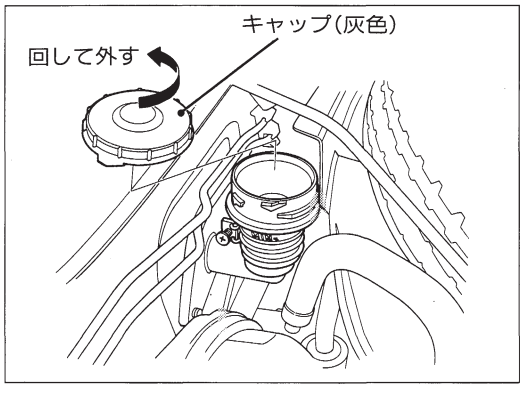
3 清掃、締め付け後は、端子部にグリースを塗布します。

注意

- バッテリーからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。
  バッテリーを取り扱うときはショートによる火花や火気に十分注意してください。

## クラッチ液の補給

1 クラッチ液が不足している場合は、リザーバータンクのキャップを回して外し、上限(MAX)までクラッチ液を補給します。
2 補給後はキャップを確実に締め付けます。
**指定液：ホンダブレーキフルードDOT 3**




アドバイス

- 上限(MAX)を越えて補給しないでください。
- 補給するときはこぼさないようにしてください。クラッチ液をこぼすと、塗装面や応急用スペアタイヤを傷めますので、すぐに水できれいに洗い流してください。

アドバイス

- クラッチ液量の減り具合が著しいときは、クラッチ系統の液漏れが考えられます。ただちにホンダプリモ店で点検を受けてください。

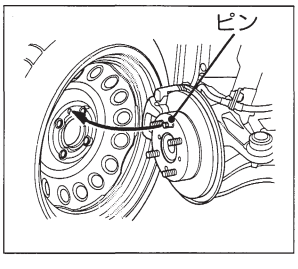
注意

- クラッチ液は粗悪品を使ったり、他の銘柄品を混用しないでください。クラッチのきき具合やクラッチ系統に悪影響を与え危険です。
- 補充の際はゴミや水がタンクの中に入らないようにしてください。小さなゴミでも混じるとクラッチが利かなくなるおそれがあります。

## タイヤの位置交換(タイヤローテーション)

前後輪で、タイヤサイズが異なります。したがって、前後タイヤの位置交換はできません。

アドバイス




- 前輪のタイヤ取り付け面には、後輪が取り付かないように、ピンがあります。前輪を取り付けるときは、ピンに注意してください。

## エアクリーナーエレメントの交換

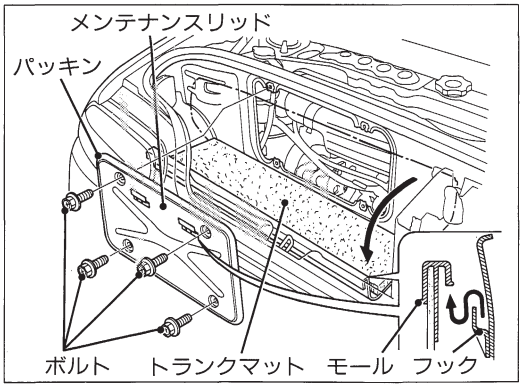
推奨交換時期　40,000kmごと

●ほこりの多い地区では早めに交換してください。よごれたまま使うと燃費不良や加速不良などの原因となります。

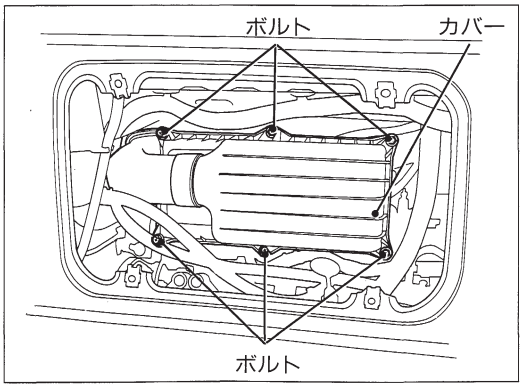
1 トランクを開け、ステーを確実にかけ固定します。

トランクの開けかた　→37ページ

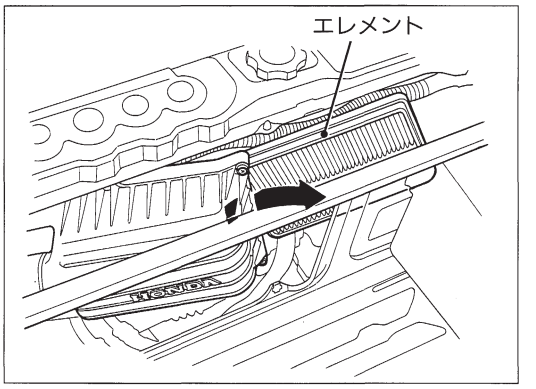
2 トランクマットのモールをフックから外し、ボルト4本をゆるめてメンテナンスリッドを取り外します。




3 ボルト6本をゆるめてカバーを取り外します。




4 エレメントを、ケースから取り出します。




5 エレメントを交換し、カバーを元の位置に取り付け、ボルトで確実に固定します。

6 メンテナンスリッドをパッキンがはずれないように取り付けます。

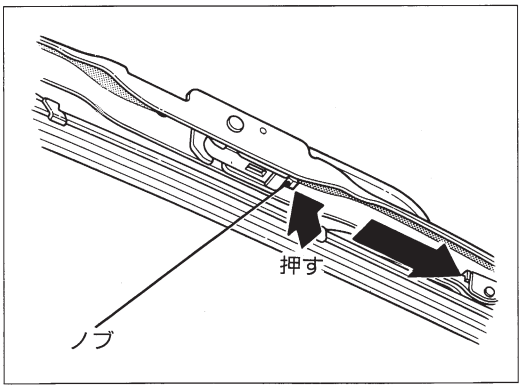
7 トランクマットを元に戻します。

●取り外したカバーやボルトをエンジンルーム内に置いたままでエンジンをかけると、部品をこわしたり、けがをするおそれがあります。

## ワイパーブレードラバーの交換

ラバーが傷んでいると、ふきむらがあるばかりでなくウィンドーガラスを傷つけることがありますので、早めに交換してください。

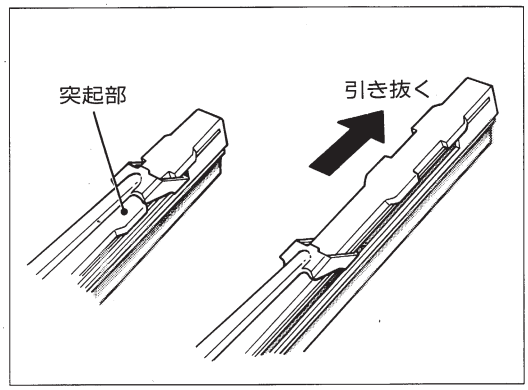
1 ノブを押しながら、ワイパーブレードを手前に引いてアームから取り外します。



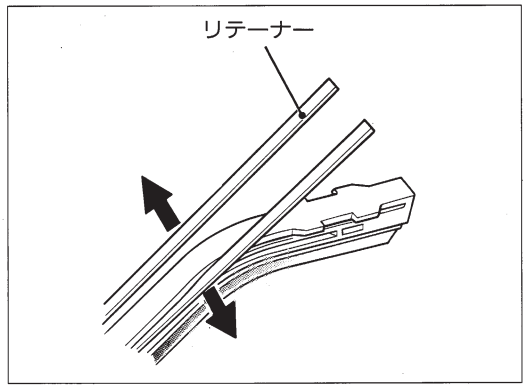

アドバイス

●アームから手を離すときは、ウィンドーガラスを傷つけないように注意してください。

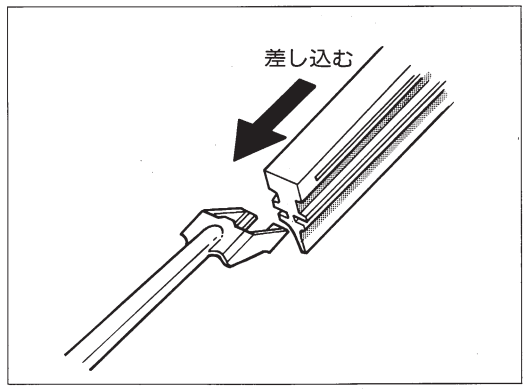
2 ブレードの突起部が外れるまで引き、そのままラバーをブレードから引き抜きます。




3 引き抜いたラバーからリテーナーを外し、新しいラバーに取り付けます。




4 突起部と反対側からラバーをブレードに沿って差し込み、突起部を元の位置に入れます。




5 ワイパーブレードをアームに取り付けます。

## ソフトトップの手入れ

### ●ソフトトップを長持ちさせるために

ソフトトップには高品質のソフトトップクロスを使用していますが、手入れの方法を誤りますと、硬化、シミ、光沢ムラなどを生じることがありますので十分注意してください。

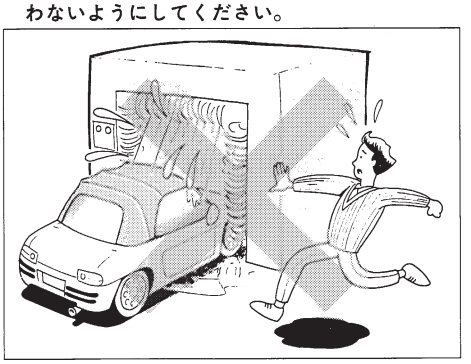
- お手入れは、あまり汚れがひどくならないうちに定期的に行ってください。汚れたまま長期間放置すると、劣化の原因になります。

### ●洗車のしかた

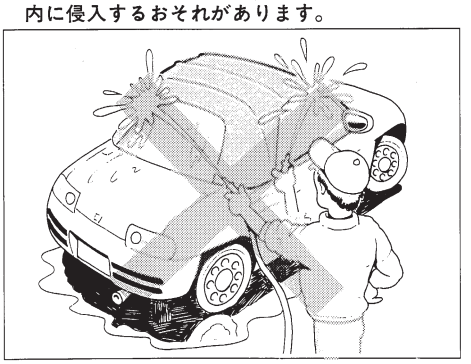
汚れ(泥、砂など)は柔らかな布を使用してきれいな水で洗い落としてください。

アドバイス ADVICE

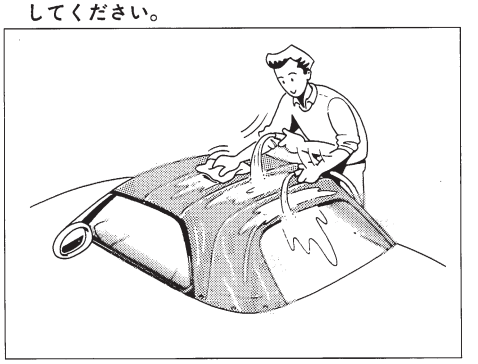
- **自動洗車およびスチーム、高圧洗車は絶対に行わないようにしてください。**



- **窓ガラスとソフトトップの合せ目付近に、直接ホースなどで水をかけないでください。水が室内に侵入するおそれがあります。**



- **水は、必ずソフトトップ上方からかけるようにしてください。**



- **汚れがひどい場合は、中性洗剤を使用し、柔らかな布で強くこすらないように注意しながら、洗い流してください。**

### ●ワックスがけのしかた

月に一回程度、汚れを落とし、良く表面を乾かしてから行ってください。油脂類が付着した場合はそのまま放置せず、ワックスですみやかに拭き取ってください。

ワックスは次のホンダ純正品をお使いください。

**"ホンダ純正ソフトトップクリーナーワックス"**

- 市販のレザーワックスの中にはソフトトップクロスの光沢ムラを生じさせたりするものもありますので注意してください。
- ボディ用のワックスをソフトトップクロスに付着させた場合は、タオル地の布か、柔らかなブラシを使用して落としてください。
- ガソリン、シンナー、アルコール類、アセトン等の有機薬品によるソフトトップクロスの清掃は絶対に避けてください。ソフトトップクロスの表皮膜が硬化したり、光沢が変化することがあります。

### ●保管のしかた

- 台風、大雨や屋外に保管しておくときは、水の侵入およびソフトトップ、塗装面の保護のためボディカバーをかけるようにしてください。
- 長期間保管時には、屋内でもソフトトップは閉めておいてください。ソフトトップをたたんで収納したままにしておくと、しわができるおそれがあります。

### ●リヤウィンドーについて

リヤウィンドーには、柔らかな材質のビニールを使用しています。
手入れの方法を誤りますと、傷がついたり、ひび割れ、変色、変形を生じることがありますので、十分注意してください。

- 強くこすると傷がつくおそれがありますので、汚れは水だけで洗い流してください。
- リヤウィンドーには、ワックスを付着させないでください。付着させた場合は、すみやかに水で洗い流してください。
- ガソリン、シンナー、アルコール類、アセトン等の有機薬品、ガラスクリーナーによるリヤウィンドーの清掃は、絶対に避けてください。
  リヤウィンドーがひび割れたり、変色、変形することがあります。

## 塗装の手入れ

### ●お車を美しく保つために

①走行後は塗装面に付着したほこりを、毛ばたきなどではらい落としましょう。
②次の場合は必ず洗車してください。
- 凍結防止剤を散布した道路を走行したとき。
- 海岸地帯を走行したとき。
  以上のときは車体の下回り、フェンダーの内側を特に念入りに洗ってください。
- コールタール、ばい煙、鳥のふん、虫、樹液などがついた場合。
  化学変化で塗装面にむらができるので、中性洗剤で洗い、さらに水で完全に洗い落とし、必要に応じてポリシングワックス(ワックス乳液)で磨いてください。
  ポリシングワックスはホンダ純正ケミカル用品をお使いください。

③少なくとも月に一度は洗車してください。
④とび石などによる塗装の傷は錆の原因となります。見つけたら早めに補修してください。
⑤保管・駐車は風通しのよい車庫や、屋根のある場所をおすすめします。

### ●洗車のしかた

1 十分に水をかけながらスポンジまたはセーム皮のような柔らかいもので洗います。
2 よごれがひどい個所は中性洗剤で洗い、さらに水で完全に洗い落とします。
3 水が、かわかないうちにふき取ります。

- 自動洗車機を使うと、ブラシの傷がつき光沢が失なわれたり、劣化を早めることがあります。
- 故意に空気取り入れロやエンジンルーム内の電気部品に水をかけないでください。

### ●ワックスがけのしかた

月に1回程度、または水をはじかなくなったときに行ってください。
車体表面に水の残っていないことを確認し、日陰または車体表面が体温以下になっているとき行います。
ワックスはホンダ純正ケミカル用品をお使いください。

- みがき粉(コンパウンド)入りのワックスは使わないでください。
  塗装面に細かい傷が残ることがあります。

### ●樹脂塗装部品について

樹脂塗装部品(バンパーなど)にガソリン、オイル、ラジエーター液、バッテリー液などが付着すると、しみの発生や塗膜がはがれる原因となります。すみやかに柔らかい布でふき取ってください。

- 樹脂塗装部品の傷の補修をする場合は、ホンダプリモ店にご相談ください。不適当な塗料を使うと塗膜を傷めます。

## 内装の手入れ

ビニール、レザー、プラスチック、布材の汚れ落としには、中性洗剤の水溶液を柔らかい布に軽く含ませてお使いください。
洗浄後、残った洗剤分は真水を含ませた柔らかい布でよく落としてください。

アドバイス ADVICE

- 乾燥は直射日光を避け、風通しのよい日陰で行ってください。
- ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤は変色、しみなどの原因となるので使わないでください。

### ●液体芳香剤、レザークリーナーについて

液体芳香剤、レザークリーナーはその成分によっては、樹脂部品、布材の変色、ひび割れをおこすことがあります。
取り扱いには十分ご注意ください。

アドバイス ADVICE

- 液体芳香剤はこぼさないように、容器を確実に固定してください。
  芳香剤のご使用にあたっては固形タイプのものをおすすめします。
- レザークリーナーを使用したあとは、必ずかわいた布で軽くふき取ってください。
  また使用した布はそのまま樹脂部品、布材の上に長時間放置しないでください。

## アルミホイールの取り扱い
アルミホイール装備車

アルミホイールは一般的なスチールホイールと取り扱いかたが異なります。アルミホイールの特性を維持するため、必ず次のことをお守りください。

### ●手入れ

アドバイス ADVICE

- アルミホイールは、塩分や汚れを嫌いますので、海水や道路凍結防止剤などが付いたときには、スポンジに中性洗剤を含ませ、汚れを早めに落してください。
- ホイールの光沢を維持するため、時々ワックスがけをしてください。
- アルミホイールは傷つき易いので、砂入り石鹸や硬いブラシを使わないでください。高速洗車機(ホイール専用ブラシ付のもの)によるホイールの洗浄は、避けてください。
- スチーム洗浄などで、熱湯がホイールに直接かからないようにしてください。

### ●取り扱い

- アルミホイールは傷つき易いので歩道の縁石などに乗り上げたり、すり当てたりすることを、避けてください。
- バランスウェイトやバルブは、ホンダ純正のアルミホイール専用品をお使いください。
- アルミホイールにタイヤチェーンを装着するときは、正しく装着してください。ホイールに対して片寄ったり、ゆるかったりするとホイールに傷をつけるおそれがありますので注意して装着してください。

- この車専用のホイールをお使いください。
  専用以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。
  ホイール交換に際しては、必ずホンダプリモ店にご相談ください。
- ホイールナット及びハブのネジ部には、絶対に油をつけないでください。油がついているとゆるみの原因となります。
- パンク修理などでホイールを取り付け直した際には、1,000km走行時にホイールナットのゆるみの有無を点検してください。
- インパクトレンチによる締め付けは避けてください。

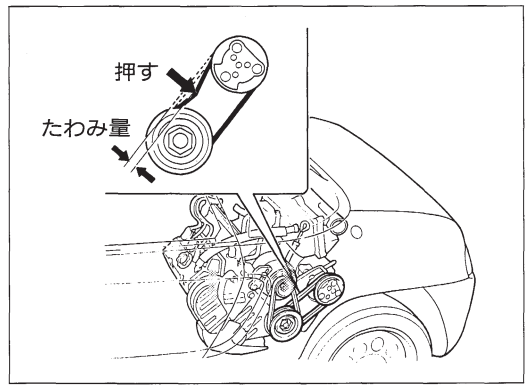
## エアコンの手入れ

エンジンルームを開けます。

エンジンルームの開けかた　→38ページ

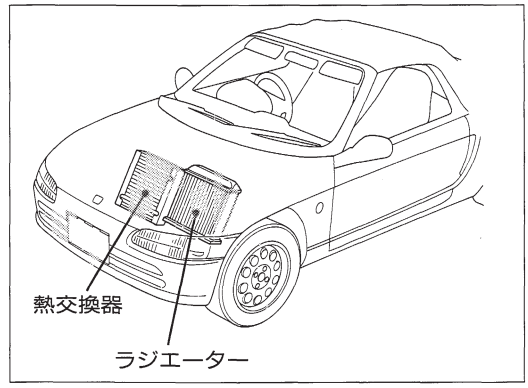
### ●ベルトの点検

ベルトの中央部を強く押して(約10kgの力)、たわみ量を点検します。
このときベルトに傷がないかも調べます。ベルトのたわみ量は6.5〜8mmが適正です。



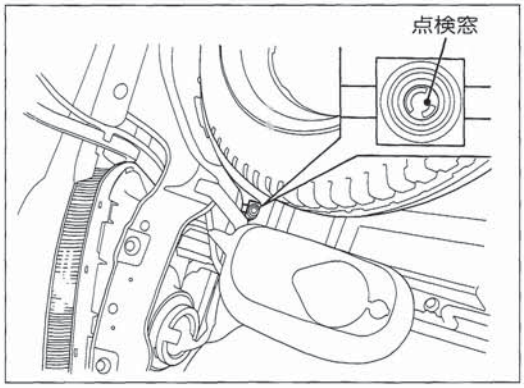

### ●熱交換器の清掃

洗車の際は水を強くかけて、ラジエーターや熱交換器に付着している泥やゴミ、虫を洗い落とし、通気性をよくします。



### ●冷媒(ガス)量の点検

冷媒(ガス)が不足していると、冷房性能が低下します。エンジン回転を1,500r.p.m.くらいに上げて、2～3分間冷房した後、点検窓で点検します。



：**冷媒量適正**
ほとんど透明です。
エンジン回転を上げ下げすると気泡が流れることがあります。

：**冷媒量不足**

冷媒(ガス)量が不足している場合は、ホンダプリモ店で点検、補充を受けてください。

## 冬期の整備

### ●バッテリーについて

気温が下がるとバッテリーの性能が低下し、エンジン始動に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や補充電をしてください。

バッテリー液量の点検　→108ページ
バッテリー液の補給　→113ページ

### ●エンジンオイルについて

冬期はオイルの劣化が激しくなります。
冬期に主として短距離、または市街地を運転される方は、早めに交換してください。

### ●冷却水について

冷却水の凍結を防ぐために点検してください。

冷却水の補給　→111ページ

### ●ウォッシャー液について

ウォッシャー液の凍結を防ぐために、ウォッシャー液の濃度をあげてください。

ウォッシャー液の補給　→112ページ

# 7

# 車との上手なつきあいかた


**純正部品** ……124

**車にあった部品の使用** ……124

**経済走行のために** ……125

**積雪・寒冷時の取り扱い**

走行前の点検について ……125

スノータイヤ、タイヤチェーンについて …126

車の積雪について ……126

ドアの凍結について ……127

ワイパーについて ……127

乗車について ……127

滑りやすい路面について ……127

ブレーキについて ……127

雪の付着について ……127

パンクについて ……127

駐停車について ……128

駐車ブレーキについて ……128

駐車方法について ……128

格納について ……128

# 純正部品

車の性能、品質を維持するために、ホンダ車に最も適したホンダ純正部品をお使いください。
純正部品は厳しい検査を実施し、ホンダ車に適合するように作られています。
ホンダプリモ店でお求めになれます。
純正部品には、つぎのマークがついています。

# 車にあった部品の使用

車の性能や機能に影響する個所にはホンダ純正部品以外は使わないでください。
また、車の改造は法律に触れることはもちろん、思いがけない事故を起す場合があります。

ラジオ、カーステレオ、アクセサリー部品などを装着する場合でも、装着に際してはホンダプリモ店にご相談ください。

# 経済走行のために

- 不必要な急加速、急減速などアクセルペダルをバタつかせるような運転をしないでください。
- 高速道路でも不必要な高速走行は避けましょう。
- 変速位置の選択は、走行速度に応じて適切に行ってください。

→68ページ

- チェンジレバー操作はクラッチペダルをいっぱいに踏みこんで行い、クラッチペダルの足のせ運転、半クラッチの連続使用をしないでください。
- 長すぎる暖機運転をしないようにしましょう。
- 車間距離は十分取り、不必要な急ブレーキをかけないでください。

# 積雪・寒冷時の取り扱い

北海道全域、東北や北陸の積雪地域および山岳地やスキー場などの局地的な厳寒・多雪地域が対象となりますが、その他の地域においても冬期の取り扱いの参考としてください。

## 走行前の点検について

「運行前点検」の際に下記の点検も行ってください。

- **特に寒暖の差がはげしいときは念入りに点検してください。**

1. 車の下回りをのぞき、足まわりなどに氷塊が付着していないか確認してください。付着している氷塊は、部品を損傷しないように十分注意して取り除いてください。
2. ペダル類やハンドルの動きが円滑かどうか確認してください。

## スノータイヤ、タイヤチェーンについて

雪道、凍結路を走るときはタイヤチェーン、スノータイヤを装着してください。
スノータイヤを装着するときは、四輪とも同じ種類の、標準タイヤと同じサイズのものに交換してください。

アドバイス

●地方条例により違いがありますので、その地区の条例に従ってください。

注意

●スノータイヤを装着したとき、高速走行は避けてください。

### ●推奨タイヤチェーン

この車は、一般の車と比べタイヤとフェンダーの間がせまくなっています。
そのため、タイヤサイズに合ったタイヤチェーンであっても、取り付けられないものがあります。ホンダ純正スプリングチェーンまたは、それと同等のものをお使いください。

注意

●推奨タイヤチェーン以外のタイヤチェーンを使うと、ブレーキ配管やフェンダーを破損し、危険です。

### ●タイヤチェーンの取り付けかた

タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従って、正しく取り付けてください。
後輪駆動車ですので、タイヤチェーンは後輪に装着してください。

アドバイス

●応急用スペアタイヤには、タイヤチェーンは装着できません。
チェーン装着時に後輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを前輪に装着し、外した前輪タイヤを後輪に取り付け、これに推奨タイヤチェーンを装着してください。

注意

●タイヤチェーンは平らな所で他の交通に十分注意して取り付けてください。
必要に応じて非常点滅表示灯などを使ってください。
●タイヤチェーンを取り付けたときはつぎの速度以下で運転してください。
雪道、凍結路 ……30km／h以下
なお乾燥路面ではタイヤチェーンを装着したままで走行するのは避けてください。チェーンの摩耗を早めます。

## 車の積雪について

屋根に積った雪は、走行する前に取り除いてください。走行時、ガラス面に落下すると、視界の妨げとなり危険です。
氷結している部分を無理に取り除くと塗装などを傷めます。

## ドアの凍結について

ドアが凍結したとき、無理に開けるとドアまわりのゴムがはがれたりするので、湯をかけて氷を溶かしてから開けてください。このとき、沸騰した湯は使わないでください。ソフトトップにかかるとソフトトップクロスを傷める場合があります。
ドアまわりの水分は、凍結防止のためによくふき取ってください。

アドバイス

●ドアキー穴部には、凍結するおそれがあるので、湯をかけないでください。

## ワイパーについて

ワイパーブレード(ゴム部)がガラス面に張りついた状態やガラス面に着氷、積雪した状態でワイパーを動かすと、ワイパーブレードを損傷したり、ワイパーモーターの故障の原因となります。必ず取り除いてから動かしてください。

## 乗車について

靴にこびりついた雪は、乗車時よく落としてください。ペダル類を操作するときに滑ったり、室内の湿気が多くなりガラスが曇ったりすることがあります。

## 滑りやすい路面について

雪道や凍結路では、急加速、急減速、急ブレーキ、急ハンドルを避けてください。横滑りして方向性を失い危険です。

## ブレーキについて

ブレーキ装置に付着した雪や水が凍結し、ブレーキのききが悪くなることがあります。その際には、前後の車に十分注意して、ブレーキペダルを軽く踏みながら低速で走行し、ブレーキのしめりを乾かしてください。

アドバイス

●万一、ブレーキのききが回復しないときは、ただちにホンダプリモ店で点検を受けてください。

## 雪の付着について

雪道走行時、フェンダー裏側に付着した雪が氷結し、次第にたい積してハンドルのきれが悪くなることがあります。
ときどき異常のないことを確認してください。
また、雪道を走った後は足まわりにこびりついた泥、雪は落としてください。
その際、鋭利なものでたたいたりして、車を傷つけないようにしてください。

## パンクについて

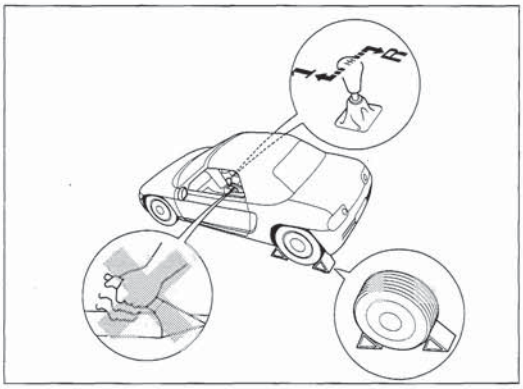
チェーン装着時に後輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを前輪に装着し、外した前輪タイヤを後輪に取り付け、これに推奨タイヤチェーンを装着してください。

## 駐停車について

落雪や積雪の重みで、ソフトトップなどがへこむことがあります。駐停車するときは、軒下や樹木の下などには止めないでください。

## 駐車ブレーキについて

駐車するときは駐車ブレーキ装置の凍結を防ぐため、駐車ブレーキを使わないでください。ギヤを R(後退)か 1 に入れ、輪止めをしてください。



## 駐車方法について

屋外に駐車するときは、エンジンの冷えすぎを防ぐために車の後部を風下や日の当たる方向に向けて止めてください。エンジンが冷えすぎると、始動しにくくなることがあります。
また、ワイパーアームは起こしてください。雪の重みでアームの取り付け部がこわれることがあります。

## 格納について

長期間使わないで屋外に保管しておくときは、ソフトトップや塗装面の保護とドアまわりの凍結を防ぐために、ボディカバーを使ってください。

●エンジン部を毛布で覆ったり、走行時にフロントグリル内側やエンジンルームのエアインレット内側に段ボールや、新聞紙をはさみ込んだりしないでください。
これがもとで燃えだす危険があります。

MEMO

| 項目 | | サービスデータ |
|---|---|---|
| 点火プラグ※1 | タイプ | NGK：BKR6E-11　BKR7E-11<br>ND：K20PR-U11　K22PR-U11 |
| | 電極のすき間(mm) | 1.0〜1.1 |
| 発電機ベルト | たわみ量(mm) | 6.5〜8(約10kgの力) |
| エアコンディショナーベルト | たわみ量(mm) | 6.5〜8(約10kgの力) |
| ブレーキペダル | 遊び(mm) | 1〜10 |
| | 床板とのすき間(mm) | 113以上(約20kgの力) |
| | カーペットとのすき間参考値(mm) | 99以上(約20kgの力) |
| クラッチペダル | 遊び(mm) | 13〜23 |
| | 床板とのすき間(mm) | 74以上(クラッチが切れたとき) |
| | カーペットとのすき間参考値(mm) | 59以上(クラッチが切れたとき) |
| 駐車ブレーキ | 引きしろ | 5〜9ノッチ(約20kgの力) |
| ウォッシャータンク | 容量(ℓ) | 1.2 |
| バッテリー | 容量(Ah) | 24(5) |
| 燃料 | 使用燃料 | 無鉛ガソリン |
| | タンク容量(ℓ) | 24 |

□内は標準装備

※1：ISO(国際標準化機構)規格品を使用しています。のマークがついています。

| 項目 | | サービスデータ |
|---|---|---|
| タイミングベルト※2 | 推奨交換時期 | 100,000kmごと |
| エンジンオイル | 交換時期 | 10,000kmごとまたは6か月ごとのどちらか早い方 |
| | 推奨オイル | ホンダ純正オイルウルトラU(4サイクル四輪車用、API SE級、10W-30)、ホンダ純正オイルウルトラGX(4サイクル四輪車用、API SF級、10W-30)またはホンダ純正オイル ウルトラLTD(4サイクル四輪車用、API SG級、10W-30) |
| | 規定量(ℓ) | 2.5(オイル交換時)、2.7(オイル、オイルフィルター同時交換時) |
| エンジンオイルフィルター | 推奨交換時期 | 20,000kmごと |
| トランスミッションオイル | 交換時期 | 40,000kmごと |
| | 推奨オイル | ホンダ純正オイルウルトラU(4サイクル四輪車用、API SE級、10W-30)またはホンダ純正オイルウルトラMTF |
| | 規定量(ℓ) | 1.2(交換時) |
| 冷却水 | 推奨交換時期 | 2年ごと(第1回目 3年) |
| | 指定液 | ホンダ純正ウルトララジエーター液 |
| | 規定濃度 | 50% |
| | 規定量(ℓ)(交換時エクスパンションタンク0.7ℓ含む) | 4.7 |
| ブレーキ液 | 指定液 | ホンダ純正ブレーキフルード DOT 3またはDOT 4 |
| クラッチ液 | 指定液 | ホンダ純正ブレーキフルード DOT 3 |
| エアクリーナーエレメント | 推奨交換時期 | 40,000kmごと |
| 電球(バルブ) | W(ワット)数 | 前照灯(ハロゲンバルブ)……12V−65/55W<br>前面方向指示器/前面非常点滅表示灯……12V−21W<br>車幅灯……12V−5W<br>側面方向指示器/側面非常点滅表示灯……12V−5W<br>後面方向指示器/後面非常点滅表示灯……12V−21W<br>番号灯……12V−8W<br>制動灯/尾灯……12V−27/5W<br>後退灯……12V−21W<br>室内灯……12V−5W |

※2：推奨交換時期は、運転席ドア開口部のラベルにも表示してあります。
このラベルには、交換実施日とそのときの走行距離が記入されます。

| タイヤサイズ ＼ 項目 | | タイヤ空気圧（空車時：kg/cm²） | | | | *リムサイズ | | タイヤの残溝の深さ（mm） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 前輪 | | 後輪 | | | | |
| | | 一般 | 高速 | 一般 | 高速 | スチールホイール | アルミホイール | |
| 標準タイヤ | 155/65R13 73H | 1.8 | | —— | | 13×4½J | | 1.6以上 |
| | 165/60R14 74H<br>165/60R14 75H | —— | | 2.0 | | 14×5J | | |
| 応急用スペアタイヤ | T115/70 D14 | 4.2 | | | | 14×4T | | |

※：この車専用のホイールをお使いください。
専用以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。
ホイール交換に際しては、必ずホンダプリモ店にご相談ください。

## ア


アシスタントボックス……82
アルミホイール ……120


## イ


イグニッション(エンジン)
　キー……34
　スイッチ……62


## ウ


ウィンドー……36
ウォッシャー液
　スイッチ……65
　補給 ……112
　冬期の整備 ……122
　タンクの容量 ……130
運行前点検……46


## エ


エアクリーナー
　エレメント……115・131
エアコン
　スイッチ……77
　手入れ ……121
　ベルト……121・130
　熱交換器 ……121
　冷媒量 ……122
エクスパンションタンク …48・111
SRSエアバッグシステム
　装置について……70
　警告灯……61
エンジンオイル・フィルター
　交換時期 ……131
　オイル量……49・108・131
　補給 ……110
　冬期の整備 ……122
エンジンキー(キー)……34
エンジンスイッチ……62
エンジンのかけかた……67
エンジンブレーキ……17
エンジンルーム……38


## オ


オイル
　エンジン
　　……(エンジンオイル)参照
　フィルター ……131
　トランスミッション ……131
応急用スペアタイヤ
　スペアタイヤについて……90
　空気圧……51・105・132
　サイズ……51・105・132
オドメーター……57
オーバーヒート……95
温度調節ダイヤル……76


## カ


格納 ……128
カセットボックス……82
ガソリン……(燃料)参照
換気……14
寒冷時の取り扱い ……125


## キ


キー……34


## ク


曇り止め……79
クラッチ
　ペダル……107・130
　液の補給……114・131
車にあった部品の使用 ……124
車の積雪について ……126


## ケ


計器類(メーター)……56
警告灯
　警告灯類……58
　電球切れの点検……61
経済走行 ……125
けん引……87


## コ


工具……85
後写鏡
　点検……53
　使いかた……43
高速道路で故障したとき……87
後退灯
　点検 ……50・109
　電球の交換……98
　W(ワット)数 ……131
故障……86
小物入れ……82

## サ


サービスデータ ……130
サンバイザー……81


## シ


シート……42
シートベルト……13・44
　警告灯……60
室内灯
　使いかた……81
　電球の交換……99
　W(ワット)数 ……131
霜取り・曇り止め
　前面/側面ガラス ……79
ジャッキの取り扱い……89
車幅灯
　点検 ……50・109
　電球の交換……97
　W(ワット)数 ……131
充電警告灯……59
樹脂塗装部品 ……119
純正部品 ……124
照明灯
　室内……81
除湿暖房……79


## ス


水温計……57
スイッチの使いかた……62
スノータイヤ ……126
頭寒足熱暖房……78
スパークプラグ(点火プラグ) …130
スピードメーター……56
スペアタイヤ
　……(応急用スペアタイヤ)参照
滑りやすい路面について ……127


## セ


制動灯
　点検 ……50・109
　電球の交換……98
W(ワット)数 ……131
整備 ……110
積雪・寒冷時の取り扱い ……125
洗車……117・119
前照灯
　点検 ……50・109
　上向き表示灯……58
　スイッチ……63
　上向きと下向きの切り換え……63
　追越合図(パッシング)……63
　W(ワット)数 ……131


## ソ


速度範囲……68
ソフトトップ……26
　開けかた……27
　閉めかた……30
　手入れ ……117


## タ


ターンシグナル
　……(方向指示器)参照
タイヤ
　応急用スペアタイヤ……90
　空気圧……51・105・132
　点検 ……51・105
　交換……91
　位置交換(ローテーション) …114
　チェーン ……126
　スノータイヤ ……126
　サイズ……51・105・132
タコメーター……56
暖房……78


## チ


チェーン ……126
チェンジレバー……68
チャイルドシート……45
駐車
　坂道……20
　積雪、寒冷時の取り扱い ……128
駐車ブレーキ
　点検……53・103・130
　警告灯……60
　操作……66
　積雪、寒冷時の取り扱い ……128


## ツ


ツール(工具)……85


## テ


テールランプ……(尾灯)参照
点火プラグ ……130
電球
　交換……97
　W(ワット)数 ……131
点検
　運行前点検……46
　6か月点検 ……102

## ト


ドア
　施錠・解錠……34
　積雪、寒冷時の取り扱い ……127
ドアミラー……(後写鏡)参照
灯火装置の点検 ……50・109
冬期の整備 ……122
ドキュメントボックス……82
塗装の手入れ ……118
トランク
　開閉……37
トリップメーター……57


## ナ


内外気切り換えボタン……76
内装の手入れ ……120
ナンバープレートの点検……50


## ネ


熱交換器 ……121
燃料
　使用燃料 ……41・130
　補給口……41
　タンク容量 ……41・130
　量の点検……54
　燃料計……57


## ハ


パーキングブレーキ
　……(駐車ブレーキ)参照
排気温警告灯……59
ハイビーム表示灯……58
ハザードランプ
　……(非常点滅表示灯)参照
発炎筒……85
バックミラー……(後写鏡)参照
バックランプ……(後退灯)参照
バッテリー
　バッテリーあがり……95
　液量 ……108
　液の補給 ……113
　端子部の清掃 ……113
　冬期の整備 ……122
　容量 ……130
発電機ベルト……49・109・130
バルブ……(電球)参照
パワーウィンドー……36
パンク
　パンクしたとき……89
　積雪、寒冷時の取り扱い ……127
番号灯
　点検 ……50・109
　電球の交換……99
　W(ワット)数 ……131
反射器……50


## ヒ


PGM-FI警告灯 ……61
ヒーター……78
非常点滅表示灯
　スイッチ……65
　電球の交換……97・98
　W(ワット)数 ……131
尾灯
　点検 ……50・109
　電球の交換……98
　W(ワット)数 ……131
ヒューズ……96
表示灯類……56


## フ


ファンスイッチ……77
フェンダーミラー……(後写鏡)参照
吹き出し風調節ノブ……75
吹き出し口切り換えボタン……77
踏切で動けなくなったとき……86
フューエル……(燃料)参照
プラグ ……130
ブレーキ
　倍力装置……16
　きき具合 ……103
　液量 ……48・104
　ペダル……54・103・130
　警告灯……60
　液の補給……112・131
　積雪、寒冷時の取り扱い ……127
ブレーキランプ……(制動灯)参照


## ヘ


ヘッドライト……(前照灯)参照


## ホ


ホイールサイズ ……132
ホイールの交換について……94
防眩式室内後写鏡……43
芳香剤 ……120
方向指示器
　点検 ……50・109
　表示灯……58
　スイッチ……64
　電球の交換……97・98
　W(ワット)数 ……131
ポジションランプ……(車幅灯)参照
ボンネット……36

## マ

マニュアルトランスミッション
運転のしかた……66
オイル ……131
チェンジレバー……68
万一のとき……83

## ミ

ミラー……(後写鏡)参照

## ム

無線装置……24

## メ

メーター……56

## ユ

油圧警告灯……59
雪の付着について ……127

## ラ

ライセンスランプ……(番号灯)参照
ライトスイッチ……63
ライト類が点灯しないとき……96
ラジエーター……(冷却装置)参照
ラジエーター液……(冷却水)参照
ランプ……(電球)参照

## リ

リザーバータンク
ブレーキ液 ……48・104
クラッチ液 ……114
リムサイズ ……132

## ル

ルームミラー……(後写鏡)参照
ルームランプ……(室内灯)参照

## レ

冷却水
水量……48・109・131
補給……111・131
冬期の整備 ……122
交換時期 ……131
冷却装置の点検……48
冷媒量 ……122
冷房……80

## ロ

6か月点検 ……102

## ワ

ワイパー
スイッチ……64
ブレードラバーの交換 ……116
積雪、寒冷時の取り扱い ……127
ワックスがけ……117・119

お問い合わせ、ご相談はお買い求めのプリモ店もしくは全国共通のフリーダイヤル0120-112010（イイフレアイオ）で下記のお客様相談センターがお受け致します。

本田技研工業株式会社　お客様相談センター

| 地　区 | 郵便番号 | 所　　在　　地 |
|---|---|---|
| 札　幌 | 065 | 北海道札幌市東区本町２条10－2－29 |
| 仙　台 | 983 | 宮城県仙台市若林区六丁の目西町1－10 |
| 東　京 | 107 | 東京都港区南青山２－１－１ |
| 名古屋 | 454 | 愛知県名古屋市中川区五月通4－22 |
| 大　阪 | 572 | 大阪府寝屋川市池田中町2－12 |
| 福　岡 | 811-01 | 福岡県粕屋郡新宮町大字下府字塩出599 |

・所在地が変更になることがありますのでご了承ください。

HONDA
本田技研工業株式会社
東京都港区南青山２－１－１

万一、異常や故障などの不具合が生じた場合は、ホンダプリモ店で点検整備を受けてください。
各所在地、電話番号については、別冊の「サービス網一覧」をご覧ください。

30SS1602
00X30-SS1-6022

KH N N 9503 M
PRINTED IN JAPAN